

大学院保健科学研究院・
大学院保健科学院(医学部保健学科)

年 報

平成29年4月～平成30年3月

北海道大学大学院保健科学研究院
点検・評価室年報編集専門部会
平成30年9月28日発行

目 次

I. 沿革	2
II. 組織	3
III. 管理運営体制	4
IV. 役職員・教職員一覧	
i 役職員・教職員一覧	5
ii 主な研究内容	6
V. 研究活動	
i 業績一覧	14
ii 外部資金等の獲得及び受入状況	78
VI. 教育活動	
i 大学院担当教員一覧	85
ii 保健科学院卒業研究課題一覧	91
iii 保健科学院・医学部保健学科 FD 研修開催状況	95
iv 保健科学セミナー開催状況	96
v 保健科学院 -M.B.A Double Degree	97
vi 保健科学院合同シンポジウム開催状況	99
VII. 社会貢献	
i 公開講座開催状況	100
VIII. 顕彰及び研究助成制度	
i 顕彰制度	101
ii 研究助成制度	102
IX. 中央研究室の活動報告	
i 活動報告書	107
X. 第三期中期目標・中期計画	109

I. 沿革

平成15年10月1日

北海道大学医学部保健学科(看護学専攻,放射線技術科学専攻,検査技術科学専攻,理学療法学専攻,作業療法学専攻)設置

平成16年4月1日

医学部保健学科第1期生入学

平成20年4月1日

北海道大学大学院保健科学研究院(基盤看護学分野,創成看護学分野,医用生体理工学分野,病態解析学分野,機能回復学分野,生活機能学分野)・大学院保健科学院保健科学専攻修士課程(保健科学コース,看護学コース)設置・第1期生入学

平成21年4月1日

大学院保健科学研究院に寄附分野「脳機能画像学分野」設置

平成22年1月1日

大学院保健科学研究院に寄附分野「食品機能解析・保健栄養学(渡辺オイスター)分野」設置

平成22年4月1日

大学院保健科学院保健科学専攻博士後期課程(保健科学コース,看護学コース)設置・第1期生入学

平成22年9月17日

大学院保健科学院博士後期課程設置記念講演会・記念式典・祝賀会举行

平成23年4月1日

北海道大学大学院保健科学研究院(健康科学分野)設置

平成23年5月1日

大学院保健科学研究院に寄附分野「北斗関節機能障害予防学分野」設置

平成23年10月1日

大学院保健科学研究院に健康イノベーションセンター(高度脂質分析ラボラトリー部門,ヘルスネットワークシステム部門)設置

平成24年3月31日

大学院保健科学研究院の寄附分野「脳機能画像学分野」終了

平成24年4月1日

大学院保健科学研究院に保健医療教育研究センター(継続教育開発研究部門,教育改革研究部門)設置

平成25年4月1日

大学院保健科学研究院に健康イノベーションセンター(生体分子・機能イメージング部門)設置
大学院保健科学院(先進医療科学科目群)に連携分野「重粒子医科学分野」設置

平成26年3月28日

大学院保健科学研究院研究棟E棟竣工

平成26年4月30日

大学院保健科学研究院の寄附分野「北斗関節機能障害予防学分野」終了

平成28年9月1日

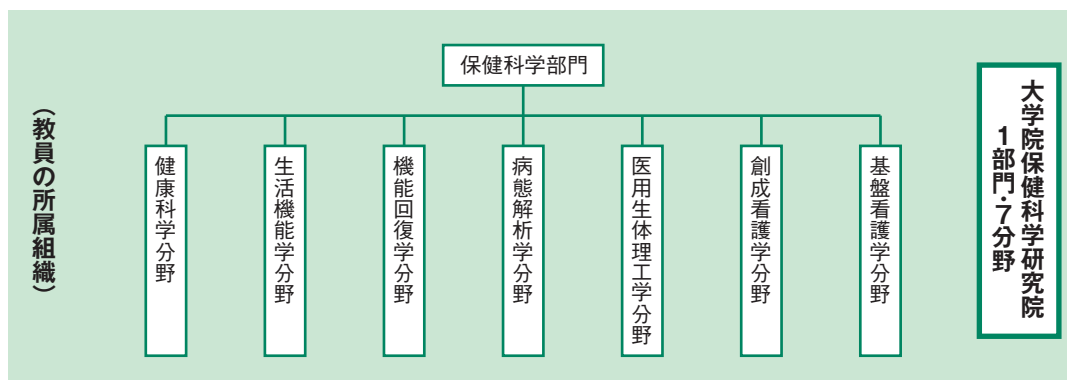
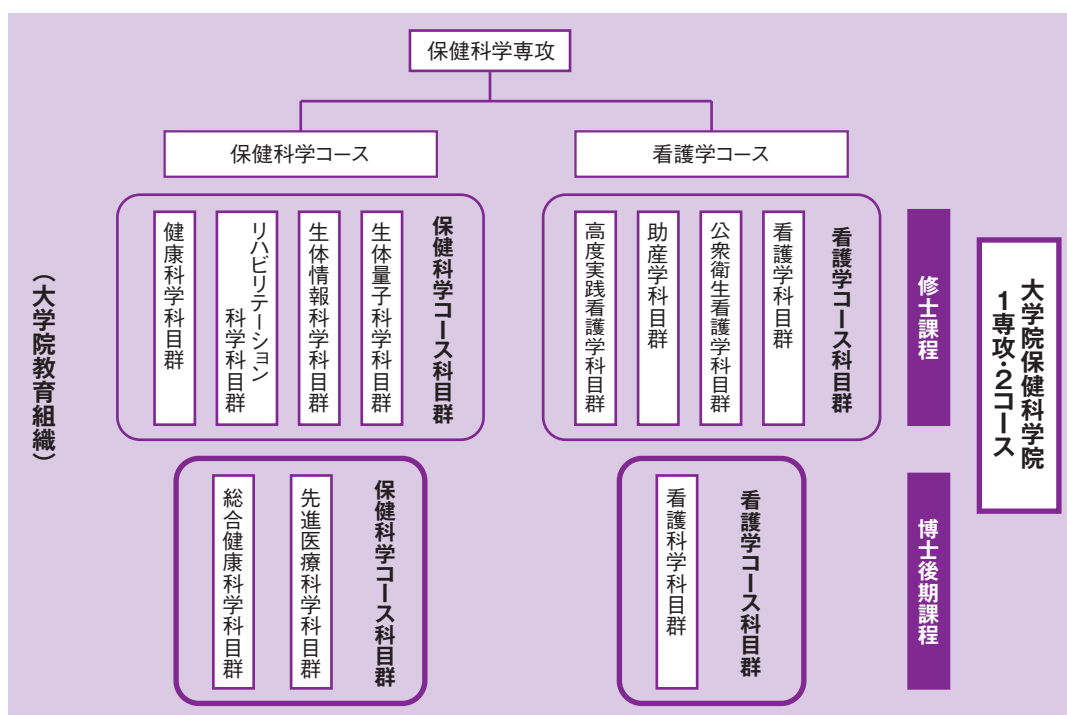
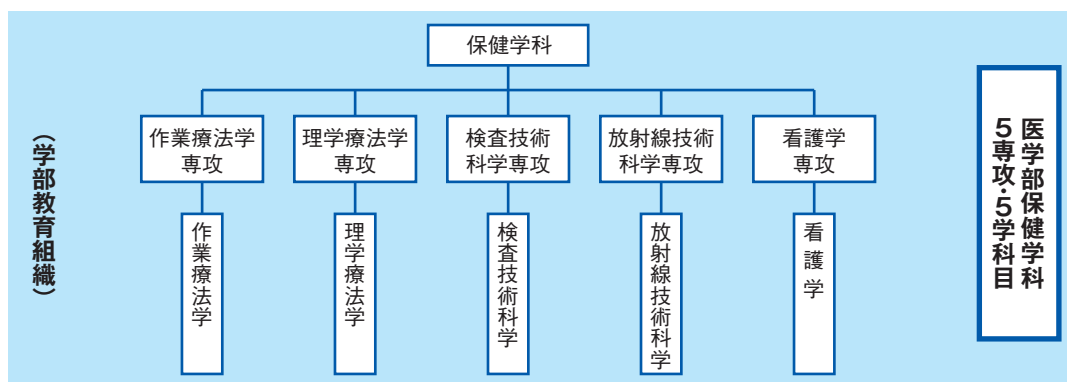
大学院保健科学研究院に寄附分野「生体応答制御医学分野」設置

平成30年1月1日

大学院保健科学研究院に保健医療教育研究センター(病院経営教育プログラム開発部門)設置

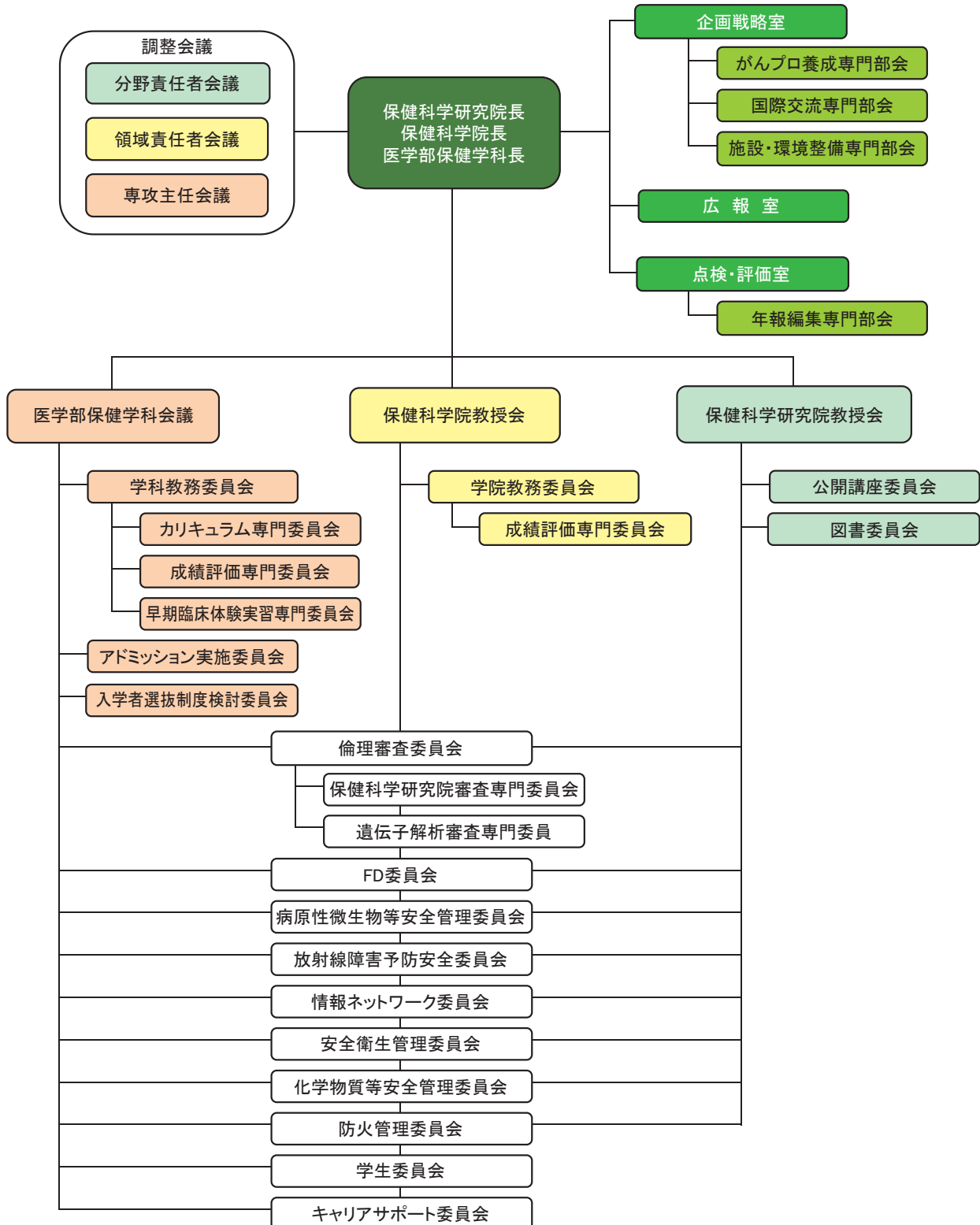
Ⅱ. 組 織

大学院保健科学研究院・大学院保健科学院・医学部保健学科



Ⅲ. 管理運営体制

平成 28 年 5 月 1 日現在



IV. 役職員・教職員一覧

i 役職員・教職員一覧

平成30年3月1日現在

1. 役職員

保健科学研究院長・保健科学院長・医学部保健学科長	齋藤 健	保健科学研究院 研究院長補佐	惠 淑萍
保健科学研究院 副研究院長	遠山 晴一	保健科学研究院 研究院長補佐	尾崎 倫孝
保健科学院 副学院長	小笠原克彦	保健科学院 学院長補佐	山口 博之

2. 教職員一覧

分野等の名称	教授	准教授	講師	助教	特任教員
研究院長付				吉田 一生 譚 慧	
基盤看護学分野	◎ 結城美智子 尾崎 倫孝 矢野 理香	宮島 直子 大槻 美佳 岩本 幹子 鷲見 尚己	溝部 佳代 佐藤 三穂	塚本 美奈 神 繁樹 浅野 真未 吉田 祐子 村田 惠理 下田 智子 平山 憲吾	
創成看護学分野	佐伯 和子 佐川 正 ◎ 佐藤 洋子	野口真貴子 安積 陽子 平野美千代	青柳 道子	進藤ゆかり 水野 芳子 コリ一紀代 高橋 紀子	
医用生体理工学分野	◎ 山本 徹 加藤千恵次 伊達 広行 神島 保 石川 正純		杉森 博行	堤 香織 高木 聡志 唐 明輝 山品 博子	
病態解析学分野	◎ 山口 博之 惠 淑萍 石津 明洋	政氏 伸夫 加賀 早苗	松尾 淳司 櫻井 俊宏	小畑 慶子 古川 貴之 岡田 一範 益田紗季子 大久保寅彦	
機能回復学分野	山中 正紀 浅賀 忠義 遠山 晴一 ◎ 前島 洋	寒川 美奈		笠原 敏史 齊藤 展士 萬井 太規	
生活機能学分野	◎ 傳田 健三 村田 和香 境 信哉			井上 貴雄 高島 理沙	井上 馨 真木 誠
健康科学分野	齋藤 健 横澤 宏一 ◎ 小笠原克彦 山内 太郎	武田 晴治		辻 真太郎 陳 震 趙 瑤 喬 琳	千葉 仁志
76名	25名	11名	6名	31名	3名

分野等の名称	教授	准教授	講師	助教	特任教員
食品機能解析・保健栄養学分野 (寄附分野)					◎ 千葉 仁志 (兼務) 布田 博敏
生態応答制御医学分野 (寄附分野)	◎ 尾崎 倫孝 (兼務)				芳賀 早苗
健康 イノベーション センター	センター長				◎ 千葉 仁志 (兼務)
	高度脂質分析	◎ 惠 淑萍 (兼務)	武田 晴治 (兼務)		
	遠隔健康相談	◎ 小笠原克彦 (兼務)			鈴木 哲平
	生体分子機能	◎ 尾崎 倫孝 (兼務)		浅野 真未 (兼務)	
保健医療教育研究 センター	センター長	◎ 佐藤 洋子 (兼務)			
	継続教育開発 研究部門	◎ 結城美智子 (兼務)	野口真貴子 (兼務)		
	教育改革 研究部門	◎ 佐伯 和子 (兼務)			
	病院経営教育 プログラム開発部門	◎ 小笠原克彦 (兼務)			石川 智基
中央研究室	◎ 尾崎 倫孝 (兼務)			神 繁樹 (兼務)	

※ ◎は分野責任者

ii 主な研究内容

保健科学研究院教員の研究内容

基盤看護学分野

平成30年3月1日現在

職・氏名	主な研究内容
教授 結城美智子	高齢者の介護予防, 在宅療養支援, 災害時の健康支援に関する研究
教授 尾崎 倫孝	肝臓の病態生理, 生体ストレス, 光による生体イメージングに関する研究
教授 矢野 理香	看護技術の成果モデル開発, 熟練看護師の技の可視化と効果に関する研究
准教授 宮島 直子	精神看護技術の開発と効果に関する研究
准教授 大槻 美佳	高次脳機能障害(失語, 失行, 失認)の機能局在とメカニズムに関する研究
准教授 岩本 幹子	臨床における看護倫理の問題に関する研究
准教授 鷺見 尚己	在宅療養生活支援(がん, 慢性疾患), 移行ケア, がん教育に関する研究
講師 溝部 佳代	周術期看護, クリティカルな状況にある患者家族への看護に関する研究
講師 佐藤 三穂	慢性疾患を持つ人の療養支援
助教 神 繁樹	様々なバイオマーカーの研究
助教 浅野 真未	様々な細胞死の肝恒常性維持における役割に関する研究 糖尿病性網膜症の病態解析と予防に関する研究
助教 吉田 祐子	臨床看護師の労働環境と継続教育に関する研究
助教 村田 恵理	老化及び老化関連疾患と酸化ストレスに関する研究
助教 下田 智子	食道癌患者の周術期栄養管理に関する研究
助教 平山 憲吾	化学療法を受けるがん患者の症状とQOLに関する研究

IV. 役職員・教職員一覧

創成看護学分野

平成30年3月1日現在

職・氏名	主な研究内容
教授 佐伯 和子	保健師のキャリア開発（基礎教育と現任教育）
教授 佐川 正	助産師による超音波検査の国際比較
教授 佐藤 洋子	小児の自律性を支援する看護スキルの開発
准教授 野口眞貴子	助産モデルを組み込んだ妊産婦保健対策に関する研究
准教授 安積 陽子	乳幼児の睡眠覚醒リズムと育児ストレスに関する研究
准教授 平野美千代	地域で生活する高齢者への効果的な介護予防プログラムの開発
講師 青柳 道子	がん患者と家族のコミュニケーションに関する研究
助教 進藤ゆかり	慢性疼痛を抱えた在宅療養者，臨床試験患者に関する研究
助教 水野 芳子	地方居住者の健康管理に関する研究
助教 コリー紀代	要ケア児の在宅療養支援，気管内吸引シミュレーターの開発
助教 高橋 紀子	新生児集中治療室から在宅へ移行する患児家族に関する研究

IV. 役職員・教職員一覧

医用生体理工学分野

平成30年3月1日現在

職・氏名	主な研究内容
教授 山本 徹	MRI 画像診断を劣化させないインプラントの開発
教授 加藤千恵次	PET, CT, MRI などの医用画像による病態の定量解析
教授 伊達 広行	生体組織への放射線エネルギー付与解析と影響評価
教授 神島 保	画像による関節リウマチの疾患活動性・関節破壊評価
教授 石川 正純	放射線医学分野における新しい計測技術の開発
講師 杉森 博行	MRI を用いた非侵襲的血流イメージングに関する研究
助教 堤 香織	腫瘍細胞の放射線感受性に関する分子生物学的解析
助教 高木 聡志	医用画像処理を用いた新しい画像検査・診断法の開発
助教 唐 明輝	MR における大脳細動脈機能マッピング法の開発
助教 山品 博子	乳がん検診におけるモダリティ別有用性や運用方法の検討

IV. 役職員・教職員一覧

病態解析学分野

平成 30 年 3 月 1 日現在

職・氏名	主な研究内容
教授 山口 博之	細胞内寄生性難培養性細菌の生存戦略とその分子基盤に関する研究
教授 惠 淑萍	脂質酸化, 抗酸化物質, 脂肪滴, NASH の病態および早期診断に関する研究
教授 石津 明洋	血管炎の発症機序解明と新しい病態診断法および分子標的治療法の開発
准教授 政氏 伸夫	血球の計数および形態検査の定量化に関する研究
准教授 加賀 早苗	心エコーによる心不全の病態解析
講師 松尾 淳司	細胞内寄生細菌の生物学
講師 櫻井 俊宏	リポタンパク質代謝とその酸化に関する研究
助教 小畑 慶子	遺伝性腫瘍・家族性腫瘍に関する研究
助教 古川 貴之	リン脂質に関するケミカルバイオロジー
助教 岡田 一範	スペックルトラッキング心エコー法による心筋機能評価
助教 益田紗季子	好中球細胞外トラップに関する研究
助教 大久保寅彦	細菌と原生生物との微生物間相互作用に関する研究

IV. 役職員・教職員一覧

機能回復学分野

平成30年3月1日現在

職・氏名	主な研究内容
教授 山中 正紀	スポーツ外傷・障害の予防に関する研究
教授 浅賀 忠義	姿勢制御と運動学習に関する研究
教授 遠山 晴一	スポーツ傷害と運動器疾患に関するリハビリテーション科学
教授 前島 洋	運動による高齢者のヘルスプロモーションに関する基礎研究
准教授 寒川 美奈	スポーツ傷害の発生予防と運動療法有効性に関する研究
助教 笠原 敏史	加齢による運動制御の低下とその機序についての研究
助教 齊藤 展士	姿勢学習メカニズムの解明に関する研究
助教 萬井 太規	立位姿勢制御メカニズムの解明および転倒予防プログラムの考案に関する研究

IV. 役職員・教職員一覧

生活機能学分野

平成 30 年 3 月 1 日現在

職・氏名	主 な 研 究 内 容
特任教授 井上 馨	視覚機能障害改善への実験的研究
教授 傳田 健三	児童・青年期の気分障害, 注意欠陥多動性障害, 不安障害, 広汎性発達障害に関する臨床的研究
教授 村田 和香	高齢者に対する作業療法実践の効果研究
教授 境 信哉	脳障害による視覚障害のリハビリテーション
特任助教 真木 誠	重度障害者の障害受容に関する研究
助教 井上 貴雄	精神疾患の認知機能改善療法に関する研究, 児童・青年期の気分障害に関する研究
助教 高島 理沙	作業療法士の専門職アイデンティティ, 作業科学の実践への応用に関する研究
助教 (研究院長付) 吉田 一生	脳損傷後の認知機能障害に対するリハビリテーションに関する研究

IV. 役職員・教職員一覧

健康科学分野

平成 30 年 3 月 1 日現在

職・氏名	主な研究内容
特任教授 千葉 仁志	脂質・リポ蛋白代謝, バイオセンサー, 質量分析, 機能性食品, バイオマーカー
教授 齋藤 健	生命と環境, 疾病の予防, 健康創成
教授 横澤 宏一	脳磁計 (MEG) を用いた脳機能計測の研究
教授 小笠原克彦	医療情報学, 臨床経済学, 医療管理学
教授 山内 太郎	人類生態学, 国際保健学, 世界の子どもの健康・安全・幸福
准教授 武田 晴治	脂質関連分子を物理化学的に評価する方法に関する研究
助教 辻 真太郎	医療情報学, 放射線読影レポートの固有表現抽出に関する研究
助教 陳 震	生理活性脂質定性及び定量分析, リピドミクス
助教 趙 瑤瑤	細胞内単一脂肪滴の脂質分析に関する研究
助教 喬 琳	環境濃度のオゾンに酸化した脂質膜に関する研究
助教 (研究院長付) 譚 慧	食品から新規生理活性成分探索, 機能開発及び作用機構に関する研究

食品機能解析・保健栄養学分野 (渡辺オイスター)

職・氏名	主な研究内容
特任教授 (兼) 千葉 仁志	脂質・リポ蛋白代謝, バイオセンサー, 質量分析, 機能性食品, バイオマーカー
特任教授 布田 博敏	カキによる非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) の予防に関する研究

生体応答制御医学分野

職・氏名	主な研究内容
教授 (兼) 尾崎 倫孝	肝臓の病態生理, 生体ストレス, 光による生体イメージングに関する研究
特任講師 芳賀 早苗	ストレスと細胞の生存・死を制御する分子メカニズム解析に関する研究

IV. 役職員・教職員一覧

健康イノベーションセンター

平成30年3月1日現在

職・氏名	主な研究内容
センター長 特任教授(兼) 千葉 仁志	脂質・リポ蛋白代謝, バイオセンサー, 質量分析, 機能性食品, バイオマーカー
教授(兼) 恵 淑洋	過酸化脂質, 脂肪酸およびプラズマローゲンに関する研究
教授(兼) 小笠原克彦	医療情報学, 臨床経済学, 医療管理学
教授(兼) 尾崎 倫孝	肝臓の病態生理, 生体ストレス, 光による生体イメージングに関する研究
准教授(兼) 武田 晴治	脂質関連分子を物理化学的に評価する方法に関する研究
助教(兼) 浅野 真未	様々な細胞死の肝恒常性維持における役割に関する研究 糖尿病性網膜症の病態解析と予防に関する研究
特任助教 鈴木 哲平	医療情報学, 医療経済学, 医療マーケティング 産学官連携による健康行動変容に関する研究

保健医療教育研究センター

職・氏名	主な研究内容
センター長 教授(兼) 佐藤 洋子	小児の自律性を支援する看護スキルの開発
教授(兼) 結城美智子	高齢者の介護予防, 在宅療養者とその家族へのケアに関する研究
教授(兼) 佐伯 和子	保健師のキャリア開発(基礎教育と現任教育)
教授(兼) 小笠原克彦	医療情報学, 臨床経済学, 医療管理学
准教授(兼) 野口眞貴子	助産モデルを組み込んだ妊産婦保健対策に関する研究
特任助教 石川 智基	医療資源の需給バランスに関する研究

V. 研究活動

i 年度別業績一覧

■業績

■基盤看護学分野

A. 学術論文

1. Haga S, Ozawa T, Morita N, Asano M, Jin, S, Yimin, Ozaki: Photo-Activatable Akt Probe: A New Tool to Study the Akt-Dependent Physiopathology of Cancer Cells. *Oncology Research Featuring Preclinical and Clinical Cancer Therapeutics* 26:467-472, 2018.
2. Haga S, Kanno A, Ozawa T, Morita N, Asano, M, Ozaki M: Detection of Necroptosis in Ligand-Mediated and Hypoxia-Induced Injury of Hepatocytes Using a Novel Optic Probe-Detecting Receptor-Interacting Protein (RIP)1/RIP3 Binding. *Oncology Research Featuring Preclinical and Clinical Cancer Therapeutics* 26:503-513, 2018.
3. Watanabe M, Natsuga K, Nishie W, Kobayashi Y, Bonati G, Suzuki S, Fujimura Y, Tsukiyama T, Ujiie H, Shinkuma S, Nakamura H, Murakami M, Ozaki M, Nagayama M, Watt F, Shimizu H: Type XVII collagen coordinates proliferation in the interfollicular epidermis. *eLife* 6:e26635, 2017.
4. Haga S, Yimin, Ozaki M: Relevance of FXR-p62/SQSTM1 pathway for survival and protection of mouse hepatocytes and liver, especially with steatosis. *BMC Gastroenterology* 17:9, 2017.
5. Yano R, Shimoda T, Watanabe R, Kuroki Y, Okubo T, Nakamura S, Matsuob J, Yoshimura S, Yamaguchi H: Diversity changes of microbial communities into hospital. *Journal of Infection and Chemotherapy* 23:439-445, 2017.
6. Kim K, Hirayama K, Yoshida K, Yano R, Abe M, Otsuki M, Sakuraba S, Sakai S: Effect of exposure to short-wavelength light on susceptibility to motion sickness. *Neuro Report* 28:584-589, 2017.
7. Kagamiyama H, Yano R: A Literature Review of Sleep among Nurses doing Shiftwork. *Journal of Comprehensive Nursing Research* 18:17-27, 2018.
8. Shishido I, Yamaguchi Y, Miyata R, Kutomi S, Yano R: Preliminary study on the effectiveness of different durations of hot towel application to the back during bed bathing. *Open Journal of Nursing* 7:1375-1386, 2017.
9. Detsuka N, Yano R: Fatigue and depression from early postpartum to 1 month among postpartum women with mental disorders. *Open Journal of Nursing* 7:1430-1438, 2017.
10. Suzuki Y, Hirayama K, Shimomura T, Uchiyama M, Fujii H, Mori E, Nishio Y, Iizuka O, Inoue T, Otsuki M, Sakai S: Changes in pupils diameter are correlated with the occurrence of pareidolias in patients with dementia with Lewy bodies. *Neuroreport* 28:187-192, 2017.

V. 研究活動

11. Poudel K, Sumi N: Health behavior regarding cardiovascular disease among Nepali adults. *J of Community health* 42:1240-1246, 2017.
12. Yoshimura M, Sato M, Sumi N: Validity and Reliability of the Japanese Version of the Care Transitions Measure. *J Health Planning and Management* 33:380-390, 2017.
13. Odajina Y, Sumi N: Factors for sense of coherence in adult patients with type 2 diabetes. *Nagoya Journal of Medical Science* 80:61-71, 2018.
14. Sumi N, Sugimura N, Yoshida Y, Yano R: The State of Fatigue and Sleep among Clinical Nurses in Japan. *Open Journal of Nursing* 7:1493-1501, 2017.
15. Poudel K, Sumi N: Awareness of cancer in Asian countries- A review of the literature. *J Comprehensive Nursing Research* 18:3-11, 2017.
16. Matoba K, Hyodoh H, Murakami M, Matoba T, Saito A, Feng F, Jin S: Freezing preparation for macroscopic forensic investigation in putrefied brain. *Legal Med* 26:6-10, 2017.
17. Matoba K, Hyodoh H, Murakami M, Saito A, Matoba T, Ishida L, Fujita E, Yamase M, Jin S: Estimating normal lung weight measurement using postmortem CT in forensic cases. *Legal Med* 29:77-81, 2017.
18. Shimoda T, Suzuki T, Takahashi N, Tsutsumi K, Samukawa M, Yoshimachi S, Goto T, Enomoto H, Kise N, Ogasawara K, Yoshimura S : Nutritional Status and Body Composition of Independently Living Older Adults in a Snowy Region of Japan. *Gerontol Geriatr Med*, 2;3:2333721417706854, (doi: 10.1177/2333721417706854. eCollection), 2017.
19. 齋藤史子, 坂本祐子, 結城美智子: 外来通院する2型糖尿病中年期男性患者の糖尿病に関する心理的負担感の影響要因. *日本慢性看護学会誌* 11:62-69, 2017.
20. 大橋久美子, 縄 秀志, 佐居由美, 矢野理香, 樋勝彩子, 櫻井利江: 国内における「気持ちよさ」をもたらす看護ケアの効果に関する統合的文献レビュー. *日本看護技術学会誌* 16:41-50, 2017.
21. 大槻美佳: 言語における「大脳内側面・底面(眼窩面)」の役割. *神経心理学* 33:229-237, 2017.
22. 大槻美佳: 失語のみかた: よりよい治療・リハビリテーションのために. *神経治療* 34:374-380, 2017.
23. 大槻美佳: 脳損傷からみる言葉のしくみ. *信学技報 IEICE Technical Report* 117:41-43, 2017.
24. 畠山公大, 大槻美佳: 神経免疫疾患の高次脳機能障害. *MB Med REHA No213*:49-53, 2017.
25. 高倉祐樹, 大槻美佳, 中川賀嗣: 左前頭葉損傷による単語指示課題障害の出現機序. *臨床神経心理* 28, 35, 2018.
26. 金 京室, 平山和美, 吉田一生, 矢野理香, 阿部正之, 大槻美佳, 桜庭 聡, 境 信哉: 短波長光への暴露が Motion sickness の感受性に及ぼす影響. *北海道医学雑誌* 93(1), 28, 2017.
27. 辻澤陽平, 中山剛志, 大澤恵留美, 堤 昌恵, 大槻美佳, 佐々木秀直, 生駒一憲: 多系統萎縮症(MSA-C)に対するコミュニケーション訓練 指圧法変法による発声訓練. 第38回 国立大学リハビリテーション療法士学術大会誌 38:9-15, 2017.
28. 緒方昭彦, 大槻美佳, 興水修一, 新保和賢, 遠藤奨吾, 千葉泰弘, 吉野雅美, 青樹 毅, 今村博幸, 小柳 泉, 會田敏光, 浜上尚也: Alzheimer 型認知症の前頭葉機能の解析. 第42回札幌市医師会医学雑誌増刊 No312:7-8, 2017.
29. 吉野雅美, 小柳 泉, 會田敏光, 大槻美佳, 緒方昭彦: Cerebellar cognitive affective disorder の認知機能と画像解析. 第42回札幌市医師会医学雑誌 増刊 No312:13-14, 2017.

V. 研究活動

30. 高倉祐樹, 大槻美佳, 中川賀嗣: 流暢性の失語症学 失構音/発語失行. 神経心理学 34:38-44, 2018.
31. 佐藤日菜, 田口敦子, 永田智子, 山内悦子, 浦山美輪, 戸村ひかり, 鷲見尚己: 特定機能病院における外来看護師による在宅療養支援の実態. 日本地域看護学会誌 20:80-86, 2017.
32. 島田詩絵奈, 小野加奈, 佐藤三穂: 心疾患患者の退院後における QOL に影響する要因の検討. 看護総合科学研究会誌 18:29-36, 2017.
33. 歳桃桃子, 太田瑞菜, 下田智子, 進藤ゆかり: 医療施設で発する音の快・不快評価 音源の確信は音の感じ方に影響するか?. 北海道公衆衛生学雑誌 31:77-84, 2017.
34. 平山憲吾, 濱田珠美: 上皮成長因子受容体チロシンキナーゼ阻害剤による皮膚障害を抱える非小細胞肺癌患者が直面している日常生活への影響. 日本がん看護学会誌 31:181-190, 2017.

B. 著書

1. 矢野理香 (分担): 対象を理解する! 「気づき」を促す教育・指導担当者になろう. 看護現場の OJT 事例 部署内の教育・研修の進め方 (佐藤ひとみ監修). 42-56, 日総研, 名古屋, 2017.
2. 大槻美佳: 錯語の分類と神経基盤. 錯語とジャルゴン. 一般社団法人日本高次脳機能障害学会教育・研修委員会編, 23-40, 新興医学出版社, 東京, 2017.
3. 平山和美, 大槻美佳, 遠藤佳子: 視床失語・線条体失語. 高次脳機能障害の理解と診察. 平山和美編, 44-46, 中外医学社, 東京, 2017.

C. 総説, 解説, 論評

1. 結城美智子: 在宅での家族への抗がん薬の曝露の実態と意識. コミュニティケア, 20(2), 13-17, 2018.
2. 尾崎倫孝, 芳賀早苗, 小澤岳昌, 森田直樹, 浜田俊幸: 光技術を用いた臓器・細胞機能評価と制御. Organ Biology, 24 (2), 87-91, 2017.

D. 報告書

1. 結城美智子: 外来化学療法を受けるがん患者の家族への抗がん薬曝露予防の検討ーバイオリジカルモニタリングを用いた曝露評価ー, 平成 28 年度政策医療振興財団研究助成報告書, 2018.12.
2. 大槻美佳. 巻頭言. 雑感・神経心理学によせて. 東北神経心理, vol6, 2018, 1-2.

E. その他

[受賞]

1. Otsuki M: Best Paper Award, The 18th International Symposium on Advanced Intelligent Systems, 2017. Comparison of Spatiotemporal Brain Activities on Recalling Tetrapod Animals and Fruite Names
2. Otsuki M: High score selected e-poster. WCN 2017 Longitudinal investigation of the symptoms and the imaging findings of NFVPPA: subclassification for nosology.
3. 大槻美佳: 第 8 回言語聴覚研究優秀論文賞 失構音の下位分類とその病態の発現機序について.

[学会研究会の主催]

V. 研究活動

[特許]

[報道]

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

[国内学会]

1. 大槻美佳:「脳損傷による症候から考える言語の脳内機序」. 第59回日本小児神経学会学術集会, 大阪, 2017.6.
2. 大槻美佳:「文の障害にどうアプローチするか」. 第18回日本言語聴覚学会, 松江, 2017.6.
3. 大槻美佳:「進行性非流暢性失語の症候と経過」. 平成29年度第1回全国研修会, 松江, 2017.6.
4. 大槻美佳:「FTLDにおける言語症候」. 第33回神経内科認知症研究会, 名古屋, 2017.7.
5. 大槻美佳:「ブローカ失語と超皮質性運動失語」. 日本高次脳機能障害学会2017年夏期教育研修講座, 京都, 2017.7.
6. 大槻美佳:「脳損傷からみる言葉のしくみ」. 電気音響研究会/応用音響研究会, 札幌市, 2017.7.
7. 大槻美佳:「言語と脳」. 認定言語聴覚士講習会, 東京, 2017, 9.
8. 大槻美佳:「認知機能:認知過程の階層性と機能局在の視点から」. 第8回認知症と周辺症状への取り組みを考える会, 札幌, 2017.10.
9. 大槻美佳:「音韻処理障害のメカニズム」. 第41回日本高次脳機能障害学会学術総会. セミナー「症例に学ぶ」, 大宮, 2017.12.
10. 大槻美佳:「様々な認知症性疾患:‘もの忘れ’以外の症候で鑑別する」. Alzheimer's disease Symposium, 札幌, 2017.11.
11. 大槻美佳:「失語の基礎と臨床, 画像の基礎と見方, 音韻処理障害のメカニズム」, 第6回失語症講演会, 米子, 2018.2.
12. 杉本幸司, 山ノ井高洋, 大槻美佳, 豊島恒, 大西真一, 山崎敏正:「果物名称想起時における脳内勝郎部位についてII. ーイチゴ想起の解析結果追加ー」, 日本知能ファジィ学会ソフトサイエンスワークショップ, 愛知, 2017.3.7-8

[地方会]

1. 大槻美佳:「視覚認知の障害」. 神経心理学セミナー, 札幌, 2017.4.
2. 大槻美佳:「病態失認」. 神経心理学セミナー, 札幌, 2017.5.
3. 大槻美佳:「原発性進行性失語の症候:画像所見も含めて」. 北海道言語聴覚士会主催特別講演, 札幌, 2017.5.
4. 大槻美佳:「言語の症候とその見方」. 第22回新潟神経・言語障害学セミナー, 村上市, 2017.8.
5. 大槻美佳:「原発性進行性失語」. ミニレクチャー, 帯広, 2017.6.
6. 大槻美佳:「画像からみる大脳症候」. 神経心理学セミナー, 札幌, 2017.7.
7. 大槻美佳:「原発性進行性失語の症候とみかた」. 第5回北九州・脳からみた認知症研究会, 小倉, 2018.2.

V. 研究活動

8. 大槻美佳:「読み障害の考え方」. 第22回脳の臨床研究会ミニレクチャー, 札幌, 2018.3.
9. 大槻美佳:「認知症に関する原因疾患と病態・治療」. 認知症看護実践能力向上研修, 札幌, 2017.10.
10. 大槻美佳:「臨床に役立つ失語症の診方」. 第20回浜松リハビリテーションを考える会, 浜松, 2018, 3.
11. 大槻美佳:「脳のふしぎ」. 北海道大学大学院保健科学研究所公開講座2017, 札幌, 2017.11.
12. 鷲見尚己:「がん患者と家族が望む療養生活を支援するために」. 福山医療センターオープンカンファレンス, 福山, 2018.3.
13. 溝部 佳代:「看護研究発表の講評」. 日本手術看護学会北海道地区第52回地区学会, 札幌, 2017.5.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Yuki M, Furuto J, Kawahara K, Suzuki Y: Mental health of life support counsellors 6 years after Fukushima nuclear power plant disaster. International Nursing Research Conference 2017, Bangkok, Thailand, 2017.10.
2. Kawahara K, Hayano K, Yuki M: Development of nursing program using diaphragmatic breathing exercises. International Nursing Research Conference 2017, Bangkok, Thailand, 2017.10.
3. Yuki M, Miyake A, Nakatsumi H, Hirayama K, Ishioka A, Yamashita H, Komatsu Y: Family exposure to cyclophosphamide during outpatient treatment. ESMO ASIA 2017, Singapore, 2017.11.
4. Yuki M, Kawahara K: Health conditions of support staff assisting evacuees after Fukushima Nuclear Power Plant Disaster. WORLD BOSAI FORUM/ IDRC, Sendai, Japan, 2017.11.
5. Izutsu M, Hirayama K, Yuki M: Health risk of elderly people after disaster in Japan. WORLD BOSAI FORUM/ IDRC, Sendai, Japan, 2017.11.
6. Izutsu M, Kawata H, Hirayama K, Yuki M: A community-based study of self-rated health and healthy lifestyle in the elderly. 7th Hong Kong International Nursing Forum, Hong Kong, 2017.11.
7. Hayano K, Kawahara K, Yuki M: The utility of a diaphragmatic breathing exercise program based on the General Health Questionnaire. 7th Hong Kong International Nursing Forum, Hong Kong, Thailand, 2017.11.
8. Sugimura N, Yano R: Development of new audio-visual teaching aid for blood sampling: Enhancing practical performance of nursing students. The Third FHS International Conference, Sapporo, Japan, 2017.7.
9. Yamaguchi S, Yano R: Effect on skin barrier function of application medical tape on skin after hot water immersion. The Third FHS International Conference, Sapporo, Japan, 2017.7.
10. Yasuda K, Yano R: Does fist-clenching promote venodilation during venipuncture?. The Third FHS International Conference, Sapporo, Japan, 2017.7.
11. Kawashima A, Yano R: Association between sleep deprivation and postpartum depression in hospitalized primiparas in Japan. The 5th International Nursing Research Conference, Bangkok, Thailand, 2017.10.
12. Kagamiyama H, Nemoto F, Yano R: The Relationship between Sleep and Cumulative Fatigue in Nurses Engaged in 16-hour Night Shifts: Assessment Using Actigraphy. The 5th International Nursing Research Conference, Bangkok, Thailand, 2017.10.

V . 研究活動

13. Sugimura N, Yasuda K, Yamaguchi S, Kawashima A , Yano R : Skin observation as a risk assessment tool for moderate temperature burns when applying hot compress to the elderly. The 5th International Nursing Research Conference, Bangkok, Thailand, 2017.10.
14. Yamaguchi S, Sugimura N, Yasuda K, Kawashima A, Yano R : The Effect of Hot Compress to the Lumber Region on the Skin Barrier Function of Elderly People. The 5th International Nursing Research Conference, Bangkok, Thailand, 2017.10.
15. Yano R, Sakyō Y, Nawa H, Ohashi K, Hikatsu A, Sakurai T: Effects of alleviation of symptoms in nursing care of that imparts “comfort” as perceived by nurses. The 5th International Nursing Research Conference, Bangkok, Thailand, 2017.10.
16. Yasuda K, Sugimura N, Yamaguchi S, Kawashima A, Yano R: Factors related to changes in skin temperature during the application of hot compress in elderly people. The 5th International Nursing Research Conference, Bangkok, Thailand, 2017.10.
17. Iijima A, Nishimura S, Tsujimura Y, Miyajima N : Effects of self-touch on relieving stress, TNMC & WANS International Nursing Research Conference, Bangkok, Thailand, 2017.10.
18. Nishimura S, Iijima A, Tsujimura Y, Miyajima N : It may be possible to tell if a person is nervous or not, TNMC & WANS International , Nursing Research Conference, Bangkok, Thailand, 2017.10.
19. Yamanoi T, Sugimoto K, Toyoshima H, Otsuki M, Ohnishi S, Yamazaki T.: Comparison of Spatiotemporal Brain Activities on Recalling Tetrapod Animals and Fruit Names. ISIS, Korea, 2017.10.
20. Otsuki M, Nakagawa Y, Kondo K, Houzen H, Hamada S, Tajima Y, Mito Y, Koshimizu S, Ogata A, Ura S, Kuroshima Y, Yoshida K, Yabe I, Sasaki H: Longitudinal investigation of the symptoms and the imaging findings of NFVPPA:: subclassification for nosology. 23rd World Congress of Neurology, Kyoto, Japan, 2017.9.
21. Takakura Y, Otsuki M, Nakagawa Y, Tajima Y, Mito Y, Ogata A, Koshimizu S, Yoshino, Uemori G.: Comparative symptomatology of apraxia of speech/ anarthria: patients with neurodegenerative disease versus cerebrovascular disease. 23rd World Congress of Neurology, Kyoto, Japan, 2017.9.
22. Sugimoto K, Yamanoi T, Toyoshima H, Otsuki M, Ohnishi S, Yamazaki T. Comparison of Spatiotemporal Brain Activities on Recalling Tetrapod Animals and Fruit Names. FSA&SCIS2017, Atus, 2018.6.
23. Yoshimura M, Sumi N: A literature review on transitional care using the text mining method, 21th East Asian Forum of Nursing Scholars, Seoul, Korea, 2018.1.
24. Poudel K, Sumi N: Knowledge and Health beliefs about Cardiovascular Diseases among Nepali restaurant workers in Japan , 21th East Asian Forum of Nursing Scholars, Seoul, Korea, 2018.1.
25. Ogawa M, Sumi N: Review on Cancer and Delirium Using Text Mining Method, 21th East Asian Forum of Nursing Scholars, Seoul, Korea, 2018.1.
26. Kuji S, Mizobe K: The difference that years of experience makes to assessment and nursing care for postoperative pain. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, Japan, 2017.7.
27. Feng F, Hyodoh H, Matoba K, Jin S: Forensic investigation of postmortem process evaluated by GC/MS and CT. 10th International Symposium Advances in Legal Medicine, Dusseldorf, Germany, 2017.9.
28. Poudel K, Noguchi M, Sumi N: Knowledge on Risk Factor of Cancer among Nepal Immigrants in Japan, 3rd International Meeting of Public Health, Indonesia, 2017. 11.

V. 研究活動

[国内学会]

1. 平山憲吾, 松倉里紗, 菊川幸恵, 井筒深紅, 結城美智子: 在宅脳卒中患者を介護する家族の介護状況と介護負担感. 日本在宅ケア学会, 札幌, 2017.7.
2. 菊川幸恵, 松倉里紗, 平山憲吾, 井筒深紅, 結城美智子: 外来通院する脳卒中患者の生活のしづらさと精神的健康. 日本在宅ケア学会, 札幌, 2017.7.
3. 鈴木良香, 古戸順子, 結城美智子: 福島原発事故による避難生活で在宅介護する家族の精神的健康と介護負担感—1年間の追跡調査から—. 日本看護科学学会, 仙台, 2017.12.
4. Watanabe M, Natsuga K, Kobayashi Y, Nishie W, Donati G, Suzuki S, Fujimura Y, Tsukiyama T, Ujiie H, Shinkuma S, Murakami M, Ozaki M, Nagayama M, Fiona. M Watt, Shimizu H: Type XVII collagen regulates proliferation in the interfollicular epidermis. 日本研究皮膚科学会 第42回年次学術大会・総会, 神戸, 2017.12.
5. 芳賀早苗, 菅野 憲, 小澤岳昌, 森田直樹, 浅野真未, 伊 敏, 尾崎倫孝: 肝細胞におけるレドックス依存性ネクロプトーシスの動態解析. ConBio2017, 神戸, 2017.12.
6. 松尾淳司, 芳賀早苗, 大久保寅彦, 中村眞二, 小澤岳昌, 尾崎倫孝, 山口博之: カスパーゼ3プロローブ発現細胞を用いたクラミジア感染宿主細胞内のアポトーシス制御機構の探索: ConBio2017, 神戸, 2017.12.
7. 浅野真未, 芳賀早苗, 柴崎 彩, 黒澤和也, 荘巖哲哉, 尾崎倫孝: ビルベリー抽出物の糖尿病性網膜症発症・進行予防効果に関する基礎的研究, ConBio2017, 神戸, 2017.12.
8. 芳賀早苗, 荘巖 哲哉, 伊 敏, 森田 直樹, 浅野 真未, 尾崎 倫孝: マウス脂肪化肝細胞・脂肪肝に対するビルベリーの抑制効果の検討. 第38回日本肥満学会, 大阪, 2017.10.
9. 尾崎倫孝, 芳賀 早苗, 伊 敏: 肝核内受容体 FXR は p62/SQSTM1 および SHP を経由して, それぞれ抗酸化・細胞保護効果, 脂肪化抑制効果を示す. 第24回肝細胞研究会, 旭川, 2017.6.
10. 芳賀早苗, 荘巖哲哉, 伊 敏, 森田直樹, 浅野真未, 尾崎倫孝: 脂肪化肝細胞・脂肪肝に対するビルベリーの効果とその機序の検討. 第24回肝細胞研究会, 旭川, 2017.6.
11. 山口真弥, 矢野理香: 医療用テープを温湯浸漬後の皮膚に使用した場合の皮膚バリア機能への影響. 日本看護技術学会第16回学術集会, 東京, 2017.10.
12. 矢野理香, 丸山朱美, 宮永喜美子, 鈴木美幸, 杉村直孝, 安田佳永, 山口真弥, 河嶋亜衣, 平舘ありさ, 菱沼典子: 高齢者への腰背部温罨法の安全性の検証: 皮膚状態および皮膚温の経時的変化. 日本看護技術学会第16回学術集会, 東京, 2017.10.
13. 加藤木真史, 加藤京里, 吉良いずみ, 久賀久美子, 田中美智子, 塚越みどり, 縄秀志, 菱沼典子, 細野恵子, 丸山朱美, 矢野理香: 使ってみませんか? 排便パターン分類フローチャート—2週間のデータに基づき排便状況をアセスメントする—. 日本看護技術学会第16回学術集会, 東京, 2017.10.
14. 安田佳永, 佐藤早紀, 杉村直孝, 榎本常子, 矢野理香: 静脈穿刺時に血管怒張を促す有効な手技の検証(第1報)—タッピングと熟練看護師の動作から抽出されたマッサージの比較—. 日本看護技術学会第16回学術集会, 東京, 2017.10.
15. 佐藤早紀, 安田佳永, 杉村直孝, 榎本常子, 矢野理香: 「静脈穿刺時に血管怒張を促す有効な手技の検証(第2報)—血管怒張効果に関連する要因の検討—. 日本看護技術学会第16回学術集会, 東京, 2017.10.
16. 杉村直孝, 矢野理香: 看護学生を対象とした看護技術教育に関する研究の動向とその課題. 日本看護技術学会第16回学術集会, 東京, 2017.10.

V. 研究活動

17. 細野恵子, 菱沼典子, 縄秀志, 加藤木真史, 吉良いずみ, 田中美智子, 丸山朱美, 加藤京里, 矢野理香, 平澤ちよみ, 塚越みどり: 排便パターン分類フローチャート改訂版の妥当性に関する検討. 日本看護技術学会第16回学術集会, 東京, 2017.10.
18. 細野恵子, 加藤京里, 菱沼典子, 縄秀志, 矢野理香, 加藤木真史, 丸山朱美, 久賀久美子, 田中美智子, 塚越みどり, 吉良いずみ: 排便パターン分類フローチャート改訂版 Ver.2 の妥当性に関する検討. 日本看護技術学会第16回学術集会, 東京, 2017.10.
19. 樋勝彩子, 縄秀志, 佐居由美, 矢野理香, 大橋久美子, 櫻井利江: 「気持ちよさ」をもたらす看護ケアに対する看護師の認識—全国調査の分析その1—. 日本看護技術学会第16回学術集会, 東京, 2017.10.
20. 塚本美奈, 宮島直子: 認知症高齢者の気持ちや行動を引き出すかわり—ケア場面でのかわりと反応に焦点をあてて—. 日本精神保健看護学会第27回学術集会, 札幌, 2017.6.
21. 大槻美佳, 中川賀嗣, 水戸康紀, 田島康敬: 統合型視覚失認の機序. 第41回日本神経心理学会総会, 東京, 2017.10.
22. 辻澤陽平, 高倉祐樹, 生駒一憲, 大槻美佳: 脳梁損傷による左手の特異な書字障害: 仮名置換の発現機序について. 第18回日本言語聴覚学会, 松江市, 2017.6.
23. 三浦祐一, 高倉祐樹, 大槻美佳, 杉原俊一: 運動動作を区切ることで小字傾向と文字形態の歪みに改善を認めた錐体外路症状を伴わない Micrographia の一例. 第41回日本高次脳機能障害学会学術総会, さいたま, 2017.12.
24. 今城良太, 高倉祐樹, 大槻美佳: 文字—音韻変換の連続的な処理にて仮名1文字の音読が困難であった音韻失読の1例. 第41回日本高次脳機能障害学会学術総会, さいたま, 2017.12.
25. 一条晋伍, 藪貴代美, 大槻美佳: 文字カードと絵カードの仕分けができない前頭葉内側面の梗塞を呈した1例—呈示する情報の質からの考察—. 第41回日本高次脳機能障害学会学術総会, さいたま, 2017.12.
26. 杉本幸司, 山ノ井高洋, 大槻美佳, 豊島恒, 大西真一, 山崎敏正: 四足動物および果物の名称黙読想起時におけるヒト脳内活動の相違について. 日本知能ファジィ学会, 山形, 2017.9.
27. 石岡明子, 青柳道子, 溝部佳代, 林みゆき, 本間美恵, 高橋久美子, 佐藤ひとみ: 院内認定がん看護エキスパートナースの認定2年後における自信と役割発揮との関連. 第32回日本がん看護学会学術集会, 千葉, 2018.2.
28. 青柳道子, 石岡明子, 溝部佳代, 林みゆき, 本間美恵, 高橋久美子, 佐藤ひとみ: 院内認定がん看護エキスパートナースの自信と役割発揮の変化—2年間の継続調査—. 第32回日本がん看護学会学術集会, 千葉, 2018.2.
29. 兵頭秀樹, 的場光太郎, 村上 学, 的場智子, 齊藤厚子, 馮 飛, 神 繁樹: 腐敗脳に対する凍結処理による肉眼的観察の実験的検討. 第101次日本法医学会学術全国集会, 岐阜, 2017.6.
30. 的場光太郎, 兵頭秀樹, 村上 学, 的場智子, 齊藤厚子, 馮 飛, 神 繁樹: 法医解剖における腐敗した脳の肉眼的観察のための凍結処理法の開発. 第101次日本法医学会学術全国集会, 岐阜, 2017.6.
31. 村井 毅, 神 繁樹, 伊藤麻里, 根本英幸, 藤田 仁, 堀江裕紀子, 東 達也, 池川 繁男: LC/ESI-MS/MS による玄米発酵食品 (FBRA) 中ステリルグルコシド定量法の開発. 日本薬学会第138年会, 金沢, 2018.3.
32. Asano M, Haga S, Shibazaki A, Kurosawa K, Sogon T, Ozaki M: A basic study of the preventive effects of bilberry extracts on diabetic retinopathy. 生命科学系学会合同年次大会, 神戸, 2017.12.

V. 研究活動

33. コリー紀代, 清水弘美, 大塚健, 金井理, 近野敦, 二宮伸治, 浅賀忠義, 小水内俊介, 萬井太規, 村田恵理, 高橋望, 井上創造:「気管内吸引技術の量的評価の試み:Dynamic Time Warping を用いた分析結果から」. 第34回医工学治療学会学術大会, 大宮, 2018.3.
34. 寒川美奈, 鈴木哲平, 下田智子, 堤 香織, 高橋紀子, 高島理沙, 辻真太朗, 村田和香, 良村貞子, 小笠原克彦: 高齢女性における尿失禁と立ち上がり機能の関係性について. 日本未病システム学会学術総会 24回, 横浜, 2017.11.
35. 鈴木哲平, 榎本尚司, 永井 亘, 森山広行, 後藤輝明, 黄瀬信之, 下田智子, 寒川美奈, 小笠原克彦: ベイジアンネットワークを用いた豪雪地域住民の下肢筋力と生活習慣に関する因果関係の可視化. 第37回医療情報学連合大会, 第18回日本医療情報学会学術大会, 大阪, 2017.11.
36. 本間陽子, 鹿内三起子, 小山田玲子, 下河原みゆき, 船木典子, 山谷敦子, 鷺見尚己, 矢野理香: 臨床看護研究における研究計画書審査チェックリスト作成の試みと課題, 第48回日本看護学会看護管理学術集会, 札幌, 2017.10.
37. 若村智子, 尾崎章子, 鏡山浩美, 鷺見尚己, 長嶋俊輔, 堀田佐知子, 矢野理香, 山下真琴, 吉田祐子: 生体リズムを看護に活用する, 第37回日本看護科学学会学術集会, 仙台, 2017.12.
38. 鏡山浩美, 矢野理香: 16時間夜勤を行う看護師におけるアクチグラフによる睡眠リズムの実態調査, 第37回日本看護科学学会学術集会, 仙台, 2017.12.

[地方会]

1. 齋藤希, 平山憲吾, 井筒深紅, 結城美智子: 老人福祉センターを利用する高齢者の認知症に対する認識と予防行動. 日本老年医学会北海道地方会, 札幌, 2017.6.
2. 塚本美奈, 宮島直子: 神経性やせ症患者在院後の生活における食事や食べ物に関するストレスの体験. 第21回看護総合科学研究会学術集会, 札幌, 2017.10.
3. 辻村祐香, 飯島彩花, 西村さなえ, 宮島直子: マスク着用時の笑顔度の研究. 第21回看護総合科学研究会学術集会, 札幌, 2017.10.
4. 新保和賢, 輿水修一, 大槻美佳, 緒方昭彦: Young-onset パーキンソン病2症例の検討. 第97回北海道医学大会神経分科会, 札幌, 2017.9.
5. 輿水修一, 新保和賢, 大槻美佳, 緒方昭彦: 臨床症状, 心筋 MIBG, DATscan ではパーキンソン病 (PD) に合致する所見を呈するが, IMP 訂正 SPECT ではアルツハイマー病 (AD) 様の血流低下をみせる1例. 札幌核医学症例検討会, 札幌, 2018.3.
6. 今城良太, 高倉祐樹, 大槻美佳: 文字—音韻変換の連続的な処理にて仮名1文字の音読が困難であった音韻失読の1例. 第22回脳の臨床研究会, 札幌, 2018.3.
7. 小川万梨野, 鷺見尚己: 海外論文におけるがん患者のせん妄と在宅療養との関連に関する文献検討, 第21回看護総合科学研究会学術集会, 札幌, 2017.10.
8. 佐藤三穂: 糖尿病患者のセルフケアに影響を与える要因. 第3回北大・部局横断シンポジウム. 札幌, 2018.1.
9. 藤田凌平, 早坂孝宏, 神 繁樹, 星野洋一郎: ハスカップとミヤマウグイスカグラの種間雑種におけるアントシアニンの改変 —イメージング質量分析とLC/MS/MSによる果実の成分分析—. 第21回日本質量分析学会北海道談話会・研究会, 札幌, 2017.10.

V. 研究活動

10. 藤田瑛美, 山世真由美, 兵頭秀樹, 的場光太郎, 神 繁樹: GC/MS を用いた尿中酪酸の定量と死後腐敗度との関係. 第 21 回日本質量分析学会北海道談話会・研究会, 札幌, 2017.10.

■業績

創成看護学分野

A. 学術論文

1. Hoshi Y, Sasaki C, Yoshida K, Sato Y, Kato M, Sakuraba S, Sawamura D, Sakai S: Milestones for Communication Development in Japanese Children with Spinal Muscular Atrophy Type I, *Journal of Health Sciences* No.14 : 115 – 120, 2017.
2. Hirano M, Saeki K, Ueda I: Development of a social activities scale for community-dwelling older men requiring support in Japan. *Health* 2018:1-12, 2018.
3. Honda H, Kawaharada M, Shindo Y, Tanaka R, Nakajima A, Nimura Y : Social capital in Japan: What characteristics do public health nurses see in their communities? *Japan journal of nursing science* 13 : 1-11, 2017.
4. Colley, N: Comparison of procedure time among types of endotracheal suctioning methods for disaster situations. *Therapeutics & Engineering* 29(3) : 135-141, 2017.
5. Shimoda T, Suzuki T, Takahashi N, Tsutsumi K, Samukawa M, Yoshimachi S, Goto T, Enomoto H, Kise N, Ogasawara K, Yoshimura S.:Nutritional Status and Body Composition of Independently Living Older Adults in a Snowy Region of Japan.*Gerontol Geriatr Med.* 2017.
6. Colley, N., Cashin, A: Controlling medicalization and Nurse Practitioner roles. *Journal of Higher Education and Lifelong Learning* 25:1-12, 2018.
7. 秋元彩花, 山川恵里奈, 伊藤由美, 藤田和佳子, 佐川 正 : 北海道の助産師外来における超音波検査の使用に関する実態調査. *北海道産科婦人科学会誌* 61(1) : 23-32, 2017.
8. 秋元彩花, 伊藤由美, 藤田和佳子, 佐川 正 : 北海道の助産外来担当助産師に対する超音波検査に関する教育の実態と助産師が望む教育内容. *母性衛生* 58(2) :461-469, 2017.
9. 中村 真弥, 安積 陽子 : 授乳に関連した乳頭トラブルの定義や評価方法に関する文献検討 . *日本母乳哺育学会雑誌* 11:3-18, 2017.
10. 澤谷美奈, 佐伯和子, 平野美千代 : 若年認知症の配偶者を介護する家族介護者の地域を基盤とした人とのつながり一家族の会参加者を通じて一. *日本地域看護学会誌* 20(3):26-34, 2017.
11. 大西竜太, 平野美千代, 佐伯和子 : 3 歳児の養育における統制場面でのスマートフォン使用に関する母親. *日本公衆衛生看護学会誌* 6:240-248, 2017.
12. 宮田莉英, 平野美千代, 佐伯和子 : 都市部在住高齢者の介護予防教室への参加意義と生活への認識の関連. *日本公衆衛生看護学会誌* 6:249-257, 2017.
13. 平野美千代, 佐伯和子, 本田光, 水野芳子 : 実習施設との協働による実践能力向上を目指した修士課程における公衆衛生看護学実習構築のプロセス : 学士課程をもとに再構築した実習 . *日本公衆衛生看護学会誌* 6 : 288-296, 2017.
14. 李 雪麗, 佐伯和子, 青柳道子 : 大都市における介護リーダーの職業性ストレスと関連要因. *日本在宅ケア学会誌* 21 : 52-60, 2017.
15. 仁村優希, 佐伯和子, 青柳道子 : 大都市における高齢者の見守られ意向と見守られたい相手. *日本公衆衛生看護学会誌* 6 : 268-277, 2017.

V. 研究活動

16. コリー紀代, 清水弘美, 萬井太規, 浅賀忠義: 気管内吸引反復施行時の習熟度別動作変動性, 医工学治療 30(1):53-59, 2017.
17. 河原田まり子, 本田光, 田仲里江, 進藤 ゆかり: 地域保健活動の推進に活用できるソーシャル・キャピタル測定尺度の開発, 日本公衆衛生看護学会誌 6: 132-140, 2017.
18. 中島彩華, 青柳道子, 平野美千代: 都市部の民生委員における地域子育て支援行動の実態とその関連要因. 北海道公衆衛生学雑誌 31:59-67, 2018.
19. 田中美咲, 三國弓香, 大市美希, 高嶋裕里子, 勝藤瞳, 佐々木龍, 平野美千代: 北海道上川地域に居住する前期高齢者の社会的孤立とソーシャルキャピタル, 運動との関連. 北海道公衆衛生学雑誌 31:69-76, 2018.
20. 歳桃晴子, 太田瑞菜, 下田智子, 進藤ゆかり: 医療施設で発生する音の快・不快評価. 北海道公衆衛生学雑誌 31: 77-91, 2018
21. 田仲里江, 本田光, 進藤 ゆかり, 河原田まり子: 地域保健活動におけるソーシャル・キャピタルの醸成を意図した保健師活動. 北海道公衆衛生学雑誌 31: 93-99, 2018.
22. 柴田茉祐, 吉田有希, 古森若葉, 鈴木真美, 中谷圭甫, 水野芳子: 中山間地域住民の外出による歩行の実態と歩行に関連する要因. 北海道公衆衛生学雑誌 31:137-141, 2018.

B. 著書

1. 佐藤洋子 (分担): 第 1 章 5 看護における法律. 33-38, 小児看護学概論 子どもと寄り添う援助 (二宮啓子他編集) 改訂第 3 版. 南江堂, 東京, 2017.
2. コリー紀代 (分担): 高度実践看護～統合的アプローチ～ (江川幸二, 中村美鈴監訳). へるす出版, 東京, 2017.

C. 総説, 解説, 論評

1. 安積 陽子: 【子どもの眠りの最新事情】子どもたちの眠りを守るさまざまな立場から 助産師 昼寝はどうすべき (神山潤編). チャイルドヘルス, 20:747-749, 診断と治療社, 2017.
2. 大木幸子, 表志津子, 桑原ゆみ, 鈴木美和, 平野美千代, 藤井広美, 荒木田美香子: 看護師教育課程における地域看護学教育に関する調査. 保健師教育 1:40-51, 2017.
3. 佐伯和子, 平野美千代: 地域アセスメントにおける質的データ活用の意義. 保健師ジャーナル 73:556-560, 2017.

D. 報告書

1. 野口真貴子, 高橋紀子, 藤田和佳子, 安積陽子, 高室典子: 札幌市産後ケア事業を利用した女性の認識. 北海道助産師会受託研究報告書, 2017
2. 安積陽子, 野口真貴子, 高橋紀子: 北海道農村部で子産み子育てする女性における医療アクセスとソーシャル・キャピタル. 平成 28 年度助成研究論文集, 15-36, 北海道開発協会開発調査総合研究所, 札幌, 2017.
3. 小澤美和, 内野聖子, 水野芳子, 他: 在宅死を迎えた利用者遺族が求める退院支援と情報提供. 松陰大学文化教育研究所 6:132-136.

V. 研究活動

E. その他

[受賞]

1. 多田紗弥子, 安積陽子: 若年女性の水分摂取量と月経痛との関連, 第47回北海道母性衛生学会学術集会, ベストプレゼンテーション賞
2. 本田光, 平野美千代, 佐伯和子, 水野芳子: 地域の人々との交流がない母親の「地域とのつながり」意識の実態, 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会, 優秀演題賞

[学会研究会の主催]

1. コリー紀代: 第1回ひと支援技術学会第1回学術大会「人々の健康とQOL向上を目指した異分野コミュニケーション」, 2017年2月9日, 札幌市

[特許]

1. コリー紀代: 気管内吸引技術学習装置 2017年4月 P2016-116-JP01 国立大学法人北海道大学

[報道]

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Noriyo Colley: Professional reconstruction in nursing to support technology-dependent children at home. The third FHS International Conference, Sapporo, July 7, 2017.

[国内学会]

[地方会]

B) 一般演題

[国際学会]

1. Sato Y, Miyazaki M: Child Abuse and Medical Treatment in Japan- Trends of Legislation Concerning Medical Neglect, ICN Congress 2017, Barcelona, Spain, 2017, 5.
2. Ito Y, Yoshimura S, Sagawa T, Akimoto S: Positive effects of occurrence ratio of perineal laceration based on freestyle delivery positions. 31st ICM Triennial Congress, Toronto, Canada, 2017.6.18-22
3. Noguchi M, Matsui M: The practical difficulties about respectful midwifery care in Cambodia. The 31st ICM Triennial Congress, Toronto, Canada, 2017.6.
4. Asaka Y: The association between witnessing the birth and the father's housework and childcare behavior at one-month postpartum. 31st ICM Triennial Congress, Toronto, Canada, 2017, 6.
5. Asaka Y: Association between postnatal paternal depression and social support in Japan: a cross-sectional, correlational study. 31st ICM Triennial Congress, Toronto, Canada, 2017, 6.

V . 研究活動

6. Nakaya S, Nagai N, Sagawa T. Ultrasonography performed by midwives in different countries. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, Japan, 2017.7.
7. Araki M, Takahashi N, Noguchi M: A literature review of postpartum care in Japan. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, Japan, 2017. 7.
8. Yamashita M, Noguchi M: The Factors affecting Cervical Cancer Screening Rate in the United States, The 3rd FHS International Conference, Sapporo, Japan, 2017. 7.
9. Arita A, Katsufuji H, Abe H, Fujihira M, Hirano M: First report of the actual situation of elderly who volunteer in the community: The associations between interaction with friends and life satisfaction. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, Japan, 2017.7.
10. Katsufuji H, Arita A, Abe H, Fujihira M, Hirano M: Second report of the actual situation of elderly who volunteer in the community: The relationship with social capital. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, Japan, 2017.7.
11. Sasaki R, Honda H, Hirano M, Mizuno Y: The correlation between mothers' skills in developing relationships with people and contribution awareness of community development through child-rearing. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, Japan, 2017.7.
12. Wang Y, Saito H, Hirano M, Ukawa S, Tamakoshi A, Kondo K: Types of exercise performed by elderly people in northern Hokkaido, Japan. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, Japan, 2017.7.
13. Kawakami R, Takahashi N, Asaka Y: How does a man become a father? – A literature review of paternal role attainment-. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, Japan, 2017.7.
14. Matusi M, Asaka Y: Association between postnatal paternal depression and social support in Japan: a cross-sectional, 1 study. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, Japan, 2017.7.
15. Tada S, Asaka Y: The relationship between water intake and menstrual pain in young women.
16. Nakamura M, Asaka Y: An observational study about early changes in nipple tissue caused by breastfeeding. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, Japan, 2017.7.
17. Michiko Miyazaki, Yukari Watanabe, Yoko Sato: Protection for Sexual Violence Victims and Changes to Law, 23rd World Congress on Medical Law, Baku, Azerbaijan, 2017, 7.
18. Noguchi M, Murayama Y, Kume M, Harada M, Iizuka Y: The Meal Valance of Japanese Mothers whose BMI Classification is Underweight, The 21st International Epidemiological Association (IEA) World Congress of Epidemiology (WCE 2017), Saitama, Japan, 2017.8.
19. Iizuka Y, Noguchi M, Murayama Y, Kume M, Harada M: Mothers' dietary intake and behaviors in Japan, The 21st International Epidemiological Association (IEA) World Congress of Epidemiology (WCE 2017), Saitama, Japan, 2017, 8.
20. Honda H, Hirano M, Saeki K, Mizuno Y: Relationship-building Ability of Mothers Experiencing Parenting Isolation. The 7th international conference on community health nursing research, Johannesburg, South Africa, 2017.9.
21. Ueda I, Okada N, Yokoyama M, Hirano M, Saeki K, Kawaharada M: A literature review of father competency required during prenatal period. 37th Asia-Pacific Nursing and Medicare Summit, Osaka, Japan, 2017.10.

V. 研究活動

22. Aoyanagi M, Terui R: Feelings of difficulty among nursing clinical instructors regarding home care nursing practice. TNMC & WANS International Nursing Research Conference 2017, Bangkok, Thailand, 2017.10.
23. Yumi Yamazaki, Aya Hoshino, Noriyo Colley: Sleep evaluation and usefulness using wearable activity trackers: A pilot study. TNMC & WANS International Nursing Research Conference, Bangkok, Thailand, 2017.10.
24. Poudel K, Noguchi M, Sumi N: Knowledge on Risk factor of Cancer among Nepal Immigrants in Japan, 3rd International Meeting of Public Health, Indonesia, 2017.11.
25. Aoyangai M, Shindo Y: Situation patterns that require nursing intervention in the relationships among patients with terminal cancer, their immediate families, and relatives. The 7th Hong Kong International Nursing Forum, Hongkong, China, 2017.12.
26. Wang Y, Saito H, Hirano M, Ukawa S, Tamakosh A, Kondo K: Relationships of exercise type to attributes and cognitive social capital among older individuals in northern Hokkaido, Japan. 21th East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conference, Seoul, Korea, 2018.1.
27. Yamamoto E, Hirano M, Murata W: Independence in life of patients with Parkinson's disease and progressing symptoms receiving home care. 21th East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conference, Seoul, Korea, 2018.1.
28. Saito H, Wang Y, Hirano M, Ukawa S, Tamakosh A, Kondo K: Relationship between the risk of incident functional disability for depression in the elderly and the presence of social support in Hokkaido, Japan. 21th East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conference, Seoul, Korea, 2018.1.
29. Saeki K, Mizuno Y, Hirano M, Honda H: Continuous Home Visits and self-evaluation among Novice Public Health Nurses. 21th East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conference, Seoul, Korea, 2018.1.
30. Mizuno Y, Saeki K, Hirano M, Honda H: Leaders' evaluation of the status of home visits by novice public health nurses. 21th East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conference, Seoul, Korea, 2018.1.
31. Shindo Y, Aoyanagi M, Iwasaki S, Yamakage M: Lived experience of chronic non-cancer pain patients receiving opioid therapy in Japan. 21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conferences, Seoul, Korea, 2018.1.
32. Takeda S, Saeki K, Mizuno Y: Group Cohesiveness and Related Factors Affecting Community Organizations for Older Adults. 21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conference, Seoul, Korea, 2018.1.

[国内学会]

1. 加藤ももこ, 二宮伸治, 浅河美早紀, コリー紀代: 気管内吸引三法における接触感染経路の比較～接触箇所と接触面積の数値化から～, 日本医工学治療学会第33回学術集会, 島根, 2017.4.

V. 研究活動

2. 中川 真智子, 太田 英伸, 長沖 優子, 島袋 林秀, 安積 陽子, 高橋 紀子, 中澤 貴代, 森岡 圭太, 伊藤 詩菜, 大石 芳久, 平田 倫生, 星野 絵里, 長 和俊, 草川 功, 與田 仁志: 幼児の夜間睡眠に対する昼寝の影響について. 第 59 回日本小児神経学会学術集会, 大阪, 2017.6.
3. 太田 英伸, 中川 真智子, 安積 陽子, 兼次 洋介, 大石 芳久, 星野 絵里, 平田 倫生, 小澤 美和, 長 和俊, 草川 功, 與田 仁志: 胎児と新生児の発達 脳保護の次に来るもの 早産児の光環境と睡眠. 第 59 回日本小児神経学会学術集会, 大阪, 2017.6.
4. 三村枝里子, 佐藤洋子: 在宅重症心身障害児の母親のQOLの要因に関する検討 - ソーシャル・サポートとQOLの実態と関連, 日本小児看護学会第 27 回学術集会, 京都, 2017.8.
5. 野口真貴子, 村山より子, 久米美代子, 原田通予, 飯塚幸恵: 幼児とその母親の食習慣の関連に関する文献検討, 第 16 回日本ウーマンズヘルス学会学術集会, 東京, 2017.8.
6. 本田光, 佐伯和子, 平野美千代, 水野芳子: 乳幼児をもつ母親の「地域とのつながり」と個人属性との関連. 日本地域看護学会 第 20 回学術集会, 別府市, 2017.8.
7. 佐伯和子, 水野芳子, 平野美千代, 本田光: 新人保健師の入職 5～8 か月期の家庭訪問の実態 (第 1 報) —訪問件数と自己評価—. 日本地域看護学会第 20 回学術集会, 別府市, 2017.8.
8. 水野芳子, 佐伯和子, 平野美千代, 本田光: 新人保健師の入職 5～8 か月期の家庭訪問の実態 (第 2 報) —指導者からの評価—. 日本地域看護学会第 20 回学術集会, 別府市, 2017.8.
9. 小水内俊介, 近野敦, 金井理, 二宮伸治, 浅賀忠義, 高橋望, コリー紀代: 看護シミュレータ開発におけるプロジェクションマッピング/拡張現実による視覚呈示の課題. 第 5 回日本シミュレーション医療教育学会, 東京, 2017.9.
10. コリー紀代, 清水弘美, 高橋望, 小水内俊介, 近野敦, 金井理, 二宮伸治, 大塚健, 浅賀忠義: 熟練看護師の視線計測による気管内吸引オントロジーの構築. 第 49 回日本医学教育学会, 札幌, 2017.9.
11. 二宮伸治, コリー紀代, 小水内俊介, 近野敦, 金井理, 高橋望, 浅賀忠義: 痰吸引トレーニングシミュレータのための痰吸引量およびカテーテル接触荷重リアルタイム計測装置の開発. 第 5 回日本シミュレーション医療教育学会, 東京, 2017.9.
12. 寒川 美奈, 鈴木 哲平, 下田 智子, 堤 香織, 高橋 紀子, 高島 理沙, 辻 真太郎, 村田 和香, 良村 貞子, 小笠原 克彦: 高齢女性における尿失禁と立ち上がり機能の関係性について. 第 24 回日本未病システム学会学術総会, 横浜, 2017.10.
13. 仲谷紗稀, 中山志保, 佐藤 瞳, 高橋香帆, 長井菜摘, 伊藤由美, 佐川 正: 英語論文レビューによる諸外国の助産師が行う超音波検査に関する調査. 第 58 回日本母性衛生学会, 神戸, 2017.10.
14. 松原 芽郁, 安積 陽子: 産後 1 ヶ月の母親の疲労感と育児肯定感の関連. 第 58 回日本母性衛生学会総会・学術集会, 神戸, 2017.10.
15. 安積 陽子, 高橋 紀子, 松原 芽郁, 松井 春菜: 北海道農村部に居住する妊産婦における医療アクセスの実態 分娩時の医療アクセスに関する検討. 第 58 回日本母性衛生学会総会・学術集会, 神戸, 2017.10.
16. 安積 陽子, 高橋 紀子, 松原 芽郁, 松井 春菜: 北海道農村部に居住する妊産婦における医療アクセスの実態 妊婦健診の受診に関する検討. 第 58 回日本母性衛生学会総会・学術集会, 神戸, 2017.10.
17. 平野美千代, 佐伯和子, 上田泉: 要支援認定を受けた男性高齢者の社会活動尺度の開発 予備調査. 第 76 回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島市, 2017.11.
18. 佐伯和子, 水野芳子, 平野美千代, 本田光: 新人保健師の入職 9～12 か月期の家庭訪問の実態 訪問件数と自己評価. 第 76 回日本公衆衛生学会総会, 鹿児島市, 2017.11.

V. 研究活動

19. Noriyo Colley: Quantitative evaluation of expert nurses' endotracheal suctioning procedures using eye trajectory. The 37th Annual Conference of Japan Academy of Nursing Sciences, Sendai, Japan, 2017.12.
20. 平野美千代, 佐伯和子, 水野芳子, 本田光: 入職1年目の保健師を指導するプリセプターの指導に対する思い 縦断調査の結果から. 第6回日本公衆衛生看護学会, 大阪市, 2018.1.
21. 本田光, 平野美千代, 佐伯和子, 水野芳子: 「地域の人々との交流の無い母親の「地域とのつながり」意識の実態. 第6回日本公衆衛生看護学会, 大阪市, 2018.1.
22. 有田愛莉, 阿部弥喜, 勝藤瞳, 藤平みのり, 平野美千代: 札幌市に居住するシニアボランティアの社会とのつながりに関連する要因 第1報. 第6回日本公衆衛生看護学会, 大阪市, 2018.1.
23. 阿部弥喜, 平野美千代, 有田愛莉, 勝藤瞳, 藤平みのり: 札幌市に居住するシニアボランティアの社会とのつながりに関連する要因 第2報. 第6回日本公衆衛生看護学会, 大阪市, 2018.1.
24. 佐伯和子, 水野芳子, 平野美千代, 本田光: 新人保健師の入職1年間の家庭訪問技術の発達プロセス (第1報). 第6回日本公衆衛生看護学会, 大阪市, 2018.1.
25. 水野芳子, 佐伯和子, 平野美千代, 本田光: 新人保健師の入職1年間の家庭訪問技術の発達プロセス (第2報). 第6回日本公衆衛生看護学会, 大阪市, 2018.1.
26. 竹田汐里, 佐伯和子, 水野芳子: 地域サロンにおける参加者の組織コミットメントと関連要因. 第6回日本公衆衛生看護学会学術集会. 大阪市, 2018.1.
27. 平野美千代, 和泉京子, 岡本玲子, 和泉比佐子, 安齋由貴子, 伊藤美樹子, 内山有子, 蔭山正子, 北岡英子, 斉藤恵美子, 巽あさみ. 日本公衆衛生看護学会編集委員会企画 学会誌投稿推進セミナー入門編: 原稿の書き方を伝授します!. 第6回日本公衆衛生看護学会, 大阪市, 2018.1.
28. 青柳道子, 石岡明子, 溝部佳代, 林みゆき, 本間陽子, 本間美恵, 高橋久美子, 佐藤ひとみ: 院内認定がん看護エキスパートナースの自信と役割発揮の変化—2年間の継続調査—, 日本がん看護学会, 千葉市, 2018, 2.
29. 石岡明子, 青柳道子, 溝部佳代, 林みゆき, 本間陽子, 本間美恵, 高橋久美子, 佐藤ひとみ: 院内認定がん看護エキスパートナースの認定2年後における自信と役割発揮との関連, 日本がん看護学会, 千葉市, 2018, 2.
30. 野口真貴子, 高橋紀子, 藤田和佳子, 安積陽子, 高室典子: 札幌市産後ケア事業を利用した女性の認識. 第32回日本助産学会学術集会, 横浜市, 2018.3.
31. 安積陽子, 野口真貴子, 高橋紀子: 北海道農村部で子産み子育てする経験とソーシャル・キャピタルの実態. 第32回日本助産学会学術集会, 横浜市, 2018.3.
32. 中村真弥, 安積陽子: 「乳頭損傷の所見の種類と特徴」の信頼性の検討, 第32回日本助産学会. 横浜市, 2018.3.
33. 中澤貴代, 安積陽子: 助産師学生が行うバースレビューの内容と教育的関わりに関する検討. 第32回日本助産学会, 横浜市, 2018.3.
34. コリー紀代, 清水弘美, 大塚健, 金井理, 近野敦, 二宮伸治, 浅賀忠義, 小水内俊介, 萬井太規, 村田恵理, 高橋望, 井上創造: 気管内吸引技術の量的評価の試み: Dynamic Time Warping を用いた分析結果から. 第34回医工学治療学会学術大会, 大宮, 2018.3.

V. 研究活動

[地方会]

1. コリー紀代, 星野綾, 山崎有美: 重症心身障害児ケアを提供する道内の振興局別事業所数と今後の課題. 北海道小児保健研究会平成 29 年学術集会, 札幌, 2017.5.
2. 中川 真智子, 太田 英伸, 長沖 優子, 島袋 林秀, 安積 陽子, 高橋 紀子, 中澤 貴代, 森岡 圭太, 伊藤 詩菜, 大石 芳久, 平田 倫生, 星野 絵里, 長 和俊, 草川 功, 與田 仁志: 幼児の夜間睡眠に対する昼寝の影響について, 第 11 回子どもの眠り研究会, 大阪, 2017.6.
3. 多田紗弥子, 安積陽子: 若年女性の水分摂取量と月経痛との関連. 第 47 回北海道母性衛生学会学術集会, 札幌, 2018.6.
4. 神谷貴音 真田暁音 新山理奈 豊池挙人 佐藤洋子: 在宅で障害児を介護する母親の睡眠の実態と介護負担の関連, 看護総合科学研究会第 22 回学術集会, 札幌, 2017, 10.
5. 加藤博美, 野口眞貴子, 小野洋, 小林国之: 美農村地域に暮らす女性の通院実態の解明, 第 21 回看護総合研究会学術集会, 札幌, 2017.10.
6. 有田愛莉, 平野美千代: 吃音がある児に関わる中で母親が抱く思い. 第 69 回北海道公衆衛生学会, 札幌市, 2017.11.
7. 平野美千代, 佐伯和子, 上田泉: 要支援男性高齢者の社会活動の目的と属性および生きがい意識との関連. 第 69 回北海道公衆衛生学会, 札幌市, 2017.11.
8. 横田彩美, 天野久, 相良圭, コリー紀代, 二宮伸治: 安全な喀痰吸引のための気道内自走デバイスの試作及び性能評価, 第 7 回中四国臨床工学技士会, 広島, 2017.12.

■業績

医用生体理工学分野

A. 学術論文

1. Tha KK, Katscher U, Yamaguchi S, Stehning C, Terasaka S, Fujima N, Kudo K, Kazumata K, Yamamoto T, Van Caueren M, Shirato H: Noninvasive electrical conductivity measurement by MRI: a test of its validity and the electrical conductivity characteristics of glioma. *Eur Radiol* 28:348-355, 2018.
2. Murakami Y, Sakai S, Takeda K, Sawamura D, Yoshida K, Hirose T, Ikeda C, Mani H, Yamamoto T, Itoh A: Autistic traits modulate the activity of the ventromedial prefrontal cortex in response to female faces. *Neurosci Res* in press DOI 10.1016/j.neures.2017.11.003
3. Tang M, Oshinomi K, Ishizaka K, Tha KK, Yamamoto T: Dependence of scan parameters on nerve fiber crossing depiction in diffusion spectrum imaging in clinical practice. *J Comput Assist Tomogr* in press DOI: 10.1097/RCT.0000000000000715
4. Aikawa T, Naya M, Obara M, Manabe O, Tomiyama Y, Magota K, Yamada S, Katoh C, Tamaki N, Tsutsui H. Impaired Myocardial Sympathetic Innervation Is Associated with Diastolic Dysfunction in Heart Failure with Preserved Ejection Fraction: 11C-Hydroxyephedrine PET Study. *J Nucl Med*. 784-790. 2017
5. Abiko K, Ikoma K, Shiga T, Katoh C, Hirata K, Kuge Y, Kobayashi K, Tamaki N. I-123 iomazenil single photon emission computed tomography for detecting loss of neuronal integrity in patients with traumatic brain injury. *EJNMMI Res*. Dec;7(1):28. doi: 10.1186/s13550-017-0276-1. Epub 2017
6. Manabe O, Naya M, Aikawa T, Obara M, Magota K, Kroenke M, Oyama-Manabe N, Hirata K, Shinyama D, Katoh C, Tamaki N. PET/CT scanning with 3D acquisition is feasible for quantifying myocardial blood flow when diagnosing coronary artery disease. *EJNMMI Res*. 2017 Dec;7(1):52. doi: 10.1186/s13550-017-0296-x. Epub 2017
7. Magota K, Shiga T, Asano Y, Shinyama D, Ye J, Perkins AE, Maniowski PJ, Toyonaga T, Kobayashi K, Hirata K, Katoh C, Hattori N, Tamaki N. Scatter Correction with Combined Single-Scatter Simulation and Monte Carlo Simulation Scaling Improved the Visual Artifacts and Quantification in 3-Dimensional Brain PET/CT Imaging with 15O-Gas Inhalation. *J Nucl Med*. Dec;58(12):2020-2025.2017
8. Aikawa T, Naya M, Obara M, Oyama-Manabe N, Manabe O, Magota K, Ito YM, Katoh C, Tamaki N. Regional interaction between myocardial sympathetic denervation, contractile dysfunction, and fibrosis in heart failure with preserved ejection fraction: 11C-hydroxyephedrine PET study. *Eur J Nucl Med Mol Imaging*.:1897-1905. 2017
9. Shiga T, Suzuki A, Sakurai K, Kurita T, Takeuchi W, Toyonaga T, Hirata K, Kobashi K, Katoh C, Kubo N, Tamaki N. Dual Isotope SPECT Study With Epilepsy Patients Using Semiconductor SPECT System. *Clin Nucl Med*. :663-668. 2017
10. Manabe O, Kroenke M, Aikawa T, Murayama A, Naya M, Masuda A, Oyama-Manabe N, Hirata K, Watanabe S, Shiga T, Katoh C, Tamaki N. Volume-based glucose metabolic analysis of FDG PET/CT: The optimum threshold and conditions to suppress physiological myocardial uptake. *J Nucl Cardiol*. 2017 Dec 14. doi: 10.1007/s12350-017-1122-6. [Epub ahead of print]

V . 研究活動

11. Hiroshima Y, Manabe O, Naya M, Tomiyama Y, Magota K, Obara M, Aikawa T, Oyama-Manabe N, Yoshinaga K, Hirata K, Kroenke M, Tamaki N, Katoh C. Quantification of myocardial blood flow with ¹¹C-hydroxyephedrine dynamic PET: comparison with ¹⁵O-H₂O PET. *J Nucl Cardiol*. 2017 Dec 21. doi: 10.1007/s12350-017-1140-4. [Epub ahead of print]
12. Yusuke Matsuya, Kohei Sasaki, Yuji Yoshii, Go Okuyama and Hiroyuki Date: Integrated Modelling of Cell Responses after Irradiation for DNA-Targeted Effects and Non-Targeted Effects. *Scientific Reports* (in press) 0.1038/s41598-018-23202-y
13. R. Mori, Y. Matsuya, Y. Yoshii, H. Date: Estimation of the radiation-induced DNA double-strand breaks number considering cell cycle and absorbed dose per cell nucleus. *J. Radiat. Res.* 2018 (pp. 1-8), <https://doi.org/10.1093/jrr/rrx097>
14. Ryo Takagi, Yuriko Komiya, Kenneth L. Sutherland, Hiroki Shirato, Hiroyuki Date and Masahiro Mizuta: Comparison of the average surviving fraction model with the integral biologically effective dose model for an optimal irradiation scheme. *J. Radiat. Res.* Vol. 59, No. S, i32-i39 (2018), doi: 10.1093/jrr/rrx084
15. Y. Matsuya, T. Kimura, H. Date: Markov chain Monte Carlo analysis for the selection of a cell-killing model under high-dose-rate irradiation. *Med. Phys.* 44 (10): 5522-5532 (2017).
16. H.N.E. Surniyantoro, Y. Lusiyanti, T. Rahardjo, D. Tetriana, S. Nurhayati and H. Date: Polymorphism of XRCC1 Gene Exon 6 (Arg194Trp) in Relation to Micronucleus Frequencies in Hospital Radiation Workers. *I-AIBPA 2017* (2017), <http://ajj.batan.go.id/public/aibpa/>
17. Sakano R, Saito K, Kamishima T, Nishida M, Horie T, Noguchi A, Kono M, Sutherland K, Atsumi T: Power Doppler signal calibration in the finger joint between two models of ultrasound machine: a pilot study using a phantom and joints in patients with rheumatoid arthritis. *Acta Radiol* 58:1238-1244,2017
18. Ichikawa S, Kamishima T, Sutherland K, Kasahara H, Shimizu Y, Fujimori M, Yasojima N, Ono Y, Kaneda T, Koike T: Semi-Automated Quantification of Finger Joint Space Narrowing Using Tomosynthesis in Patients with Rheumatoid Arthritis. *J Digit Imaging* 30:369-375, 2017
19. Kono M, Kamishima T, Yasuda S, Sakamoto K, Abe S, Noguchi A, Watanabe T, Shimizu Y, Oku K, Bohgaki T, Amengual O, Horita T, Atsumi T: Effectiveness of whole-body magnetic resonance imaging for the efficacy of biologic anti-rheumatic drugs in patients with rheumatoid arthritis: A retrospective pilot study. *Mod Rheumatol* 27:953-960, 2017
20. Yasuda S, Ohmura K, Kanazawa H, Kurita T, Kon Y, Ishii T, Fujieda Y, Jodo S, Tanimura K, Minami M, Izumiyama T, Matsumoto T, Amasaki Y, Suzuki Y, Kasahara H, Yamauchi N, Kato M, Kamishima T, Tsutsumi A, Takemori H, Koike T, Atsumi T: Maintenance treatment using abatacept with dose reduction after achievement of low disease activity in patients with rheumatoid arthritis (MATADOR) - A prospective, multicenter, single arm pilot clinical trial. *Mod Rheumatol* 27:930-937, 2017
21. Wada Y, Kamishima T, Shimamura T, Kawamura N, Yamashita K, Sutherland K, Takeda H: Pre-operative volume rather than area of skeletal muscle is a better predictor for post-operative risks for respiratory complications in living-donor liver transplantation. *Br J Radiol* 90:20160938, 2017

V . 研究活動

22. Ichikawa S, Kamishima T, Sutherland K, Fukae J, Katayama K, Aoki Y, Okubo T, Okino T, Kaneda T, Takagi S, Tanimura K: Computer-Based Radiographic Quantification of Joint Space Narrowing Progression Using Sequential Hand Radiographs: Validation Study in Rheumatoid Arthritis Patients from Multiple Institutions. *J Digit Imaging* 30:648-656, 2017
23. Fujimori M, Nakamura S, Hasegawa K, Ikeno K, Ichikawa S, Sutherland K, Kamishima T: Cartilage quantification using contrast-enhanced MRI in the wrist of rheumatoid arthritis: cartilage loss is associated with bone marrow edema. *Br J Radiol* 90:20170167, 2017
24. Noumura Y, Kamishima T, Sutherland K, Nishimura H: Visceral adipose tissue area measurement at a single level: can it represent visceral adipose tissue volume? *Br J Radiol* 90:20170253, 2017
25. Kobayashi Y, Kamishima T, Sugimori H, Ichikawa S, Noguchi A, Kono M, Iiyama T, Sutherland K, Atsumi T: Quantification of hand synovitis in rheumatoid arthritis: Arterial mask subtraction reinforced with mutual information can improve accuracy of pixel-by-pixel time-intensity curve shape analysis in dynamic MRI. *J Magn Reson Imaging*. 2018 Mar 1. doi: 10.1002/jmri.25995. [Epub ahead of print]
26. Fujimori M, Kamishima T, Kato M, Seno Y, Sutherland K, Sugimori H, Nishida M, Atsumi T: Composite assessment of power doppler ultrasonography and MRI in rheumatoid arthritis: a pilot study of predictive value in radiographic progression after one year. *Br J Radiol*. 2018 Mar 22:20170748. doi: 10.1259/bjr.20170748.
27. Kato K, Kamishima T, Kondo E, Onodera T, Ichikawa S: Quantitative knee cartilage measurement at MR imaging of patients with anterior cruciate ligament tear. *Radiol Phys Technol* 10:431-438, 2017
28. Onuma T, Kamishima T, Shimamura T, Kawamura N, Yamashita K, Sutherland K, Takeda H: Longitudinal CT study of sarcopenia due to hepatic failure after living donor liver transplantation. *Quant Imaging Med Surg*. 2018 Feb;8(1):25-31. doi: 10.21037/qims.2018.01.07.
29. 小島秀樹, 瀧上誠, 浅野友洋, 畑中康弘, 相澤一宏, 石川正純: 線量率変化を伴う Dynamic MLC IMRT の MLC 速度制御法における投与線量誤差に関する考察. *日本放射線技術学会雑誌* 73-5:382-388, 2017.
30. 石川 正純: IVR 術施行中のリアルタイム被ばく線量測定を試み. *日本インターベンショナルラジオロジー学会誌* 32-4: 19-25, 2018.
31. Suzuki Y, Fujima N, Ogino T, Meakin JA, Suwa A, Sugimori H, Van Cauteren M, van Osch MJP: Acceleration of ASL-based time-resolved MR angiography by acquisition of control and labeled images in the same shot (ACTRESS). *Magn Reson Med* 2018 79:224-233, 2018.
32. Sugimori H, Fujima N, Suzuki Y, Hamaguchi H, Ishizaka K, Kudo K: Fast acceleration of ASL-based time-resolved magnetic resonance angiography by acquisition of control and labeled images in the same shot (fast ACTRESS): An optimization study. *Magn Reson Imaging* 43:136-143, 2017.
33. Tsutsumi K, Matsuya Y, Sugahara T, Tamura M, Sawada S, Fukura S, Nakano H, Date H: Inorganic polyphosphate enhances radio-sensitivity in a human non-small-cell lung cancer cell line, H1299. *Tumour Biology*, 39(6):1010428317705033. doi: 10.1177/1010428317705033. 20107
34. Matsuya Y, Tsutsumi K, Sasaki K, Yoshii Y, Kimura T, Date H: Modeling cell survival and change in amount of DNA during protracted irradiation. *J Radiat Res.*, 1;58(3):302-312. doi: 10.1093/jrr/rrw110. 2017

V. 研究活動

35. Shimoda T, Suzuki T, Takahashi N, Tsutsumi K, Samukawa M, Yoshimachi S, Goto T, Enomoto H, Kise N, Ogasawara K, Yoshimura S: Nutritional Status and Body Composition of Independently Living Older Adults in a Snowy Region of Japan. Gerontol Geriatr Med. 2017 May 2;3:2333721417706854. doi: 10.1177/2333721417706854. eCollection 2017
36. Tang M, Oshinomi K, Ishizaka K, Tha KK, Yamamoto T: Dependence of Scan Parameters on Nerve Fiber Crossing Depiction in Diffusion Spectrum Imaging in Clinical Practice. J Comput Assist Tomogr (in press)
37. Suzuki T, Isomi Y, Tsuji S, Tani Y, Tanikawa T, Yamasina H, Ogasawara K: Penetration factors and introduction possibility for image diagnostic equipment. Health Policy and Technology 2018.

B. 著書

1. 山本 徹 (分担) : 第3章 MRの物理と数学の基礎知識. MR撮像技術学(笠井俊文, 土井 司編). 133-155, 381-384, オーム社, 東京, 2017.
2. 神島 保 (分担編著): 関節リウマチの画像診断 診断の基本から鑑別診断まで メディカルサイエンス インターナショナル, 2017
3. 石川正純 (分担) : がん・放射線療法 2017 改訂第7版(大西洋, 唐澤久美子, 唐澤克之 編・著). 228-234, 学研メディカル秀潤社, 東京, 2017.
4. 杉森博行: フルカラーCGで学ぶX線撮影のポジショニングとテクニック. 1-231, メジカルビュー社, 東京, 2018

C. 総説, 解説, 論評

1. 山本 徹: MRI 適合性シミュレーション—金属インプラントによるアーチファクトと発熱—. バイオマテリアル 35:166-172, 2017.
2. 神島 保: 全身MRIによる関節リウマチの評価, Source: 分子リウマチ治療. 11巻1号 21-24, 2018
3. 神島 保: 手関節尺側部痛の画像診断, 関節外科 36巻8号 802-807, 2017
4. 神島 保: 脊椎の感染症, 画像診断 37巻10号 1041-1048, 2017
5. 山品博子: 世界見聞録 私が見た医療. 月刊新医療 516:26, 2017.

D. 報告書

1. 山品博子: 2016年度タイ保健医療体験入門プログラム. 名古屋大学学術機関リポジトリ. 2017. https://nagoya.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=25718

E. その他

[受賞]

1. Travel Award ERRS-GBS-2017 Application of the IMK model to cell survival curves following the exposure to intensity modulated radiation fields (伊達広行, 共著者)
2. 第60回大会日本放射線影響学会優秀演題発表賞 Investigation of cell survival under protracted exposure for various dose rates in consideration of cell cycle distribution (伊達広行, 共著者)

V. 研究活動

3. CyPos 賞 Excellent Student Award. 第73回日本放射線技術学会総会学術大会 DNA damage estimation model based on the cell cycle and statistical variation of radiation energy deposition (伊達広行, 共著者)
4. 第46回北海道ヘリカルCT研究会 優秀演題賞 Scout 画像を用いた SSDE 算出における補正係数 CF の基礎的検討 (伊達広行, 共著者)
5. The 1st Annual Competition of International Atom Indonesia Best Paper Awards 2017 (I-AIBPA 2017), 2nd Winner Polymorphism of XRCC1 Gene Exon 6 (Arg194Trp) in Relation to Micronucleus Frequencies in Hospital Radiation Workers. (伊達広行, 共著者)

[学会研究会の主催]

[特許]

1. HEAT EMISSION DISTRIBUTION INFORMATION GENERATING DEVICE AND METHOD, MAGNETIC RESONANCE IMAGING DEVICE, AND PROGRAM 山本 徹, 小林勇太 2017.12.5 USP 9,835,704 国立大学法人北海道大学
2. シンチレータの発光減衰時定数の測定方法, その測定装置およびシンチレータの賦活材濃度の測定方 石川正純, 小川原亮 2017/11/28 特願 2017-227688 国立大学法人北海道大学

[報道]

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Yamamoto T. Analysis of Fluctuation in Cerebral Venous Oxygenation Using MR Imaging: Quantitative Evaluation of Vasomotor Function of Arterioles. The 6th International Congress on Magnetic Resonance Imaging, Seoul, Korea, 2018.3.
2. Date H: Cell response modeling for radiation exposure based on DNA damage kinetics. Annual Meeting TMPS at Bangkok, Thai, 1/17-19,2018
3. Tang M: Evaluation of arteriolar vasomotion by using MRI. The third FHS International Conference, Sapporo, 2017.7.

[国内学会]

1. 山本 徹: What Medical Physics Promotes in Radiology. Joint Symposium 1: What Should We Do for Reaching the Summit and the Horizon of Radiology?, JRC 2017, 横浜, 2017.4.14.
2. 山本 徹: MRI 装置のハードウェア. 第23回講演会「MRI 安全性 安全性 の考え方」, 東京, 2018.3.17.

[地方会]

1. Yamashina H. Improving Health in Global South: Role of Japan. Symposium on Sustainable Society and Health, Hokkaido, Japan, 2017.10.

V . 研究活動

B) 一般演題

[国際学会]

1. Tang M, Nishi K, Yamamoto T. Quantitative cerebral arteriolar vasomotor function mapping by spectral analysis of time series MR signal fluctuations. International Society for Magnetic Resonance in Medicine 25th Annual Meeting and Exhibition, Honolulu, USA, 2017.4. (Proc. Intl. Soc. Magn. Reson. Med. 25: 4257.)
2. Taguchi M, Yamamoto T. Relaxation time shortening by oxygen molecules: Strong enhancement in a viscous solution with cellular viscosity. International Society for Magnetic Resonance in Medicine 25th Annual Meeting and Exhibition, Honolulu, USA, 2017.4. (Proc. Intl. Soc. Magn. Reson. Med. 25:1928.)
3. Masuyama K, Taguchi M, Yamamoto T. Strong enhancement of relaxivity of gadolinium contrast agent in solution with intracellular viscosity: Quantitative estimation of the deposited contrast agent in the brain. International Society for Magnetic Resonance in Medicine 25th Annual Meeting and Exhibition, Honolulu, USA, 2017.4. (Proc. Intl. Soc. Magn. Reson. Med. 25:5573.)
4. Haruyama T, Tang M, Teramura K, Yamamoto T. Electromagnetic simulation of heating in an RF burn injury during MRI examinations. The 8th Japan-Korea Joing Meeting on Medical Physics, Osaka, 2017.9. (Jpn. J. Med. Phys. 37S3:30.)
5. Katoh C, Tomiyama Y, Takeuchi K, Manabe O : Estimation of damaged myocardial lesion using multi-detector CT as compared with 15O-H2O PET, SNMMI 2017 Annual Meeting, Denver, USA, 2017.6.
6. Katoh C, Takeuchi K, Tomiyama Y, Hayashi S, Manabe O : Strategy to detect ischemic myocardial lesion with 15O-H2O PET using a weighted function: Evaluation with Akaike information criterion. Annual Meeting, Denver, USA, 2017.6.
7. Kawauchi K, Aikawa T, Manabe O, Naya M, Obara M, Magota K, Katoh C : The possibility to decrease acquisition time of 15O-H2O PET; assessment of regional ischemic lesions, SNMMI 2017 Annual Meeting, Denver, USA, 2017.6.
8. Kawauchi K, Katoh C: Application to the medical field of inexpensive personal three - Dimensional printers; Modeling of coronary arteries and myocardial ischemia. SNMMI 2017 Annual Meeting, Denver, USA, 2017.6.
9. Mano K, Tomiyama Y, Shiga T, Hirata K, Tamaki N, Katoh C : Iterative Factor Analysis to Estimate Input Function : Assessment with Digital Phantom, SNMMI 2017 Annual Meeting, Denver, USA, 2017.6.
10. R. Mori, Y. Matsuya, Y. Yoshii, H. Date: Computational estimation of the number of DNA double-strand breaks per nucleus in mammalian cells after X-ray exposure in consideration of cell cycle. The 3rd FHS (Faculty of Health Sciences) International Conference, 2017.7.07, Sapporo, Hokkaido, Japan. (Poster)
11. R. Yamada, Y. Matsuya, H. Date: Estimation of OER in consideration of LET and oxygen partial pressure by the Microdosimetric-Kinetic model. The 3rd FHS (Faculty of Health Sciences) International Conference, 2017.7.07, Sapporo, Hokkaido, Japan. (Poster)
12. M. Terashima, K. Mizonobe, H. Date: Dose estimation by size-specific dose estimate (SSDE) on the pelvic region in cone-beam CT. The 3rd FHS (Faculty of Health Sciences) International Conference, 2017.7.07, Sapporo, Hokkaido, Japan. (Poster)

V . 研究活動

13. Joma Oikawa, Yusuke Matsuya, Tetsuya Sakashita, Ryosuke Mori, Hiroyuki Date: Suggestion of a cell cycle model for long term exposure. The 3rd FHS (Faculty of Health Sciences) International Conference, 2017.7.7, Sapporo, Hokkaido, Japan. (Oral and Poster)
14. M. Terashima, K. Mizonobe, H. Date: Verification of size-specific dose estimate (SSDE) calculation method for truncated X-ray CT images. The 43rd Annual Meeting of European Radiation Research Society (ERRS), 2017.9.4-8, Essen, Germany. (Poster)
15. R. Mori, Y. Matsuya, Y. Yoshii, H. Date: A model analysis to estimate the number of DNA double-strand breaks in cells exposed to X-rays. The 43rd Annual Meeting of the European Radiation Research Society, Universitätsklinikum Essen, 2017.9.4-8, Essen, Germany. (Poster)
16. R. Yamada, Y. Matsuya, H. Date: Modelling of oxygen enhancement ratio in consideration of LET and oxygen partial pressure by using a microdosimetric-kinetic model. The 43rd Annual Meeting of the European Radiation Research Society, Universitätsklinikum Essen, 2017.9.4-8, Essen, Germany. (Poster)
17. Y. Matsuya, SJ. McMahon, KM. Prise, H. Date: Application of the IMK model to cell survival curves following the exposure to intensity modulated radiation fields. The 43rd Annual Meeting of the European Radiation Research Society, Universitätsklinikum Essen, 2017.9.4-8, Essen, Germany. (Oral and Poster)
18. K. Sasaki, Y. Matsuya, Y. Yoshii, T. Sanada, Y. Yaegashi, and H. Date: A simulation study for both of the targeted and untargeted effect on the uniformly irradiated cells. 43rd Annual Meeting of the European Radiation Research Society, Universitätsklinikum Essen, 2017.9.4-8, Essen, Germany. (Symposium)
19. M. Terashima, K. Mizonobe, H. Date: Verification of size-specific dose estimate (SSDE) calculation method for truncated X-ray CT images of thoracoabdominal and pelvic regions. The 4th meeting of educational symposium of radiation and health (ESRAH), 2017.9.23-24, Hirosaki, Aomori, Japan. (Poster)
20. R. Mori, Y. Matsuya, Y. Yoshii, H. Date: Mathematical estimation of the number of DNA double-strand breaks induced by radiation exposure. The 4th meeting of educational symposium of radiation and health (ESRAH), Hirosaki University, 2017.9.23-24, Hirosaki, Aomori, Japan. (Poster)
21. R. Yamada, Y. Matsuya, H. Date: Estimation of OER by function considering variation of LET, dose rate and oxygen partial pressure. The 4th meeting of educational symposium of radiation and health (ESRAH), Hirosaki University, Hirosaki, 2017.9.23-24, Hirosaki, Aomori, Japan. (Poster)
22. Y. Matsuya, Stephen J. McMahon, Mihaela Ghita, Kevin M. Prise: Effects of intercellular signalling on sub-lethal damage repair between fractionation doses following intensity modulated radiation field. The 4th meeting of educational symposium of radiation and health (ESRAH), Hirosaki University, 2017.9.23-24, Hirosaki, Aomori, Japan. (Poster)
23. Joma Oikawa, Tetsuya Sakashita, Yusuke Matsuya, Ryosuke Mori, Hiroyuki Date: A cell cycle model for long term exposures of ionizing radiations. The 4th meeting of educational symposium of radiation and health (ESRAH), 2017.9.23-24, Hirosaki, Aomori, Japan. (Oral and Poster)
24. Kobayashi Y, Kamishima T, Sugimori H, Sakashita T, Ichikawa S, Noguchi A, Kono M, Iijima T, Atsumi T: Simplified approach to quantification for hand synovitis in rheumatoid arthritis using dynamic contrast enhanced MRI: pixel-by-pixel time intensity curve analysis, ISMRM2017, Honolulu, USA, 2017.5

V. 研究活動

25. Kentaro Baba, Yuki Murayama and Masayori Ishikawa: Development of fast optical photon transport calculation code dedicated for optical fiber simulation using Graphics Processing Unit. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, 2017.7.7.
26. Kentaro Baba, Yuki Murayama and Masayori Ishikawa: GPU-based optical photon transport simulation system for the SOF detector optimization. The 9th Young Researchers' BNCT Meeting, Uji, 2017.11.12-15.
27. Okuda Y, Yamashina H, Koderia Y, Yanagawa N, Htun HN, Ogura A. Radiological Technologist in Japan: Educational System and RT's Roles in Patient Safety and Quality Control. The 4th Annual Conference of South East Asia Regional Conference of Radiographers and Radiological Technologists, Yangon, Myanmar, 2017.11.11-12.

[国内学会]

1. Tang M, Yamamoto T. Arteriolar vasomotor function obtained from spectral analysis of MR signal fluctuation in human brain: deterioration by normal aging. Proceedings of the 113 Scientific Meeting of JSMP, Japanese journal of Medical Physics. 2017; 37S1: 137.
2. Taguchi M, Yamamoto T. Enhancement of the transverse relaxation time shortening effect by oxygen molecules in viscous solution with cellular diffusivity. 医学物理. 2017;37S1:142.
3. Masuyama K, Yamamoto T. Gadolinium contrast agent enhances longitudinal relaxation rate strongly in solution with intracellular viscosity. 医学物理. 2017;37S1:143.
4. 村上優衣, 境信哉, 武田賢太, 澤村大輔, 吉田一生, 廣瀬喬道, 池田千紗, 萬井太規, 山本徹, 伊藤文人. 自閉症傾向が顔の選好判断および脳活動に与える影響. 日本健康行動科学会第16回学術大会, 札幌, 2017.9.
5. 川平慎悟, 唐明輝, 山本徹. MRI スキャナ内でチタン製脳動脈瘤クリップにはたらく異常トルク. 第45回日本磁気共鳴医学会大会, 宇都宮, 2017.9.
6. 春山卓哉, 唐明輝, 山本徹. MRI スキャナ内でループを形成したケーブルの発熱—シミュレーション解析—. 第45回日本磁気共鳴医学会大会, 宇都宮, 2017.9.
7. 二丹田優介, 唐明輝, 山本徹. MRI による細動脈収縮拡張機能の評価—喫煙による影響—. 第45回日本磁気共鳴医学会大会, 宇都宮, 2017.9.
8. 唐明輝, 押野見一哉, 石坂欣也, Khin Khin Tha, 山本徹. DSI トラクトグラフィによる神経線維描出感度の撮像パラメータ依存性. 第45回日本磁気共鳴医学会大会, 宇都宮, 2017.9.
9. 増山研, 田口眞行, 山本徹. 細胞内粘度溶液でのガドリニウム造影剤緩和度の増強. 第45回日本磁気共鳴医学会大会, 宇都宮, 2017.9.
10. 田口眞行, 山本徹. 常磁性体造影効果の溶液粘度依存性. 第45回日本磁気共鳴医学会大会, 宇都宮, 2017.9.
11. Tang M, Teramura K, Haruyama T, Yamamoto T. Electromagnetic simulation of an RF burn injury in MRI. The 2nd Annual Scientific Meeting of International Society for Magnetic Resonance in Medicine Japanese Chapter, 和光, 2018.2.
12. 加藤千恵次, 川内敬介, 真鍋治, 志賀哲: 15O-H₂O 心筋 PET による 虚血心筋病変の冠血管血流予備能定量の改良. 第57回日本核医学会学術総会, 横浜, 2017.10.

V. 研究活動

13. Katoh C, Kawauchi K, Tomiyama Y, Hayashi S, Manabe O : Improvement of detectability of ischemic myocardial lesion using 15O-H2O PET : Evaluation with AIC method. 第 76 回日本医学放射線学会総会, 横浜, 2017.4.
14. 市川晟也, 川内敬介, 真鍋治, 孫田恵一, 加藤千恵次 : 15O-H2O PET/CT 検査の撮像時間短縮による病変部局所心筋血流量評価. 第 37 回日本核医学技術学会学術大会, 横浜, 2017.10.
15. 加藤晋也, 納谷昌直, 真鍋治, 孫田恵一, 加藤千恵次 : CT による局所心筋血流量定量 : 虚血心筋病変検出能の検討. 第 37 回日本核医学技術学会学術大会, 横浜, 2017.10.
16. 川内敬介, 加藤千恵次 : 安価な個人向け 3 D プリンターの医療分野への応用 : 冠動脈および心筋虚血病変の造形. 第 37 回日本核医学技術学会学術大会, 横浜, 2017.10.
17. Kawauchi K, Katoh C : The possibility to decrease scan time of 15O-H2O PET; assessment of regional ischemic lesions, The 73rd Annual Meeting of the JSRT 2017.4. YOKOHAMA
18. Kawauchi K, Tomiyama Y, Aikawa T, Manabe O, Naya M, Obara M, Magota K, Katoh C : Application to the medical field of inexpensive personal 3D printers; Modeling of coronary arteries and calcified lesions, The 73rd Annual Meeting of the JSRT 2017.4. YOKOHAMA
19. 川内敬介, 加藤千恵次 : 安価な個人向け 3 D プリンターの医療分野への応用 : 心筋虚血病変の描出. 第 45 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 広島, 2017.10.
20. 寺嶋真凜, 溝延数房, 伊達広行 : Usefulness of Size-Specific Dose Estimates (SSDE) for Volume and Helical Scans in Computed Tomography (CT) Examination. 日本放射線技術学会第 73 回総会学術大会, パシフィコ横浜, 横浜, 2017.4.13-16.
21. R. Mori, Y. Matsuya, Y. Yoshii, H. Date : DNA damage estimation model based on the cell cycle and statistical variation of radiation energy deposition. 日本放射線技術学会第 73 回総会学術大会, パシフィコ横浜, 横浜, 2017.4.13-16.
22. R. Yamada, Y. Matsuya, H. Date : Evaluation of oxygen enhancement ratio (OER) derived from cell survival curves. 第 113 回 日本医学物理学会学術大会, パシフィコ横浜, 横浜, 2017.4.13-16.
23. Y. Matsuya, S. J. McMahon, K. Tsutsumi, K. Sasaki, Y. Yoshii, R. Mori, J. Oikawa, H. Date, K. M. Prise : Investigation of cell survival under protracted exposure for various dose rates in consideration of cell cycle distribution. 日本放射線影響学会第 60 回大会, 京葉銀行文化プラザ, 千葉, 2017.10.25-28.
24. Joma Oikawa, Yusuke Matsuya, Tetsuya Sakashita, Ryosuke Mori, Hiroyuki Date : Computational model for predicting the change of cell cycle distribution during protracted irradiation. 日本放射線影響学会第 60 回大会, 京葉銀行文化プラザ, 千葉, 2017.10.25-28.
25. 石川正純, 奈良一志, Kenneth Sutherland, 瀧上誠, 浅野友洋, 小島秀樹 : 線量勾配情報を利用した線量分布解析法の改良. 第 113 回日本医学物理学会学術大会, 横浜, 2017.4.13-16.
26. 小川原亮, 石川正純 : Parallel plane PET 装置を用いた volume of response 解析による追跡精度の向上. 第 113 回日本医学物理学会学術大会, 横浜, 2017.4.13-16.
27. 奈良一志, 小島秀樹, Kenneth Sutherland, 石川正純 : フィルムを用いた線量分布解析におけるフィルムの解像度の影響に関する考察. 第 113 回日本医学物理学会学術大会, 横浜, 2017.4.13-16.
28. 村山祐輝, 馬場健太郎, 小川原亮, 石川正純 : Geant4 を用いた SOF 検出器改良のための光学輸送シミュレーション. 第 113 回日本医学物理学会学術大会, 横浜, 2017.4.13-16.

V. 研究活動

29. 小林勇太, 明神美弥子, 結城孝仁, 石川正純: CBCT 画像を用いた線量計算用 CT 値密度変換テーブルの新しい作成方法に関する研究. 第 113 回日本医学物理学会学術大会, 横浜, 2017.4.13-16.
30. 佐々木文博, 長崎卓也, 増山研, 東野邦弘, 中野聡, 石川正純: kV イメージデバイスを用いた 3 次元水ファントム駆動軸の包括的精度評価. 第 73 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2017.4.13-16.
31. 村山祐輝, 馬場健太郎, 石川正純: C-MOS カメラを用いた single probe SOF 検出器の開発に向けた検討. 第 14 回日本中性子捕捉療法学会学術大会, 郡山, 2017.9.29-30.
32. 馬場健太郎, 村山祐輝, 石川正純: 粒子輸送計算コード Geant4 による SOF 検出器を用いたボナー球スペクトロメータの基礎的検討. 第 14 回日本中性子捕捉療法学会学術大会, 郡山, 2017.9.29-30.
33. 奈良一志, 石川正純, 峯村俊行, 西村恭昌, 西尾禎治: フィルムを用いた線量分布解析における γ 合格率のソフトウェア間比較. 第 30 回日本放射線腫瘍学会学術大会, 大阪, 2017.11.17-19.
34. Kobayashi Y, Kamishima T, Ichikawa S, Sugimori H, Noguchi A, Kono M, Atsumi T: Simplified Approach to Quantification for Hand Synovitis in Rheumatoid Arthritis Using Dynamic Contrast Enhanced MRI: Full-Automatic Pixel-By-Pixel Analysis. 第 73 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2017.4.
35. Sugimori H, Hamaguchi H, Fujiwara T, Hirayama H, Kawasaki T, Ishizaka K: Can the deep-learning differentiate magnetic resonance images of the brain without DICOM-tag? 第 45 回日本磁気共鳴医学会大会, 宇都宮, 2017.9.
36. Akatsuka Y, Takashima H, Imamura R, Nakanishi M, Sugimori H: Can T1rho indicate hydrogen ion exponent (pH)? 第 45 回日本磁気共鳴医学会大会, 宇都宮, 2017.9.
37. Fujiwara T, Yoshida A, Ishizaka K, Horie T, Sugimori H, Okuaki T, Kudo K: Improvement of the image contrast with the 3D-DIR method in the brain stem. 第 45 回日本磁気共鳴医学会大会, 宇都宮, 2017.9.
38. 野畑圭亮, Khin Khin Tha, 藤原太郎, 杉森博行, 石坂欣也, 奥秋知幸, 工藤與亮: Zonally Magnified Oblique Multislice(ZOOM) EPI-DTI 法を用いた腕神経叢の描出における至適撮像条件の検討. 第 45 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 広島, 2017.10.
39. 沼田直人, 杉森博行, 石坂欣也: Intravoxel Incoherent Motion 解析手法が算出パラメータに与える影響の検討. 第 45 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 広島, 2017.10.

[地方会]

1. Haruyama T, Tang M, Teramura K, Yamamoto T. Electromagnetic simulation analysis of heating in RF burn injuries in MRI examinations. The Third International Conference, Sapporo, 2017.7.
2. Kawahira S, Tang M, Teramura K, Yamamoto T. Accurate measurement of the torque that applies to aneurysm clips in an MRI scanner. The Third International Conference, Sapporo, 2017.7.
3. Murakami Y, Sakai S, Takeda K, Sawamura D, Yoshida K, Hirose T, Ikeda C, Mani H, Yamamoto T, Ito A. Autistic traits affect vmPFC activity associated with preference-related valuation. The Third International Conference, Sapporo, 2017.7.
4. Taguchi M, Yamamoto T. Magnetic resonance signal change by oxygen molecules in viscous solution with cellular diffusivity. The Third International Conference, Sapporo, 2017.7.

V. 研究活動

5. Nitanda Y, Tang M, Teramura K, Yamamoto T. Evaluation of Acute Effect of Smoking on Cerebral Arteriolar Vasomotion by Spectral Analysis of MR Signal Fluctuation. The Third International Conference, Sapporo, 2017.7.
6. 谷内淑恵, 吉井勇治, 松谷悠佑, 伊達広行: 光子線・電子線による微視的線量付与のモンテカルロシミュレーション解析. 日本放射線技術学会 第73回北海道部会秋季大会, 札幌医科大学, 札幌, 2017.11.18-19.
7. 大島洋輔, 森諒輔, 松谷悠佑, 吉井勇治, 伊達広行: X線誘発DNA二本鎖切断の空間分布に対するin vitro 実験とモデル解析. 日本放射線技術学会 第73回北海道部会秋季大会, 札幌医科大学, 札幌, 北海道, 2017.11.18-19.
8. 寺嶋真凜, 溝延数房, 伊達広行: Scout 画像を用いたSSDE算出における補正係数CFの基礎的検討. 第46回北海道ヘリカルCT研究会, 2018.1.20, 札幌コンベンションセンター, 札幌
9. 石川正純: SyncTraXの開発から臨床開始に至るまで～SyncTraX FX4の機能紹介とコミッションング～. 東海放射線腫瘍研究会第47回技術部会, 名古屋, 2018.3.11
10. 平野裕也, 藤原太郎, 平山博之, 堀江達則, 石坂欣也, 杉森博行: MOLLI法を用いたT1値測定に関する検討. 第45回日本放射線技術学会秋季学術大会, 札幌, 2017.11.
11. 杉森博行: MRIにおける心筋ストレインの基礎と臨床例. 第5回循環器イメージングを学ぶ会, 札幌, 2017.7.
12. 杉森博行: マルチモダリティによる心臓再考-MR. 第31回北海道核医学技術セミナー, 札幌, 2017.6.
13. 小賀坂有紗, 土田汐里, 堀田浩, 山品博子, 辻真太郎, 小笠原克彦: 乳房画像診断における医師と診療放射線技師のカテゴリ分類の一致度. 日本放射線技術学会 第73回北海道部会秋季大会, 札幌医科大学, 札幌, 北海道, 2017.11.18-19.

■業績

病態解析学分野

A. 学術論文

1. Ishizu A, Tomaru U, Masuda S, Sada KE, Amano K, Harigai M, Kawaguchi Y, Arimura Y, Yamagata K, Ozaki S, Dobashi H, Homma S, Okada Y, Sugiyama H, Usui J, Tsuboi N, Matsuo S, Makino H: Prediction of response to remission induction therapy by gene expression profiling of peripheral blood in Japanese patients with microscopic polyangiitis. *Arthritis Res Ther* 19:117, 2017.
2. Okubo T, Osaki T, Nozaki E, Uemura A, Sakai K, Matushita M, Matsuo J, Nakamura S, Kamiya S, Yamaguchi H: Walker occupancy has an impact on changing airborne bacterial communities in an underground pedestrian space, as small-dust particles increased with raising both temperature and humidity. *PLoS One* 12:e0184980, 2017.
3. Masuda S, Shimizu S, Matsuo J, Nishibata Y, Kusunoki Y, Hattanda F, Shida H, Nakazawa D, Tomaru U, Atsumi T, Ishizu A: Measurement of NET formation in vitro and in vivo by flow cytometry. *Cytometry A* 91:822-829, 2017.
4. Furukawa T, Hinou H, Takeda S, Chiba H, Nishimura S, Hui SP: An efficient glycoblotting-based analysis of oxidized lipids in liposomes and a lipoprotein. *ChemBioChem* 18:1903-1909, 2017.
5. Okada K, Kaga S, Mikami T, Masauzi N, Abe A, Nakabachi M, Yokoyama S, Nishino H, Ichikawa A, Nishida M, Murai D, Hayashi T, Shimizu C, Iwano H, Yamada S, Tsutsui H: Characteristic Systolic Waveform of Left Ventricular Longitudinal Strain Rate in Patients with Hypertrophic Cardiomyopathy. *Heart Vessels* 32:591-599, 2017.
6. Yamada M, Kawakami T, Takashima K, Nishioka Y, Nishibata Y, Masuda S, Yoshida S, Tomaru U, Ishizu A: Establishment of a rat model of thrombosis induced by intravenous injection of anti-phosphatidylserine/prothrombin complex antibody. *Rheumatology* 56:1013-1018, 2017.
7. Kawakami T, Okano T, Takeuchi S, Soma Y, Ito F, Ishizu A, Arimura Y, Suzuki K: Elevated moesin mRNA level in skin tissue of patients with polyarteritis nodosa based on real time RT-PCR. *J Dermatol Sci* 87:94-97, 2017.
8. Shrestha R, Hirano KI, Suzuki A, Yamaguchi S, Miura Y, Chen YF, Mizuta M, Chiba H, Hui SP: Change in plasma total, esterified and non-esterified capric acid concentrations during a short-term oral administration of synthetic tricaprin in dogs. *Anal Sci* 33:1297-1303, 2017.
9. Zhao Y, Zhao H, Zhao X, Jia J, Ma Q, Zhang S, Zhang X, Chiba H, Hui SP, Ma X: Identification and Quantitation of C-C Location Isomers of Unsaturated Fatty Acids by Epoxidation Reaction and Tandem Mass Spectrometry. *Anal Chem* 89:10270-10278, 2017.
10. Chen Z, Wu Y, Ma YS, Kobayashi Y, Zhao YY, Miura Y, Chiba H, Hui SP: Profiling of cardiolipins and their hydroperoxides in HepG2 cells by LC/MS. *Anal Bioanal Chem* 409:5735-5745, 2017.
11. Joko S, Watanabe M, Fuda H, Takeda S, Furukawa T, Hui SP, Shrestha R, Chiba H: Comparison of chemical structures and cytoprotection abilities between direct and indirect antioxidants. *J Functional Foods* 35:245-255, 2017.

V . 研究活動

12. Miura Y, Furukawa T, Kobayashi M, Shrestha R, Takahashi R, Shimizu C, Chiba H, Hui SP: Absolute quantification of cholesteryl esters using liquid chromatography-tandem mass spectrometry uncovers novel diagnostic potential of urinary sediment. *Steroids* 123:43-49, 2017.
13. Murayama M, Mikami T, Kaga S, Okada K, Hioka T, Masauzi N, Nakabachi M, Nishino H, Yokoyama S, Nishida M, Iwano H, Sakakibara M, Yamada S, Tsutsui H: Usefulness of the continuous-wave Doppler-derived pulmonary arterial-right ventricular pressure gradient just before atrial contraction for the estimation of pulmonary arterial diastolic and wedge pressures. *Ultrasound Med Biol* 43:958-966, 2017.
14. Murai D, Yamada S, Hayashi T, Okada K, Nishino H, Nakabachi M, Yokoyama S, Abe A, Ichikawa A, Ono K, Kaga S, Iwano H, Mikami T, Tsutsui H: Relationships of left ventricular strain and strain rate to wall stress and their afterload dependency. *Heart Vessels* 32:574-583, 2017.
15. Hioka T, Kaga S, Mikami T, Okada K, Murayama M, Masauzi N, Nakabachi M, Nishino H, Yokoyama S, Nishida M, Iwano H, Sakakibara M, Yamada S, Tsutsui H: Overestimation by echocardiography of the peak systolic pressure gradient between the right ventricle and right atrium due to tricuspid regurgitation and the usefulness of the early-diastolic transpulmonary valve pressure gradient for estimating pulmonary artery pressure. *Heart Vessels* 32:833-842, 2017.
16. Kudo Y, Mikami T, Nishida M, Okada K, Kaga S, Masauzi N, Omotehara S, Shibuya H, Kahata K, Shimizu C: Altered oscillation of the Doppler-derived renal and renal interlobar venous flow velocities in hypertensive and diabetic patients. *J Med Ultrason* 44:305-314, 2017.
17. Yamamoto M, Kono K, Kuroki M, Murakami S, Hayata R, Nanato K, Shao M, Miwa K, Tsutsumi Y, Okada K, Kaga S, Masauzi N: Quantitative distinction of morphological characteristics of white blood cells in peripheral blood through texture analysis using gray level co-occurrence matrix. *Clin Lab* 63:1851-1868, 2017.
18. Matsuo J, Nakamura S, Okubo T, Fukui M, Yamaguchi H: Long-term survival of *Naegleria polaris* from Antarctica after 10 years storage at 4° C. *Parasitol Res* 117:937-941, 2018.
19. Yamakawa K, Yamaguchi H: Impact of capsaicin, an active component of chili pepper, on pathogenic chlamydial growth (*Chlamydia trachomatis* and *Chlamydia pneumoniae*) in immortal human epithelial HeLa cells. *J Infect Chemother* 24:130-137, 2018.
20. Maita C, Matsushita M, Miyoshi M, Okubo T, Nakamura S, Matsuo J, Takemura M, Miyake M, Nagai H, Yamaguchi H: Amoebal endosymbiont *Neochlamydia* protects host amoebae against *Legionella pneumophila* infection by preventing *Legionella* entry. *Microbes Infect* 20:236-244, 2018.
21. Futamata E, Masuda S, Nishibata Y, Tanaka S, Tomaru U, Ishizu A: Vanishing Immunoglobulins: The Formation of Pauci-Immune Lesions in Myeloperoxidase-Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-Associated Vasculitis. *Nephron* 138:328-330, 2018.
22. Nakabachi M, Yamada S, Iwano H, Hayashi T, Okada K, Kusunose K, Watanabe K, Ishizu T, Wakami K, Yamada H, Dohi K, Seo Y, Ohte N, Shimizu C, Mikami T: Left ventricular mass influences relationship between filling pressure and early-diastolic ratio of inflow velocity to mitral annular velocity (E/e'). *Circ J* 82:732-738, 2018.

V. 研究活動

23. Sakurai T, Sakurai A, Vaisman BL, Nishida T, Neufeld EB, Demosky SJ, Sampson ML, Shamburek RD, Freeman LA, Remaley AT: Development of a Novel Fluorescent Activity Assay for Lecithin:cholesterol Acyltransferase. *Ann Clin Biochem* 2017 (In press).
24. Kono K, Hayata R, Murakami S, Yamamoto M, Kuroki M, Nanato K, Takahashi K, Miwa K, Okada K, Kaga S, Mikami T, Masauzi N: Quantitative distinction of the morphological characteristic of erythrocyte precursor cells with texture analysis using gray level co-occurrence matrix. *J Clin Lab Anal* 32 doi:10.1002/jcla.22175, 2018.
25. 山本麻衣, 黒木麻衣子, 河野圭伍, 七戸加奈, 三輪佳子, 高橋一人, 岡田一範, 加賀早苗, 三神大世, 家子正裕, 政氏伸夫: 凝固検査用検体の遠心条件と保管による凝固検査と残存血小板数の検討. *日本検査血液学会雑誌* 18:258-264,2017.

B. 著書

1. 石津明洋 (分担): 臨床脈管学. 総論 第3章 血管病変の成因と病理 B. 血管炎 3. 環境要因 (日本脈管学会編). 24-25, 日本医学出版, 東京, 2017.
2. 加賀早苗, 山田 聡 (分担): 心不全治療に心エコーを生かす Q&A115 (瀬尾由広, 上嶋徳久編集, 大手信之, 山田 聡, 土肥 薫編集協力). 162-169, メジカルビュー, 東京, 2017.

C. 総説, 解説, 論評

1. 石津明洋: 特集「血管生物学と疾患」日常業務でよく遭遇する血管病変の最新知見. 血管炎の最新研究知見と病理 (ANCA 関連血管炎を中心に). *病理と臨床* 35:713-716, 2017.
2. 八反田文彦, 中沢大悟, 石津明洋: 好中球と NETosis. *リウマチ科* 58:467-473, 2017.
3. 石津明洋: 皮膚科領域でみる血管炎の病理組織像からのアプローチ. *日本皮膚アレルギー・接触性皮膚炎学会雑誌* 11:296-299, 2017.
4. 石津明洋: 血管炎の臨床 UPDATE. 血管炎の分類と病因. *医学のあゆみ* 263:481-484, 2017.
5. 山田 聡, 加賀早苗: 左室収縮能 - EF ? GLS ?. *心エコー* 18:726-735, 2017.
6. 益田紗季子, 石津明洋: 抗好中球細胞質抗体 (ANCA) と好中球細胞外トラップ (NETs). *リウマチ科* 59:200-205, 2018.

D. 報告書

1. 石津明洋: 網羅的遺伝子発現情報による治療反応性予測に関する研究. ANCA 関連血管炎の新規治療薬開発を目指す戦略的シーズ探索と臨床的エビデンス構築研究. 平成 27 年度～平成 29 年度総合研究報告書 26-29, 2018.
2. 石津明洋: MPO-AAV 動物モデルを用いた好中球細胞外トラップ (NETs) を標的とする新規治療薬開発に関する研究. ANCA 関連血管炎の新規治療薬開発を目指す戦略的シーズ探索と臨床的エビデンス構築研究. 平成 27 年度～平成 29 年度総合研究報告書 37-42, 2018.
3. 恵 淑萍: 平成 29 年度産業創出部門実績報告書
4. 恵 淑萍: 平成 29 年度日本医療研究開発機構研究費 (難治性疾患実用化研究事業) 報告書

V. 研究活動

E. その他

[受賞]

1. Yamamoto Mai, Murakami S, Kono K, Hayata R, Sugano K, Nanato K, Shao N, Okada K, Kaga S, Masauzi N: Quantitative Distinction of Neutrophil Alkaline Phosphatase Score through Texture Analysis using Gray Level Co-occurrence Matrix. International Symposium on Technological Innovations in Laboratory Hematology 2018, ILSH2018 Trainee Travel Award, 2018.
2. 加賀早苗：心筋ストレイン計測に基づく前毛細管性肺高血圧症と後毛細管性肺高血圧症との鑑別. 第1回先端生体超音波シンポジウム, 発表賞, 2017.9.
3. 大久保寅彦：腔頸管スワブからの性器クラミジアの検出率と菌叢解析：腸内細菌科が与えるインパクト. 第84回日本細菌学会北海道支部学術総会, 優秀賞, 2017.8.
4. 大久保寅彦：札幌地下歩行空間での空気中浮遊細菌の菌叢解析. 第84回日本細菌学会北海道支部学術総会, 優秀賞, 2017.8.
5. 大久保寅彦：繊毛虫はヒト病原細菌と水系環境細菌を双方向的な薬剤耐性プラスミドの接合伝達の促進作用を介して結ぶ. 第91回日本細菌学会総会, 優秀発表賞, 2018.3.

[学会研究会の主催]

1. 石津明洋：第50回北海道病理談話会, 2017.10.

[特許]

1. 取得：抗酸化能測定用リポソーム, 武田晴治, 千葉仁志, 恵淑萍 2017.6.29. 特開 2017-116308 国立大学法人北海道大学
2. 出願：ATP産生促進用剤, 恵淑萍, 馬逸興, 陳震, 布田博敏, 佐藤浩志 2017.10.17. 特願 2017-200782 国立大学法人北海道大学

[報道]

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Yamaguchi H: Interaction between protozoa and bacteria evokes a novel paradigm on understanding unseen life. the 2017 TMU Medical Laboratory Forum. 2017. 12.

[国内学会]

1. 石津明洋：(シンポジウム「自己抗体の病因的意義と臨床的意義」)「抗好中球細胞質抗体(ANCA)と好中球細胞外トラップ」. 第61回日本リウマチ学会総会・学術集会, 東京, 2017.4.
2. 山田聡, 林大知, 加賀早苗, 岩野弘幸：(シンポジウム)年齢を考慮した血行動態推定のポイント. 日本心エコー図学会第28回学術集会, 名古屋, 2017.4.
3. 石津明洋：(明日へのシンポジウム「核内因子の放出によって誘導される血栓形成・炎症反応」)「好中球NETsと血管炎」. 第49回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 広島, 2017.7.

V. 研究活動

- 山口博之, 大久保寅彦, 松尾淳司: (教育講演)「繊毛虫やアメーバと細菌(環境クラミジアを含む)との闘ぎ合いから紐解く微生物間相互作用」. 第35回日本クラミジア研究会, 東京, 2017.9.
- 石津明洋: (専門スタディー「B細胞」)「血管炎症候群における自己抗体」. 第45回日本臨床免疫学会総会, 東京, 2017.9.
- 石津明洋: (教育講演)「好中球細胞外トラップ(NETs)の基礎と臨床」. 第57回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
- 恵 淑萍: (シンポジウム)「体外受精における使用済み胚培養液の組成と胚発育の関係」. 第57回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
- 政氏伸夫: (支部共催シンポジウム「臨床検査の進歩」)「WHO分類と血液検査」. 第57回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
- 恵 淑萍: (特別講演)「異所性脂肪蓄積と酸化ストレス」. 第31回本小児脂質研究会学術集会, 札幌, 2017.11.
- 恵 淑萍: (シンポジウム)「脂質・酸化脂質の分析と臨床応用」. 第64回日本臨床検査医学会学術集会・第29回世界病理臨床検査医学会連合会議 WASPaLM2017, 京都, 2017.11.
- 恵 淑萍: (シンポジウム)「質量分析による低分子の分析および臨床検体への応用」. 第64回日本臨床検査医学会学術集会・第29回世界病理臨床検査医学会連合会議 WASPaLM2017, 京都, 2017.11.
- 山口博之: (学友会企画・ランチョンシンポジウム「環境微生物の驚くべき世界」)「闘ぎ合う原生生物と細菌から学ぶ」. 国立感染症研究所, 東京, 2017.12.

[地方会]

- 加賀早苗, 山田 聡: 大動脈弁狭窄症の診断と治療 重症度評価: 初級者のための前説. 第4回北海道弁膜症カンファレンス, 札幌, 2017.7.
- 加賀早苗: 心不全患者の生理機能検査データを読み解こう. 北海道臨床衛生検査技師会第14回しばれセミナー, 札幌, 2018.2.

B) 一般演題

[国際学会]

- Yamamoto M, Kono K, Kuroki M, Murakami S, Hayata R, Nanato K, Shao M, Miwa K, Takahashi K, Tsutsumi Y, Okada K, Kaga S, Masauzi N: Texture analysis for quantitative distinction of the morphological characteristic of white blood cells in peripheral blood. International Society for Laboratory Hematology 2017, Honoruru, USA, 2017.5.
- Kono K, Hayata R, Murakami S, Yamamoto M, Kuroki M, Nanato K, Takahashi K, Miwa K, Tsutsumi Y, Okada K, Kaga S, Masauzi N: Texture analysis for quantitative distinction of erythrocyte precursor cell stages. International Society for Laboratory Hematology 2017, Honoruru, USA, 2017.5.
- Yamaguchi H, Yamazaki S, Matsuo J, Okubo T: Impact of protozoa-related giant viruses on environmental chlamydial evolution with divergent in the amoebal niche. ASM Microbe 2017, New Orleans, USA, 2017.6.

V . 研究活動

4. Okubo T, Matsuo J, Nakamura S, Yamaguchi H: Synergistic effect of walkers with other factors on changing airborne bacterial communities in a built environment, Sapporo Underground Pedestrian Space. ASM Microbe 2017, New Orleans, USA, 2017.6.
5. Okubo T, Matsushita M, Matsuo J, Nakamura S, Yamaguchi H: Aboebae backpack human pathogenic bacteria on solid-agar plate, depending upon the amoebal endosymbiont, Neochlamydia. ASM Microbe 2017, New Orleans, USA, 2017.6.
6. Matsuo J, Taki K, Okubo T, Abe K, Minami K, Yamaguchi H: Degree of vaginal inflammation has minimal impact on the prevalence of Chlamydia trachomatis infection of female genital tract. ASM Microbe 2017, New Orleans, USA, 2017.6.
7. Maita C, Okubo T, Matsuo J, Nakamura S, Nagai H, Yamaguchi H: Endosymbiotic bacterium Neochlamydia restricts host amoebal phagocytosis via actin stabilization, resulting in the defense of the host amoebae against Legionella infection. ASM Microbe 2017, New Orleans, USA, 2017.6.
8. Hui SP, Chiba H: Analyses of lipid hydroperoxides in HDL and LDL of human using Orbitrap mass spectrometer. 65th ASMS Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics, Indiana, USA, 2017.6.
9. Miura Y, Furukawa T, Kobayashi M, Shimizu C, Chiba H, Hui SP: Diagnostic potential of urinary cholesteryl ester in renal disease. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, 2017.7.
10. Yamamoto Y, Furukawa T, Takeda S, Chiba H, Hui SP: Synthesis of Fluorine-substituted Lysophosphatidylethanolamines for Dissecting Different Behaviors between Regioisomers. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, 2017.7.
11. Terada K, Furukawa T, Li N, Miura Y, Chiba H, Hui SP: Synthesis plasmalogen library and development of quantification system by using LC/MS. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, 2017.7.
12. Shirasawa K, Hayasaka T, Fukai M, Umemoto K, Ishikawa T, Hashimoto S, Otani S, Nakayabu T, Shimada S, Shimamura T, Taketomi A, Chiba H, Hui SP: Increase of Lysophosphatidylinositol in Rat Liver Transplant Model. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, 2017.7.
13. Yamamoto M, Kono K, Kuroki M, Murakami S, Hayata R, Nanato K, Shao M, Miwa K, Takahashi K, Tsutsumi Y, Okada K, Kaga S, Masauzi N: Texture analysis for quantitative distinction of the morphological characteristic of white blood cells in peripheral blood. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, 2017.7.
14. Nanato K, Goto M, Maeda R, Hashi K, Sugano K, Nishi K, Shao M, Yamamoto M, Kono K, Okada K, Kaga S, Masauzi N: Process of changes in blood cell count in peripheral blood samples stored with antioxidants and iron chelators. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, 2017.7.
15. Kono K, Hayata R, Murakami S, Yamamoto M, Kuroki M, Nanato K, Takahashi K, Miwa K, Tsutsumi Y, Okada K, Kaga S, Masauzi N: Texture analysis for quantitative distinction of erythrocyte precursor cell stages. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, 2017.7.
16. Kurokabe D, Kaga S, Okada K, Murayama M, Yokoyama S, Nakabachi M, Tsujinaga S, Hayashi T, Asakawa N, Iwano H, Yamada S, Tsujino I, Masauzi N, Mikami T: Noninvasive method to estimate pulmonary vascular resistance using echocardiography. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, 2017.7.
17. Yasuda K, Sato S, Okada K, Yano R: Does fist-clenching promote venodilation during venipuncture? The 3rd FHS International Conference, Sapporo, 2017.7.

V. 研究活動

18. Kaga S, Okada K, Murayama M, Ichikawa A, Nakabachi M, Nishino H, Yokoyama S, Nishida M, Hayashi T, Asakawa N, Iwano H, Yamada S, Masauzi N, Tsujino I, Mikami T: Differentiation between pre- and postcapillary pulmonary hypertension using echocardiographic myocardial strain analysis. The 29th World Congress of World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM 2017), Kyoto, 2017.11.
19. Okada K, Kaga S, Tsujita K, Hara M, Yoshikawa A, Sakamoto Y, Masauzi N, Mikami T: Alteration of right ventricular geometry associated with sigmoid-shaped interventricular septum. The 29th World Congress of World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM 2017), Kyoto, 2017.11.
20. Kurokabe D, Kaga S, Okada K, Murayama M, Yokoyama S, Nakabachi M, Tsujinaga S, Hayashi T, Asakawa N, Iwano H, Yamada S, Tsujino I, Masauzi N, Mikami T: Echocardiographic method to estimate pulmonary vascular resistance using pulmonary regurgitation velocity measurement. The 29th World Congress of World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM 2017), Kyoto, 2017.11.
21. Yamamoto M, Murakami S, Kono K, Hayata R, Sugano K, Nanato K, Shao M, Okada K, Kaga S, Masauzi N: Quantitative distinction of neutrophil alkaline phosphatase score through texture analysis. The 29th World Congress of World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM 2017), Kyoto, 2017.11.
22. Nanato K, Goto M, Maeda R, Hashi K, Sugano K, Nishi K, Shao M, Yamamoto M, Kono K, Okada K, Kaga S, Masauzi N: Process of changes in blood cell count in peripheral blood samples stored with antioxidants and iron chelators. The 29th World Congress of World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM 2017), Kyoto, 2017.11.

[国内学会]

1. 八反田文彦, 楠 由宏, 志田玄貴, 中沢大悟, 西尾妙織, 益田紗季子, 外丸詩野, 渥美達也, 石津明洋: ANCA 関連血管炎 (AAV) における抗 NETs 抗体の存在と病的意義. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 福岡, 2017.4.
2. 川上民裕, 石津明洋, 有村義宏: 皮膚動脈炎から結節性多発動脈炎への移行とモエシンとの関連. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 福岡, 2017.4.
3. 川上民裕, 石津明洋, 益田紗季子, 外丸詩野: 抗 PSPT 抗体による抗リン脂質抗体症候群動物モデルの完成. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 福岡, 2017.4.
4. 古崎 章, 天崎吉晴, 石津明洋: ANCA 関連血管炎を発症した全身性エリテマトーデスの一例. 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 福岡, 2017.4.
5. 岡田一範, 加賀早苗, 安彦里佳, 阿部 歩, 中鉢雅大, 西野久雄, 市川絢子, 横山しのぶ, 西田 睦, 辻永真吾, 林 大知, 浅川直也, 岩野弘幸, 山田 聡, 三神大世: 肺静脈血流と経僧帽弁血流の時間速度積分値計測に基づく心房収縮期逆行/順行血流量比の左室拡張末期圧推定における有用性. 日本心エコー図学会第 28 回学術集会, 名古屋, 2017.4.

V. 研究活動

6. 村山迪史, 三神大世, 加賀早苗, 岡田一範, 中鉢雅大, 西野久雄, 横山しのぶ, 市川絢子, 阿部 歩, 西田 睦, 辻永真吾, 林 大知, 岩野弘幸, 山田 聡: 心房収縮期における肺動脈弁逆流流速波形の窪みと三尖弁輪移動距離の計測に基づく右室拡張末期圧の推定. 日本心エコー図学会第 28 回学術集会, 名古屋, 2017.4.
7. 黒壁大貴, 加賀早苗, 岡田一範, 政氏伸夫, 村山迪史, 喜田真由子, 横山しのぶ, 西野久雄, 中鉢雅大, 辻永真吾, 林 大知, 浅川直也, 岩野弘幸, 山田 聡, 辻野一三, 三神大世: 肺動脈弁逆流速度と経僧帽弁血流速度の計測に基づく新しい肺血管抵抗の非侵襲的推定法. 日本心エコー図学会第 28 回学術集会, 名古屋, 2017.4.
8. 山田 聡, 岡田一範, 西野久雄, 岩野弘幸: 肥大型心筋症で左室充満圧をどう推定するか? 日本心エコー図学会第 28 回学術集会, 名古屋, 2017.4.
9. 益田紗季子, 西端友香, 松尾淳司, 外丸詩野, 石津明洋: フローサイトメトリーによる定量的好中球細胞外トラップ測定法. 第 106 回日本病理学会総会, 東京, 2017.4.
10. 外丸詩野, 伊藤智樹, 大村 優, 石津明洋, 笠原正典: プロテアソーム機能低下マウスモデルにおける脳機能障害の解析. 第 106 回日本病理学会総会, 東京, 2017.4.
11. 岩崎沙理, 辻 隆裕, 石井保志, 秋元真裕子, 西尾妙織, 石津明洋, 深澤雄一郎: 糸球体係蹄内に Foam cell が目立った糖尿病性腎症の一例. 第 106 回日本病理学会総会, 東京, 2017.4.
12. 加賀早苗, 前田祥子, 喜田真由子, 岡田一範, 政氏伸夫, 横山しのぶ, 西田 睦, 浅川直也, 岩野弘幸, 山田 聡, 辻野一三, 三神大世: 両心室ストレイン計測に基づく肺高血圧症の病型分類. 第 42 回日本超音波検査学会学術集会, 福岡, 2017.6.
13. 岡田一範, 加賀早苗, 辻田孝輔, 原 瑞希, 長尾裕子, 坂本洋一, 政氏伸夫, 三神大世: S 字状中隔例の右室形態の特徴: 3 次元心エコー法を用いた検討. 第 42 回日本超音波検査学会学術集会, 福岡, 2017.6.
14. 河野圭伍, 早田瑠架, 村上 悟, 山本麻衣, 黒木麻衣子, 邵 旻蓉, 七戸加奈, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫: 濃度共起行列を用いたテクスチャ解析による赤芽球系前駆細胞形態特徴の定量的定義と判別. 第 18 回日本検査血液学会学術集会, 札幌, 2017.7.
15. 山本麻衣, 河野圭伍, 早田瑠架, 村上 悟, 黒木麻衣子, 七戸加奈, 邵 旻蓉, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫: テクスチャ解析を用いた末梢血白血球形態の定量的定義と判別. 第 18 回日本検査血液学会学術集会, 札幌, 2017.7.
16. 邵 旻蓉, 山本麻衣, 河野圭伍, 黒木麻衣子, 七戸加奈, 高橋一人, 堤 豊, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫: 正常末梢血白血球分類における 熟練検査技師間での差異. 第 18 回日本検査血液学会学術集会, 札幌, 2017.7.
17. 七戸加奈, 河野圭伍, 山本麻衣, 邵 旻蓉, 黒木麻衣子, 高橋一人, 堤 豊, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫: 正常骨髄有核細胞分類における 熟練検査技師間での差異. 第 18 回日本検査血液学会学術集会, 札幌, 2017.7.
18. 陳 震, 呉 玥, 馬 逸興, 小林 悠, 趙 瑤瑤, 三浦佑介, 惠 淑萍, 千葉仁志: Detection and Identification of Cardiolipin Hydroperoxide Molecular Species by Liquid Chromatography/Tandem Mass Spectrometry. 日本過酸化脂質・抗酸化物質学会第 25 回年会, 仙台, 2017.8.
19. 松尾淳司, 大久保寅彦, 中村真二, 山口博之: Chlamydia 感染とアポトーシス: DEVE 配列挿入環状ルシフェラーゼ発現細胞でのカスパーゼ 3 の活性化測定. 第 35 回日本クラミジア研究会, 東京, 2017.9.

V. 研究活動

20. 山崎すみれ, 松尾淳司, 大久保寅彦, 中村眞二, 山口博之: 原生動物関連巨大ウイルス Mimiviridae 科が環境クラミジアの進化に与えた影響について: Update. 第35回日本クラミジア研究会, 東京, 2017.9.
21. 酒井昂平, 松尾淳司, 渡辺宜典, 大久保寅彦, 中村眞二, 山口博之: 低酸素条件培養下での *Chlamydia trachomatis* の感染動態について. 第35回日本クラミジア研究会, 東京, 2017.9.
22. 瀧 圭介, 渡辺宜典, 酒井昂平, 松尾淳司, 大久保寅彦, 中村眞二, 阿部清孝, 南 邦弘, 山口博之: 膣頸管スワブからの性器クラミジアの検出頻度と菌叢解析について. 第35回日本クラミジア研究会, 東京, 2017.9.
23. Shrestha R, Hirano K, Suzuki A, Yamaguchi S, Miura Y, Chen YF, Mizuta M, Chiba H, Hui SP: Plasma capric acid concentrations during a short-term oral administration of synthetic tricaprin. 中性脂肪学会第1回学術集会, 大阪, 2017.9.
24. 富田優理, Rojeet Shrestha, 三浦佑介, 平野賢一, 千葉仁志, 惠 淑萍: LC-MS/MSによるカプリン酸定量法の開発と血中動態解析への応用. 中性脂肪学会第1回学術集会, 大阪, 2017.9.
25. Hui SP, Shrestha R, Miura Y, Suzuki A, Yamaguchi S, Hirano K, Chiba H: Detection of Chimera triglyceride in fibroblast from adipose triglyceride lipase deficiency. 中性脂肪学会第1回学術集会, 大阪, 2017.9.
26. 惠 淑萍, 三浦佑介, Rojeet Shrestha, 櫻井俊宏, 千葉仁志: ヒト血中酸化トリグリセリドに関する研究. 中性脂肪学会第1回学術集会, 大阪, 2017.9.
27. 古川貴之, 比能 洋, 武田晴治, 千葉仁志, 西村紳一郎, 惠 淑萍: グライコプロッティング法に基づくりポソーム及びリポたんぱく質中酸化脂質の迅速解析. 第42回日本医用マススペクトル学会年会, 東京, 2017.9.
28. 三浦佑介, 櫻井俊宏, 津久井隆行, 陳 震, 布田博敏, 千葉仁志, 惠 淑萍: LC-MS/MSによる近位尿細管上皮細胞の脂質分析. 第42回日本医用マススペクトル学会年会, 東京, 2017.9.
29. 陳 震, 呉 玥, 馬 逸興, 小林 悠, 趙 瑤瑤, 三浦佑介, 惠 淑萍, 千葉仁志: LC/MS/MSを用いた過酸化カルジオリピン分子種の一斉分析. 第42回日本医用マススペクトル学会年会, 東京, 2017.9.
30. 趙 瑤瑤, 千葉仁志, 惠 淑萍: エポキシ化反応及びMSによる不飽和脂肪酸の二重結合に関する分析と定量. 第42回日本医用マススペクトル学会年会, 東京, 2017.9.
31. 惠 淑萍, Rojeet Shrestha, 三浦佑介, 陳 震, 玉腰暁子, 千葉仁志: Serum total and non-esterified fatty acid profiling in healthy Japanese individuals. 第57回日本臨床化学学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
32. 惠 淑萍, 三浦佑介, Rojeet Shrestha, 櫻井俊宏, 武田晴治, 布田博敏, 千葉仁志: ヒトリポタンパク質における非極性脂質の酸化に関する分析. 第57回日本臨床化学学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
33. 櫻井俊宏, Alan T. Remaley: apoC2 mimetic peptide は食後のTG上昇を抑制する. 第57回日本臨床化学学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
34. 櫻井俊宏, Alan T. Remaley: apoC2-knockout mouse は耐糖能異常を引き起こす. 第57回日本臨床化学学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
35. 櫻井俊宏, Alan T. Remaley: Bodipy-cholesterol を用いる LCAT 活性測定法の開発. 第57回日本臨床化学学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
36. 古川貴之, 比能 洋, 武田晴治, 千葉仁志, 西村紳一郎, 惠 淑萍: グライコプロッティング法によるリポタンパク質中の脂質アルデヒド分析. 第57回日本臨床化学学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.

V. 研究活動

37. 古川貴之, 布田博敏, 千葉仁志, 惠 淑萍: リゾホスファチジルエタノールアミンの簡便合成法及び分析法の開発と NASH モデルマウスへの応用. 第 57 回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
38. 千葉仁志, 郭 先薈, 津久井隆行, 馬 逸興, 陳 震, 布田博敏, 惠 淑萍: 脂肪蓄積と酸化ストレス曝露による肝細胞の代謝変化と過酸化脂質放出. 第 57 回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
39. 武田晴治, アグス スバギョ, 布田博敏, 惠 淑萍, 末岡和久, 千葉仁志: 酸化還元電位および硬さ分布から LDL の酸化状態を評価. 第 57 回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
40. 武田晴治, アグス スバギョ, 布田博敏, 惠 淑萍, 末岡和久, 千葉仁志: LDL の酸化および酵素処理が硬さに与える影響について. 第 57 回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
41. 布田博敏, 上甲紗愛, 渡邊 貢, 武田晴治, 古川貴之, 惠 淑萍, Rojeet Shrestha, 千葉仁志: マガキ由来抗酸化物質の Keap1-Nrf2 経路活性化と抗酸化能. 第 57 回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
42. 津久井隆行, 布田博敏, 惠 淑萍, 千葉仁志: 高脂肪食および酸化 LDL 負荷マウスにおける腎層の脂肪蓄積. 第 57 回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
43. 陳 震, Wu Yue, 馬 逸興, 小林 悠, 趙 瑤瑤, 三浦佑介, 千葉仁志, 惠 淑萍: Profiling of Cardiolipins and Their Hydroperoxides in HepG2 Cells by LC/MS. 第 57 回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
44. Wu Yue, 陳 震, 臧 黎清, 趙 瑤瑤, 三浦佑介, 西村訓弘, 千葉仁志, 惠 淑萍: Simultaneous profiling of phospholipids and their hydroperoxides in hyperglycemia zebrafish by LC/MS. 第 57 回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
45. 富田優理, Rojeet Shrestha, 平野賢一, 千葉仁志, 惠 淑萍: An improved LC/MS assay for the measurement of plasma capric acid. 第 57 回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
46. 加藤颯太, 三浦佑介, 櫻井俊宏, Rojeet Shrestha, 陳 震, 玉腰暁子, 千葉仁志, 惠 淑萍: 質量分析による血清コレステリルエステルの分析. 第 57 回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
47. 大浦弘太郎, 津久井隆行, 千葉仁志, 惠 淑萍: オレイン酸負荷により細胞内に形成させた脂肪滴の酸化変動解析および抗酸化物質による酸化抑制の検討. 第 57 回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
48. 白澤憲典, 早坂孝宏, 深井 原, 梅本浩平, 石川隆壽, 櫻井俊宏, 布田博敏, 橋本咲月, 大谷晋太郎, 中藪拓哉, 島田慎吾, 嶋村 剛, 武富紹信, 千葉仁志, 惠 淑萍: 冷保存肝の脂質の網羅的解析. 第 57 回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
49. 三浦佑介, 櫻井俊宏, 津久井隆行, 陳 震, 布田博敏, 千葉仁志, 惠 淑萍: ヒト近位尿細管上皮細胞における蓄積脂質の分析. 第 57 回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
50. 寺田 航, 古川貴之, 李 娜, 三浦佑介, 千葉仁志, 惠 淑萍: プラズマローゲンライブラリーの合成と LC/MS を用いた絶対定量系の開発. 第 57 回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
51. 山本祐輔, 古川貴之, 武田晴治, 千葉仁志, 惠 淑萍: フッ素置換構造を鍵としたリゾリン脂質異性体の合成と物性に関する研究. 第 57 回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
52. 岸田佳倫, 櫻井俊宏, 仲門菜月, 布田博敏, 古川貴之, 千葉仁志, 惠 淑萍: プロテオミクスを用いる抗酸化酵素群の発現量解析. 第 57 回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
53. 仲門菜月, 櫻井俊宏, 岸田佳倫, 布田博敏, 津久井隆行, 千葉仁志, 惠 淑萍: 酸化 LDL が肝由来株化細胞 C3A に及ぼす影響. 第 57 回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.

V. 研究活動

54. 石津明洋：血管炎における好中球細胞外トラップ (NETs) の関与. 第 37 回日本川崎病学会・学術集会ランチョンセミナー, 東京, 2017.10.
55. 惠 淑萍, 三浦佑介, 櫻井俊宏, 武田晴治, 布田博敏, 千葉仁志：ヒトリポ蛋白中の過酸化コレステリルエステル及びトリグリセリドの同定. 第 24 回日本未病システム学会学術総会, 横浜, 2017.11.
56. 三浦佑介, 古川貴之, 小林美穂, 清水 力, 千葉仁志, 惠 淑萍：腎疾患における尿中バイオマーカーとしてのコレステリルエステルの有用性. 第 24 回日本未病システム学会学術総会, 横浜, 2017.11.
57. 布田博敏, 上甲紗愛, 渡邊 貢, 武田晴治, 古川貴之, Rojeet Shrestha, 惠 淑萍, 千葉仁志：直接及び間接抗酸化物質における分配係数, 細胞毒性及び細胞保護能の比較. 第 24 回日本未病システム学会学術総会, 横浜, 2017.11.
58. 益田紗季子, 野々川菜佑, 西端友香, 岩崎沙理, 辻 隆裕, 田中 敏, 外丸詩野, 川上民裕, 石津明洋：ANCA 関連血管炎の壊死性病変部における NETs の存在と病的意義. 第 22 回日本血管病理研究会, 東京, 2017.11.
59. 西端友香, 植松千浩, 益田紗季子, 田中 敏, 外丸詩野, 石津明洋：プロテアーゼによる抗糸球体基底膜抗体病の隔絶抗原の表出. 第 22 回日本血管病理研究会, 東京, 2017.11.
60. 八反田文彦, 渡邊加奈子, 益田紗季子, 中沢大悟, 西尾妙織, 外丸詩野, 渥美達也, 石津明洋：ANCA 関連血管炎 (AAV) における抗 NETs 抗体の存在と病的意義. 第 23 回 MPO 研究会, 東京, 2017.12.
61. 二俣絵美花, 益田紗季子, 西端友香, 田中 敏, 外丸詩野, 石津明洋：MPO-ANCA 関連血管炎はなぜ pauci-immune 型病変となるのか? 第 23 回 MPO 研究会, 東京, 2017.12.
62. 石津明洋：自己血管内皮細胞反応性 type II NKT 細胞の機能異常と小型血管炎の発症. 血管炎病因病態研究会, 東京, 2018.3.
63. 村山迪史, 加賀早苗, 岡田一範, 市川絢子, 中鉢雅大, 横山しのぶ, 西野久雄, 更科美羽, 辻永真吾, 林 大知, 岩野弘幸, 西田 睦, 澁谷 斉, 山田 聡, 三神大世, 安斉俊久：Accurate estimation of pulmonary artery wedge pressure by pre-atrial contraction pulmonary arterial-right ventricular pressure gradient using continuous-wave Doppler. 第 82 回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2018.3.
64. 更科美羽, 山田 聡, 岩野弘幸, 岡田一範, 辻永真吾, 林 大知, 村山迪史, 市川絢子, 中鉢雅大, 横山しのぶ, 西野久雄, 加賀早苗, 安斉俊久：Property and significance of intra-left ventricular early-disastolic vortex in normal and dilated heart. 第 82 回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2018.3.
65. 松尾淳司, 大久保寅彦, 中村真二, 山口博之：Chlamydia trachomatis は感染後期に宿主細胞のカスパーゼ 3 を活性化する. 第 91 回日本細菌学会総会, 福岡, 2018.3.
66. 大久保寅彦, 松尾淳司, 中村真二, 山口博之：病院で用いられる乾燥床材上での細菌間の闘ぎ合い：残存生菌数と ATP 量のギャップから紐解く細菌の生存戦略. 第 91 回日本細菌学会総会, 福岡, 2018.3.
67. 酒井昂平, 松尾淳司, 渡辺宜典, 大久保寅彦, 中村真二, 山口博之：低酸素環境において Chlamydia trachomatis の感染動態を修飾する要因：感染実験の成否を握る鍵は何か. 第 91 回日本細菌学会総会, 福岡, 2018.3.
68. 松下瑞江, 松尾淳司, 大久保寅彦, 山口博之：繊毛虫はヒト病原細菌と水系環境細菌を双方向的な薬剤耐性プラスミドの接合伝達の促進作用を介して結ぶ. 第 91 回日本細菌学会総会, 福岡, 2018.3.
69. 渡辺宜典, 大久保寅彦, 大崎敬子, 松尾淳司, 神谷 茂, 山口博之：札幌地下歩行空間における空气中浮遊細菌叢の解析. 第 91 回日本細菌学会総会, 福岡, 2018.3.

V. 研究活動

[地方会]

1. 岡田一範, 山田 聡, 岩野弘幸, 西野久雄, 中鉢雅大: 肥大心における心筋機能の低下と心腔収縮機能が保持されるメカニズム: 心筋層別ストレイン解析に基づく考察. 第8回札幌コレギウム・心エコー, 札幌, 2017.4.
2. 七戸加奈, 邵 旻蓉, 山本麻衣, 河野圭伍, 高橋一人, 堤 豊, 三輪佳子, 加賀早苗, 岡田一範, 政氏伸夫: 非定量的分類基準に準じて初学者が行った骨髓有核細胞鑑別. 第52回日本血液学会春季北海道地方会, 札幌市, 2017.4.
3. 邵 旻蓉, 七戸加奈, 山本麻衣, 河野圭伍, 高橋一人, 堤 豊, 三輪佳子, 加賀早苗, 岡田一範, 政氏伸夫: 非定量的分類基準に準じて初学者が行った正常末梢血白血球分類. 第52回日本血液学会春季北海道地方会, 札幌市, 2017.4.
4. 岡田一範, 西野久雄, 中鉢雅大, 岩野弘幸, 山田 聡: 肥大心における心筋機能の低下と心腔収縮機能が保持されるメカニズムについて. 第5回循環器イメージングを学ぶ会, 札幌, 2017.7.
5. 山口博之, 松尾淳司, 大久保寅彦, 中村眞二: 巨大ウイルス Mimiviridae 科が環境クラミジアの進化に与えた影響について. 第84回日本細菌学会北海道支部学術総会, 札幌, 2017.8.
6. 松尾淳司, 大久保寅彦, 中村眞二, 山口博之: Chlamydia 感染による DEVD 配列挿入環状ルシフェラーゼ発現細胞のカスパーゼ3活性化測定. 第84回日本細菌学会北海道支部学術総会, 札幌, 2017.8.
7. 大久保寅彦, 松尾淳司, 大崎敬子, 神谷 茂, 山口博之: 札幌地下歩行空間での空気中浮遊細菌の菌叢解析. 第84回日本細菌学会北海道支部学術総会, 札幌, 2017.8.
8. 酒井昂平, 松尾淳司, 渡辺宜典, 大久保寅彦, 中村眞二, 山口博之: 低酸素条件培養下で Chlamydia trachomatis の感染動態を修飾する要因について. 第84回日本細菌学会北海道支部学術総会, 札幌, 2017.8.
9. 松下瑞江, 大久保寅彦, 松尾淳司, 中村眞二, 山口博之: 共生細菌依存的なアメーバによるヒト病原細菌の運搬現象について. 第84回日本細菌学会北海道支部学術総会, 札幌, 2017.8.
10. 渡辺宜典, 瀧 圭介, 松尾淳司, 大久保寅彦, 酒井昂平, 松下瑞江, 山口博之: 膣頸管スワブからの性器クラミジアの検出率と菌叢解析: 腸内細菌科が与えるインパクト. 第84回日本細菌学会北海道支部学術総会, 札幌, 2017.8.
11. 加賀早苗, 岡田一範, 黒壁大貴, 政氏伸夫, 三神大世: 心筋ストレイン計測に基づく前毛細管性肺高血圧症と後毛細管性肺高血圧症との鑑別. 第1回先端生体超音波シンポジウム, 仙台, 2017.9.
12. 岡田一範, 加賀早苗, 櫻田ひかり, 政氏伸夫, 三神大世: 左室の形状が駆出期のエネルギー損失に与える影響: Vector Flow Mapping を用いた正常心における検討. 第1回先端生体超音波シンポジウム, 仙台, 2017.9.
13. 黒壁大貴, 加賀早苗, 岡田一範, 政氏伸夫, 三神大世: 肺動脈弁逆流速度計測に基づく肺血管抵抗の非侵襲的推定: 心肺疾患患者に広く適用できる方法の検討. 第1回先端生体超音波シンポジウム, 仙台, 2017.9.
14. 山本麻衣, 河野圭伍, 早田瑠架, 村上 悟, 黒木麻衣子, 七戸加奈, 邵 旻蓉, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫: テクスチャ解析を用いた末梢血白血球形態の定量的定義と判別. 第1回先端生体超音波シンポジウム, 仙台, 2017.9.
15. 七戸加奈, 山本麻衣, 河野圭伍, 前田里衣, 後藤美沙紀, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫: 抗酸化剤, 鉄キレート剤添加血液検体における血球計数の経時的変化. 第1回先端生体超音波シンポジウム, 仙台, 2017.9.

V. 研究活動

16. 河野圭吾, 早田瑠架, 村上 悟, 山本麻衣, 黒木麻衣子, 邵 旻蓉, 七戸加奈, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫: 血液細胞画像のテクスチャ解析により作成した判定行列の判定能の検討. 第1回先端生体超音波シンポジウム, 仙台, 2017.9.
17. 河野圭伍, 山本麻衣, 七戸加奈, 邵 旻蓉, 村上 悟, 早田瑠架, 三輪佳子, 堤 豊, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫: 血液細胞画像のテクスチャ解析により作成した判定行列の判定能の検討. 第59回日本血液学会秋季北海道地方会, 札幌市, 2017.10.
18. 七戸加奈, 後藤美沙紀, 前田里衣, 橋ことみ, 菅野加奈絵, 西 清孝, 邵 旻蓉, 河野圭伍, 山本麻衣, 岡田一範, 加賀早苗, 政氏伸夫: 抗酸化剤, 鉄キレート剤添加血液検体における血球計数の経時的変化. 第59回日本血液学会秋季北海道地方会, 札幌市, 2017.10.
19. 西端友香, 植松千浩, 益田紗季子, 田中 敏, 外丸詩野, 石津明洋: プロテアーゼによる抗糸球体基底膜抗体病の隔絶抗原の表出. 第50回北海道病理談話会, 札幌, 2017.10.
20. 杜 佳慧, 工藤悠輔, 岡田一範, 加賀早苗, 表原里実, 岩井孝仁, 高杉莉佳, 西田 睦, 澁谷 斉, 三神大世: ファントムを用いた超音波診断装置の精度管理における検者間差. 日本超音波医学会第47回地方会学術集会, 札幌, 2017.12.
21. 更科美羽, 山田 聡, 岩野弘幸, 岡田一範, 辻永真吾, 林 大知, 市川絢子, 中鉢雅大, 横山しのぶ, 安齊俊久: 健常心と拡大心における拡張早期の左室内渦の特徴と意義. 日本超音波医学会第47回地方会学術集会, 札幌, 2017.12.
22. 柳 裕介, 岡田一範, 加賀早苗, 西野久雄, 横山しのぶ, 岩野弘幸, 山田 聡, 政氏伸夫, 三神大世, 安齊俊久: 肥大型心筋症における左房リザーバ機能障害の機序: 三次元スペックルトラッキング法による検討. 日本超音波医学会第47回地方会学術集会, 札幌, 2017.12.
23. 猪股百華, 加賀早苗, 岡田一範, 政氏伸夫, 横山しのぶ, 岩野弘幸, 山田 聡, 辻野一三, 三神大世, 安齊俊久: 前毛細管性肺高血圧症における心拍出量の低下に左室心筋機能障害が果たす役割. 日本超音波医学会第47回地方会学術集会, 札幌, 2017.12.
24. 村山迪史, 加賀早苗, 岡田一範, 辻永真吾, 林 大知, 岩野弘幸, 山田聡, 西田 睦, 澁谷 斉, 三神大世: 心房収縮直前の肺動脈弁逆流速度計測に基づく左室充満圧上昇の判定はASEのアルゴリズムに優る. 日本超音波医学会第47回地方会学術集会, 札幌, 2017.12.
25. 村山迪史, 山田 聡, 岡田一範, 岩野弘幸, 西野久雄, 横山しのぶ, 中鉢雅大, 市川絢子, 西田 睦, 澁谷 斉: 高血圧性心疾患と肥大型心筋症の鑑別における心筋ストレインの役割: 壁厚と壁応力を考慮した検討. 日本超音波医学会第47回地方会学術集会, 札幌, 2017.12.
26. 岡田一範, 加賀早苗: 左房収縮時逆行/順行血流量比の左室硬さ指標としての有用性およびその心不全リスク層別化に関する研究. 第3回北海道大学部局横断シンポジウム, 札幌, 2018.1.
27. 岡田一範, 加賀早苗, 辻田孝輔, 原 瑞希, 吉川綾香, 坂本洋一, 政氏伸夫, 三神大世: S字状中隔例における右室サイズ評価の注意点. 日本超音波検査学会北海道地方会第32回学術集会, 札幌, 2018.3.
28. 村山迪史, 岩野弘幸, 西野久雄, 横山しのぶ, 中鉢雅大, 市川絢子, 林 大知, 辻永真吾, 更科美羽, 岡田一範, 加賀早苗, 西田 睦, 澁谷 斉, 山田 聡, 安齊俊久: 高度大動脈弁逆流により拡張末期の大動脈弁開放を認めた高安動脈炎の1例. 第25回北海道心血管エコー研究会, 札幌, 2018.3.
29. 河内麻里亜, 浄土 智, 泉原里美, 上垣里紗, 小野 涉, 服部敏之, 渡邊俊之, 石津明洋: 末梢性T細胞性リンパ腫との鑑別を要した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の一例. 第43回北海道リウマチ研究会, 札幌, 2018.3.

V. 研究活動

30. 谷村 瞬, 西田 睦, 堀江達則, 神島 保, 玉井絵里香, 森村 豊, 西端友香, 益田紗季子, 外丸詩野, 渥美達也, 石津明洋: スタチンの関節炎抑制効果と機序の検討. 第43回北海道リウマチ研究会, 札幌, 2018.3.

■業績

機能回復学分野

A. 学術論文

1. Maejima H, Kanemura N, Kokubun T, Murata K, Takayanagi L: Exercise enhances cognitive function and neurotrophin expression in the hippocampus accompanied by changes in epigenetic programming in senescence-accelerated mice. *Neurosci Lett* 665: 67-73, 2018.
2. Inoue T, Ninuma S, Hayashi M, Okuda A, Asaka T, Maejima H: Effects of long-term exercise and low-level inhibition of GABAergic synapses on motor control and the expression of BDNF in the motor-related cortex. *Neurol Res* 40: 18-25, 2018.
3. Hasegawa N, Takeda K, Sakuma M, Mani H, Maejima H, Asaka T. Learning effects of dynamic postural control by auditory biofeedback versus visual biofeedback training. *Gait Posture* 58: 188-193, 2017.
4. Takeda K, Mani H, Hasegawa N, Sato Y, Tanaka S, Maejima H, Asaka T: Adaptation effects in static postural control by providing simultaneous visual feedback of center of pressure and center of gravity. *J Physiol Anthropol* 36 (DOI: 10.1186/s40101-017-0147-5), 2017.
5. Murakami Y, Sakai S, Takeda K, Sawamura D, Yoshida K, Hirose T, Ikeda C, Mani H, Yamamoto T, Ito A: Autistic traits modulate the activity of the ventromedial prefrontal cortex in response to female faces. *Neurosci Res* 12: [Epub ahead of print], 2017.
6. Koshino Y, Yamanaka M, Ezawa Y, Okunuki T, Ishida T, Samukawa M, Tohyama H: Coupling motion between rearfoot and hip and knee joints during walking and single-leg landing. *J Electromyogr Kinesiol* 37:75-83, 2017
7. Ueno R, Ishida T, Yamanaka M, Taniguchi S, Ikuta R, Samukawa M, Saito H, Tohyama H. Quadriceps force and anterior tibial force occur obviously later than vertical ground reaction force: a simulation study. *BMC Musculoskelet Disord* 18: 467, 2017.
8. Koshino Y, Ishida T, Yamanaka M, Samukawa M, Kobayashi T, Tohyama H: Toe-in Landing Increases the Ankle Inversion Angle and Moment During Single-Leg Landing: Implications in the Prevention of Lateral Ankle Sprains. *J Sport Rehabil* 26:530-535, 2017
9. Ibuki A, Mani H, Takeda K, Hasegawa N, Yamamoto K, Maejima H, Asaka T: Characteristic relationship between the centre of pressure and the centre of mass during quiet standing in female ballet dancers. *Int Phys Med Rehab J* (DOI: 10.15406/ipmrj.2017.01.00009), 2017.
10. Shimoda T, Suzuki T, Takahashi N, Tsutsumi K, Samukawa M, Yoshimachi S, Goto T, Enomoto H, Kise N, Ogasawara K, Yoshimura S: Nutritional status and body composition of independently living older adults in a snowy region of Japan. *Gerontol Geriatr Med* 3:1-9, 2017.
11. コリー紀代, 清水弘美, 萬井太規, 浅賀忠義: 気管内吸引反復施行時の習熟度別動作変動性. *医工学治療*, 30 : 53-59, 2018.
12. 石田知也, 松本 尚, 鈴木 信, 山中正紀, 遠山晴一, 青木喜満: ROC 曲線を用いた膝前十字靭帯再建術症例に対する術後早期の膝伸展筋力のカットオフ置の検討. *日本整形外科スポーツスポーツ医学会誌* 38 : 74-78, 2018.

V. 研究活動

13. 生田亮平, 石田知也, 谷口翔平, 上野 亮, 佐藤正裕, 遠山晴一, 山中正紀: ビデオフィードバックによる指導介入が drop vertical jump における膝関節生体力学に与える即時効果. J Athl Rehabil 14: 31-36, 2018.
14. 奥貫拓実, 越野裕太, 山中正紀, 江沢侑也, 寒川美奈, 遠山晴一; 足部 multi-segment model を用いた歩行時の足部内側縦アーチの動的変化と足部 kinematics の相関性の検討. 日本臨床スポーツ医学会誌 25: 232-237, 2017.
15. 笠原敏史, 小松夏来, 齋藤展士, 遠藤沙紀: 高齢者の立位での運動停止の特徴. 理学療法科学 (印刷中)

B. 著書

1. Tohyama H, Yasuda K (分担): Growth Factors and Other New Methods for Graft Healing enhancement. (Prodromos C, edited). The anterior cruciate ligament: Reconstruction and basic science, 2nd Edition: ISBN 978-0-323-38962-4 Elsevier, 569-572, 2017
2. 寒川美奈 (分担): 理学的検査. Mobility. (片寄正樹, 小林寛和, 松田直樹編). スポーツ理学療法プラクティス, 文光堂, 32-38, 2017.

C. 総説, 解説, 論評

1. 寒川美奈: 女性アスリートの健康問題と理学療法. 理学療法 34: 1101-1105, 2017.
2. 上野 亮, 山中正紀, 遠山晴一. 膝前十字靭帯損傷の受傷機序に関するバイオメカニクス. 関節外科. 36: 212-219, 2017.
3. 櫻庭 陽, 寒川美奈, 鎌倉 一, 斉藤めぐみ, 加藤大平, 近藤 宏: 冬季スポーツ障害からみた鍼灸の可能性. 全日本鍼灸学会雑誌 67: 349-360, 2017.

D. 報告書

E. その他

[受賞]

1. 浅賀忠義: 日本健康行動科学会第 16 回学術大会大会長優秀発表賞, パーキンソン病患者に対する傾斜台立位の効果について

[学会研究会の主催]

1. 浅賀忠義: 日本健康行動科学会第 16 回学術大会大会長. 2017 年 9 月, 札幌市.

[特許]

[報道]

V. 研究活動

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Tohyama H: Universities' role in mega sports events. Medical support through academic network "ACL study group". The 20th Seoul national university and Hokkaido university joint symposium. Pyeong Chang, South Korea, 2017.11.
2. Samukawa M: Physical therapy services for mega sports events. The 20th Seoul national university and Hokkaido university joint symposium. Pyeong Chang, South Korea, 2017.11.

[国内学会]

1. 遠山晴一:膝オーバーユース障害に対する保存的治療のエビデンス. 第90回日本整形外科学会学術総会, 仙台, 2017.5.

[地方会]

B) 一般演題

[国際学会]

1. Maejima H., Kanemura N., Kokubun T., Murata K., Takayanagi K. Effects of aging and treadmill exercise on cognitive function and the expression of BDNF in the hippocampus. Experimental Biology 2017, Chicago, 2017.4.
2. Takahashi K, Maejima H, Ikuta G, Mani H, Asaka T: Exercise combined with low-level GABAA receptor inhibition up-regulates the expression of neurotrophins in the motor cortex. Experimental Biology 2017, Chicago, IL. 2017. 4.
3. Chiba T, Yamanaka M, Sabashi K, Samukawa M, Saitoh H, Kobayashi T, Toyama H: Comparison of trunk and pelvic kinematics during single-leg standing between individuals with knee osteoarthritis and healthy subjects. Osteoarthritis Research Society International World Congress. Las Vegas, USA, 2017.4.
4. Sabashi K, Yamanaka M, Chiba T, Samukawa M, Saitoh H, Yuri M, Hori H, Tohyama H: Association of functional reach test with quality of life in patients with knee osteoarthritis. Osteoarthritis Research Society International World Congress. Las Vegas, USA, 2017.4.
5. Inoue T, Nimuma S, Hayashi M, Okuda A, Asaka T, Maejima H: Effects of long-term exercise combined with low-level inhibition of GABAergic synapses on motor control and the expression of BDNF in the motor cortex. The 3rd FHS International Conference. Sapporo, 2017.7.
6. Hasegawa N, Takeda K, Mani H, Maejima H, Asaka T: Adaptation effects of postural control during standing on a tilting board in patients with Parkinson's disease. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, 2017.7.
7. Taneda K, Tanaka S, Takeda K, Hasegawa N, Kodama Y, Mani H, Asaka T: Influences of visual field loss for postural stability during quiet standing in healthy young adults. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, 2017.7.

V. 研究活動

8. Takeda K, Mani H, Hasegawa N, Maejima H, Asaka T: Adaptation effects in static postural control by providing simultaneous visual feedback of center of pressure and center of gravity. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, 2017.7.
9. Nishikawa Y, Nakamura K, Ono M, Chiba I, Samukawa M: Effects of dynamic stretching on motoneuron excitability. The 3rd FHS International Conference. Sapporo, 2017.7.
10. Chiba I, Nakamura K, Ono M, Nishikawa Y, Samukawa M: The effect of dynamic stretching with aerobic exercise on muscle temperature and jump performance. The 3rd FHS International Conference. Sapporo, 2017.7.
11. Saito Y, Yamanaka M, Miura T, Saito Y, Ueno R, Ino T, Kataoka Y, Samukawa M, Saitoh H, Toyama H: Abdominal muscle activity during motor control exercise and sling exercise. The 3rd FHS International Conference. Sapporo, 2017.7.
12. Samukawa M, Nakamura K, Oba K, Yamanaka M, Tohyama H: The effects of icing on stiffness of muscle-tendon unit at ankle plantar flexors. The 2nd World Congress of Sports Physical Therapy, Belfast, England, 2017.10.
13. Maejima H, Ninuma S, Okuda A, Inoue T, Hayashi M: Exercise combined with low-level GABAA receptor inhibition modulates the expression of BDNF in the hippocampus accompanied by changes in epigenetic regulation. The Society for Neuroscience 46th Annual Meeting (Neuroscience 2017). Washington DC, 2017.11.
14. Tohyama H, Ueno R, Ishida T, Yamanaka M: Effects of muscle forces on knee biomechanics during landing tasks. 2018 ACL Study Group Meeting, Queenstown, New Zealand, 2018.1.
15. Ueno R, Ishida T, Yamanaka M, Taniguchi S, Samukawa M, Saito H, Tohyama H: Correlative relationship between gluteus medius force and knee valgus moment during drop vertical jump task in female subjects. The 64th Orthopaedic Research Society Annual Meeting, New Orleans, USA, 2018.3.
16. Osuka S, Yamanaka M, Miura T, Saito Y, Ueno R, Samukawa M, Saitoh H, Toyama H: Changes in feedforward activation of the deep abdominal muscles associated with trunk rotational torque in subjects with non-specific chronic low back pain. The 64th Orthopaedic Research Society Annual Meeting, New Orleans, USA, 2018.3.

[国内学会]

1. 笠原敏史, 齋藤展士. 前方足圧中心移動時の高齢者の反応時間の遅延と下肢筋活動抑制の低下. 第53回日本理学療法学会. 千葉市, 2017.5.
2. 横山美翔, 寒川美奈, 宮崎未来, 石田優子, 鈴木雄貴, 生田亮平, 奥貫拓実, 佐橋健人, 齋藤展士, 遠山晴一, 山中正紀: 月経前症候群に対するストレッチ介入効果の検討. 第52回日本理学療法学会, 千葉市, 2017.05.
3. 金村尚彦, 村田健児, 国分貴徳, 今北英高, 武本秀徳, 森山英樹, 前島 洋, 高柳清美: 走行運動による中枢神経活性化因子の発現動態. 第52回日本理学療法学会. 千葉, 2017.5.
4. 萬井太規, 宮城島沙織, 小玉祐矢, 武田賢太, 小塚直樹, 浅賀忠義: 片脚立位保持の姿勢戦略の発達について. 日本健康行動科学会第16回学会, 札幌, 2017.9.

V. 研究活動

5. 小玉祐矢, 萬井太規, 宮城島沙織, 武田賢太, 小塚直樹, 浅賀忠義: 歩行開始における予測的姿勢調節の発達. 日本健康行動科学会第16回学術大会, 札幌, 2017.9.
6. 船水風花, 佐藤祐樹, 長谷川直哉, 浅賀忠義: パーキンソン病患者に対する傾斜台立位の効果について. 日本健康行動科学会第16回学術大会, 札幌, 2017.9.
7. 武田賢太, 花木里穂, 長谷川直哉, 萬井太規, 菅田葉月, 浅賀忠義: 立位姿勢反応と安定性限界が改善したパーキンソン病患者の一症例—足圧中心随伴型床面移動刺激装置を用いた練習効果—日本健康行動科学会第16回学術大会, 札幌, 2017.9.
8. 種田健二, 田中晨太郎, 武田賢太, 長谷川直哉, 小玉祐矢, 萬井太規, 浅賀忠義: 周辺視野狭窄が姿勢安定性に及ぼす影響について. 日本健康行動科学会第16回学術大会, 札幌, 2017.9.
9. 丸谷孝史, 武田賢太, 萬井太規, 浅賀忠義: 視覚フィードバック練習が立位における重心動揺のカオス性に及ぼす影響. 日本健康行動科学会第16回学術大会, 札幌, 2017.9.
10. 佐藤公博, 浅賀忠義: 在宅高齢者に対する地域コミュニティ支援活動の効果—「出前歌声喫茶」参加者アンケート調査による考察. 日本健康行動科学会第16回学術大会, 札幌, 2017.9.
11. 名和千尋, 萬井太規, 浅賀忠義: タンデム歩行練習による通常歩行への影響について. 日本健康行動科学会第16回学術大会, 札幌, 2017.9.
12. 萬井太規, 長谷川直哉, 武田賢太, 佐藤祐樹, 田中晨太郎, 呉 瑕, 前島 洋, 浅賀忠義: バランスボード上の姿勢戦略の順応効果. 第52回日本理学療法学術大会, 千葉, 2017.5.
13. 田中晨太郎, 長谷川直哉, 武田賢太, 大橋哲朗, 佐藤祐樹, 丸谷孝史, 金 雪梅, 萬井太規, 浅賀忠義: 反復後方ステップ練習による非予測的外乱時の即時効果. 第52回日本理学療法学術大会, 千葉, 2017.5.
14. 長谷川直哉, 佐藤祐樹, 武田賢太, 大橋哲朗, 田中晨太郎, 丸谷孝史, 加藤新司, 中山恭秀, 萬井太規, 浅賀忠義: 傾斜台上立位保持がパーキンソン病患者の安定性限界と歩行に与える即時効果. 第52回日本理学療法学術大会, 千葉, 2017.5.
15. 佐橋健人, 山中正紀, 千葉 健, 寒川美奈, 齋藤展士, 由利 真, 堀 弘明, 遠山晴一: 変形膝関節症症例における Functional reach test と QOL との相関性の検討. 第52回日本理学療法学術大会, 千葉市, 2017.05.
16. 大須賀聡, 山中正紀, 三浦拓也, 齋藤優輝, 上野 亮, 寒川美奈, 齋藤展士, 遠山晴一: 体幹回旋を伴う上肢運動時の体幹ローカル筋筋活動 onset の検討. 第52回日本理学療法学術大会, 千葉, 2017.05.
17. 佐橋健人, 山中正紀, 千葉 健, 佐々木駿, 水野 歩, 寒川美奈, 齋藤展士, 由利 真, 遠山晴一: 歩行時の外的股関節内転モーメントには前額面レバーアームが関連する. 第5回日本運動器理学療法学会学術集会, 札幌市, 2017.09.
18. 千葉 健, 山中正紀, 佐橋健人, 佐々木駿, 水野 歩, 寒川美奈, 齋藤展士, 由利 真, 堀 弘明, 小林 巧, 遠山晴一: 変形性膝関節症患者と健常高齢者の片脚立位課題における骨盤・体幹の運動学的挙動の比較. 第5回日本運動器理学療法学会学術集会, 札幌, 2017.09.
19. 水野 歩, 山中正紀, 佐橋健人, 千葉 健, 佐々木駿, 寒川美奈, 齋藤展士, 遠山晴一: 昇段動作中の体幹側方傾斜が外的膝関節内反モーメントに与える影響～2つのピーク値に分けた検討. 第5回日本運動器理学療法学会学術集会, 札幌, 2017.09.
20. 寒川美奈, 中村賢太郎, 大場健裕, 山口太一, 瀧澤一騎, 山中正紀, 遠山晴一: 局所寒冷刺激が筋腱伸張性に与える影響. 第72回日本体力医学会大会, 松山市, 2017.09.

V. 研究活動

21. 寒川美奈, 鈴木哲平, 下田智子, 堤 b 香織, 高橋紀子, 高島理沙, 辻真太郎, 村田和香, 良村貞子, 小笠原克彦: 高齢女性における尿失禁と立ち上がり機能の関係性について. 第 24 回日本未病システム学会学術総会, 横浜, 2017.11.
22. 西川百合子, 中村賢太郎, 小野将尚, 千葉 至, 寒川美奈: ダイナミックストレッチングが神経系興奮性に与える影響. 第 72 回日本体力医学会大会, 松山市, 2017.09.
23. 笠原敏史, 齋藤展士, 遠藤沙紀, 小松夏来: 立位姿勢時の運動制動能力への加齢の影響. 第 72 回日本体力医学会大会. 松山, 2017.9.
24. 齋藤展士, 笠原敏史, 鈴森雄貴, 山中正紀: リーチ動作の繰り返しによる高齢者の運動パフォーマンスと姿勢制御の変化. 第 72 回日本体力医学会大会. 松山, 2017.9.
25. 千葉 至, 鶴喰 涼, 小野将尚, 中村賢太郎, 西川百合子, 寒川美奈: ウォームアップにおける有酸素運動とダイナミックストレッチングが筋温および垂直跳び高に与える影響. 第 72 回日本体力医学会大会, 松山, 2017.09.
26. 大場健裕, 寒川美奈, 三上兼太郎, 石田優子, 鶴喰 涼, 鈴森雄貴, 山中正紀, 遠山晴一: 異なる強度のコンスタントトルクストレッチングが足底屈筋の力学的特性に与える影響. 第 72 回日本体力医学会大会, 松山, 2017.09.
27. 鶴喰 涼, 寒川美奈, 瀧澤一騎, 石田優子, 大場健裕, 鈴森雄貴, 三上兼太郎, 小野将尚, 中村賢太郎, 山中正紀, 遠山晴一: 異なる強度のウォームアップがジャンプパフォーマンスに与える経時的变化の検討. 第 72 回日本体力医学会大会, 松山, 2017.09.
28. 石田優子, 寒川美奈, 大場健裕, 鈴森雄貴, 鶴喰 涼, 三上兼太郎, 小野将尚, 中村賢太郎, 佐藤正裕, 片寄正樹, 山中正紀, 遠山晴一: 腸腰筋に対するストレッチングが胸腰椎・骨盤アライメントへ与える効果. 第 72 回日本体力医学会大会, 松山, 2017.09.
29. 三上兼太郎, 寒川美奈, 大場健裕, 石田優子, 鶴喰 涼, 鈴森雄貴, 伊藤 雄, 石田知也, 松本 尚, 青木喜満: ハムストリングス肉離れ後の膝屈曲筋力発揮特性: 収縮様式と角速度を考慮した検討. 第 72 回日本体力医学会大会, 松山, 2017.09.
30. 鈴森雄貴, 寒川美奈, 井野拓実, 石田優子, 大場健裕, 鶴喰 涼, 三上兼太郎, 小野将尚, 中村賢太郎, 山中正紀, 遠山晴一: 投球動作の Wind-up 相における体幹伸張が後相に及ぼす影響. 第 72 回日本体力医学会大会, 松山, 2017.09.
31. 山口太一, 瀧澤一騎, 寒川美奈, 山中正紀, 柴田啓介, 苔米地伸泰, 東郷将成, 保科圭汰, 佐藤未来: 走運動後のダイナミックストレッチング実施による持久力パフォーマンス改善はストレッチング後の休息時間がカギとなる. 第 72 回日本体力医学会大会, 松山, 2017.09.
32. 越野裕太, 山中正紀, 村田拓陸, 佐藤冴香, 千田周也, 寒川美奈, 井上雅之, 遠山晴一: 足関節捻挫既往例における慢性足関節不安定症進展例と非進展例の疫学的特徴の相違. 第 28 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2017.11.
33. 千々松雅人, 石田知也, 山中正紀, 谷口翔平, 上野 亮, 寒川美奈, 遠山晴一: 片脚着地後のジャンプ動作が着地時の膝外反モーメントに与える影響. 第 28 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2017.11.
34. 岡田慎平, 越野裕太, 遠山晴一, 千田周也, 五十嵐将人, 佐藤冴香, 寒川美奈, 山中正紀: 足部形態が片脚立位時の姿勢安定性および足関節周囲筋に与える影響の検討. 第 28 回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2017.11.

V. 研究活動

35. 村田拓陸, 越野裕太, 遠山晴一, 佐藤冴香, 千田周也, 寒川美奈, 山中正紀: 大学スポーツ選手を対象とした慢性足関節不安定症の有病率とその特徴の検討. 第28回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 東京, 2017.11.
36. 齋藤優輝, 山中正紀, 三浦拓也, 大須賀聡, 井野拓実, 寒川美奈, 齋藤展士, 小谷征輝, 原 清和, 遠山晴一: 前方傾斜運動時の前傾角度の違いが体幹筋活動に及ぼす影響. 第25回日本腰痛学会, 東京, 2017.11.
37. 浅賀忠義: 感覚フィードバックによる姿勢バランスの学習効果. BiNI (Biomechanics and Neuroscience Integrative) Perspective Conference 2017, 東京, 2018.3.

[地方会]

V. 研究活動

■業績

生活機能学分野

A. 学術論文

1. Kim K, Hirayama K, Yoshida K, Yano R, Abe M, Otsuki M, Sakuraba S, Sakai S: Effect of exposure to short-wavelength light on susceptibility to motion sickness. *Neuro Report* 28 (10): 584-589, 2017. IF 1.34.
2. Yoshida K, Ogawa K, Mototani T, Inagaki Y, Sawamura D, Ikoma K, Sakai S: Flow experience enhances the effectiveness of attentional training-A pilot randomized controlled trial of patients with attention deficits after traumatic brain injury. *Neuro Rehabilitation*, in press. IF 1.495
3. Murakami Y, Sakai S, Takeda K, Sawamura D, Yoshida K, Hirose T, Ikeda C, Mani H, Yamamoto T, Ito A: Autistic traits modulate the activity of the ventromedial prefrontal cortex in response to female faces. *Neuroscience Research*, 133: 28-37, 2018. IF 2.06
4. 湯浅充, 村田和香: 離れて生活する家族とのつながりを結ぶ支援が生活に変化をもたらした認知症高齢者の事例. *作業療法* 37: 207 - 213, 2018.

B. 著書

1. 村田和香: “私らしさ”を支えるための高齢期作業療法 10 の戦略. 1 - 167. 医学書院, 東京, 2017.
2. 境 信哉(分担): 連合型視覚性物体失認. 高次脳機能障害の理解と診察(平山和美編). 84-87, 中外医学社, 東京, 2017.
3. 境 信哉(分担): 視覚・眼球運動. コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学 改訂4版(福田恵美子編). 170-178, 中外医学社, 東京, 2017.
4. 境 信哉(分担): ハンドスキル. コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学 改訂4版(福田恵美子編). 179-184, 中外医学社, 東京, 2017.

C. 総説, 解説, 論評

1. 村田和香: よりよく生きることを, より確かなものに. *作業療法* 36: 455, 東京, 2017.
2. 鈴木由美, 平山和美, 境 信哉: レビー小体型認知症者のパレイドリア出現時の瞳孔変動の特徴. *北海道医学雑誌* 92: 31, 2017.
3. 井上 馨: 視覚障害者の QOL と包括的な支援, 特集「目の健康と QOL」, *公衆衛生*, 81(5): 403-408. 2017.
4. 井上貴雄, 高見展江, 榎木浩行, 北川信樹: 精神科クリニックにおける認知リハビリテーションの実践. *北海道作業療法* 35(1): 17-24, 2018.

D. 報告書

V. 研究活動

E. その他

[受賞]

1. Kim K, Hirayama K, Yoshida K, Yano R, Abe M, Otsuki M, Sakuraba S, and Sakai S: Effect of exposure to short-wavelength light on susceptibility to motion sickness, The 3rd FHS International Conference Best Presentation Award, 2017
2. 村上優衣, 境 信哉, 武田賢太, 澤村大輔, 吉田一生, 廣瀬喬道, 池田千紗, 萬井太規, 山本 徹, 伊藤文人: 自閉症傾向が顔の選好判断および脳活動に与える影響—自閉症傾向が顔の選好判断および脳活動に与える影響。日本健康行動学会 第16回学術大会 大会長優秀発表賞, 2017.

[学会研究会の主催]

[特許]

[報道]

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

[国内学会]

1. 高島理沙:「現象学研究, 私の取り組み」. 日本作業行動学会第27回学術集会, 浜松, 2017.6.

[地方会]

B) 一般演題

[国際学会]

1. Jr Koch, Risa Takashima: 'A cultural things' - creating a special communication course. 2017 CALL-Plus Workshop, Sapporo, 2017.10.
2. Sawamura D, Suzuki Y, Asano M, Kimura M, Honke T, Iwase Y, Horimoto Y, Yoshida S, Yoshida K, Sakai S: Acquiring chopstick dexterity with the non-dominant hand and changes in brain activity pattern. The 1st Asia-Pacific Occupational Therapy Symposium, Taoyuan, Taiwan, 2017.10.
3. Inoue T, et al.: The Effect on ERP of cognitive remediation therapy in patients with schizophrenia. 17th World Congress of World Psychiatric Association, Berlin, 2017.10.
4. Kim K, Hirayama K, Yoshida K, Yano R, Abe M, Otsuki M, Sakuraba S, Sakai S.: Effect of exposure to short-wavelength light on susceptibility to motion sickness. The 13th International Congress of Physiological Anthropology, Loughborough, UK, 2017.9.
5. Inoue K, Koogami Y, Ichikawa K, Sekito K, Unoki Y, Ashihara K, Yokoyama C, Fujikawa K: An approach to increase moderate physical activity in daily life using accelerometer. The 13th International Congress of Physiological Anthropology, Loughborough UK, 2017. 9.

V. 研究活動

6. Murakami Y, Sakai S, Takeda K, Sawamura D, Yoshida K, Hirose T, Ikeda C, Mani H, Yamamoto T, and Ito A.: Autistic traits affect vmPFC activity associated with preference-related valuation. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, Japan, 2017.7.
7. Kim K, Hirayama K, Yoshida K, Yano R, Abe M, Otsuki M, Sakuraba S and Sakai S: Effect of exposure to short-wavelength light on susceptibility to motion sickness. The 3rd FHS International Conference, Sapporo, Japan, 2017.7.

[国内学会]

1. 村上優衣, 境 信哉, 武田賢太, 澤村大輔, 吉田一生, 廣瀬喬道, 池田千紗, 萬井太規, 山本 徹, 伊藤文人: 自閉症傾向が顔の選好判断および脳活動に与える影響 自閉症傾向が顔の選好判断および脳活動に与える影響. 日本健康行動科学会第 16 回学術大会, 札幌, 2017.9.
2. 谷口風由子, 井上貴雄ら: 精神科病院における IMR を活用したストレス対処プログラムの実践. 第 51 回日本作業療法学会, 東京, 2017.9.
3. 金 京室, 平山和美, 吉田一生, 矢野理香, 阿部正之, 大槻美佳, 桜庭 聡, 境 信哉: 短波長光への暴露が Motion sickness の感受性に及ぼす影響. 日本健康行動科学会第 16 回学術大会, 札幌, 2017.9.
4. 高島理沙, コホ JC Jr, 坂上真理: 知的障害者への英語教育における教員との協働的アプローチ～障害のある学習者に対して教員が経験しうる作業疎外～. 第 51 回日本作業療法学会, 東京, 2017.9.
5. 田畑友恵, 田中覚, 渡邊健二, 境 信哉, 竹島久志, 佐々木千穂: 在宅療養の重度肢体不自由児に対する早期コミュニケーション支援—SMA I 型児 2 例の支援を通して—. リハビリテーション・ケア合同研究大会, 久留米, 2017.10.
6. 井上貴雄ら: 気分障害患者における神経認知リハビリテーションとメタ認知トレーニングの効果. 第 22 回日本デイケア学会, 秋田 2017.10.
7. 井上貴雄ら: 児童・青年期における抑うつ症状, 躁症状, 自閉傾向と自己効力感の関連. 日本児童青年精神医学会第 58 回大会, 奈良, 2017.10.
8. 松崎由利, 井上貴雄ら: 北海道の小・中・高校生の心の健康調査 2011 年度と 2016 年度の比較. 日本児童青年精神医学会第 58 回大会, 奈良, 2017.10.
9. 佐藤祐基, 井上貴雄ら: 大学生の抑うつ症状および自閉傾向に関する調査研究. 日本児童青年精神医学会第 58 回大会, 奈良, 2017.10.
10. 青木楓, 井上貴雄ら: 大学生の気分・気質と自殺・死生観との関連. 第 41 回日本死の臨床研究会年次大会, 秋田, 2017.10.
11. 寒川美奈, 鈴木哲平, 下田智子, 堤香織, 高橋紀子, 高島理沙, 辻真太郎, 村田和香, 良村貞子, 小笠原克彦: 高齢女性における尿失禁と立ち上がり機能の関係性について. 第 24 回日本未病システム学会学術総会, 横浜, 2017.11.

[地方会]

■業績

健康科学分野

A. 学術論文

1. Tsuji S, Yagahara A, Wakabayashi Y, Horita K, Fujita K, Ogasawara K: Developing and Evaluating Radiotherapy Ordering System applied JJ1017 Codes. *J. Med. Imaging Health Inform.* 7: 64-72, 2017.
2. Ishikawa T, Fujiwara K, Ohba H, Suzuki T, Ogasawara K: Forecasting the regional distribution and sufficiency of physicians in Japan with a coupled system dynamics - geographic information system model. *Hum. Resour. Health* 15: 64, 2017.
3. Fujiwara K, Osanai T, Kobayashi E, Tanikawa T, Kazumata K, Tokairin K, Houkin K, Ogasawara K: Accessibility to tertiary stroke centers in Hokkaido, Japan: Use of novel metrics to assess acute stroke care quality. *J. Stroke Cerebrovasc. Dis.* 27: 177-184, 2018.
4. Shimoda T, Suzuki T, Takahashi N, Tsutsumi K, Samukawa M, Yoshimachi S, Goto T, Enomoto H, Kise N, Ogasawara K, Yoshimura S: Nutritional Status and Body Composition of Independently Living Older Adults in a Snowy Region of Japan. *Geriatrics and Gerontology Medicine* 3: 1-9, 2017.
5. Kaga S, Suzuki T, Ogasawara K: Willingness to pay for elderly tele-care service using internet and digital terrestrial broadcasting. *Interact J Med Res.* 6: e21. 2017.
6. Toyomura A, Fujii T, Yokosawa K, Kuriki S: Speech Disfluency-dependent Amygdala Activity in Adults Who Stutter: Neuroimaging of Interpersonal Communication in MRI Scanner Environment. *Neuroscience* 374: 144-154, 2018.
7. Toyomura A, Yokosawa K, Kuriki S: Fluctuation of Lower Limb Movement in the MRI Bore: Different Contributions of the Cortical and Subcortical Locomotor Regions. *Advanced Biomedical Engineering* 6: 15-20, 2017.
8. Issiki M, Naka I, Kimura R, Furusawa T, Natsuhara K, Yamauchi T, Nakazawa M, Ishida T, Ohtsuka R, Ohashi J: Mitochondrial DNA variations in Austronesian-speaking populations living in the New Georgia Islands, the Western Province of the Solomon Islands. *Journal of Human Genetics*, 63: 101-104, 2017.
9. Hasegawa J, Ito Y, Yamauchi T: Development of a screening tool to predict malnutrition among children under two years old in Zambia. *Global Health Action*, 10: 1339981, 2017.
10. Yamauchi T, Funamizu N: Assessing the impact of improved sanitation on the health and happiness of a west African local population: concepts and research methodology. *Sanitation Value Chain*, 1: 63-70, 2017.
11. Nagahori C, Kinjo Y, Tchuan JP, Yamauchi T: Malnutrition among vaccinated children aged 0-5 years in Batouri, Republic of Cameroon: Convenience samples from five health centers and two villages in the health district of Batouri. *Journal of General and Family Medicine*, 18: 365-371, 2017.
12. Furukawa T, Hinou H, Takeda S, Chiba H, Nishimura SI, Hui SP: An Efficient Glycoblotting-Based Analysis of Oxidized Lipids in Liposomes and a Lipoprotein. *Chembiochem* 18: 1903-1909, 2017.
13. Chen Z, Wu Y, Ma Y-S, Kobayashi Y, Zhao Y-Y, Miura Y, Chiba H, Hui S-P: Profiling of cardiolipins and their hydroperoxides in HepG2 cells by LC/MS. *Anal Bioanal Chem* 409: 5735-5745, 2017.

V . 研究活動

14. Shrestha RS, Miura YM, Hirano K, Chen Z, Okabe H, Chiba H, Hui S-P: Microwave-assisted Derivatization of Fatty Acids for Its Measurement in Milk Using High-Performance Liquid Chromatography. *Anal Sci* 34: 16-20, 2018.
15. Zhao YY, Zhao HS, Zhao X, Jia J, Ma Q, Zhang SC, Zhang XR, Chiba H, Hui S-P, Ma XX : Identification and Quantitation of C=C Location Isomers of Unsaturated Fatty Acids by Epoxidation Reaction and Tandem Mass Spectrometry. *Anal. Chem.*, 89: 10270-10278, 2017.
16. Zhao X, Zhao YY, Zhang L, Ma XX, Zhang SC, Zhang XR: Rapid Analysis of Unsaturated Fatty Acids on Paper-Based Analytical Devices via Online Epoxidation and Ambient Mass Spectrometry. *Anal. Chem.*, 90: 2070-2078, 2018.
17. Saito K, Peng Q, Qiao L, Wang L, Joutsuka T, Ishiyama T, Ye S, Morita A: Theoretical and experimental examination of SFG polarization analysis at acetonitrile-water solution surfaces. *Phys Chem Chem Phys* 19: 8941-8961, 2017.
18. Tan H, Sonam T, Shimizu K: The potential of triterpenoids from loquat leaves (*Eriobotrya japonica*) for prevention and treatment of skin disorder. *Int J Mol Sci* 18: 1030, 2017.
19. Hu Y, Tao L, Tan H, Zhang M, Shimizu K, Zhang F, Zhang C: An active drimane-type lactone from *Polygonum jucundum* attenuates lipopolysaccharide-induced acute lung injury in mice through TLR4-MAPKs signaling pathway. *Inflammation* 40: 1204-1213, 2017.
20. Kuranaga T, Enomoto A, Tan H, Fujita K, Wakimoto T: Total synthesis of Theonellapeptolide. *Org. Lett* 19: 1366-1369, 2017.
21. Suzuki T, Isomi Y, Tsuji S, Tani Y, Tanikawa T, Yamashina H, Ogasawara K. Extraction of penetration factors of image diagnostic equipment and survey of possibility of introduction. *Health Policy and Technology*. (Accepted)
22. Yagahara A, Yokooka Y, Jiang G, Tsuji S, Fukuda A, Nishimoto N, Kurowarabi K, Ogasawara K. Construction of Mammographic Examination Process Ontology Using Bottom-up Hierarchical Task Analysis. *Radiological Physics and Technology*. (Accepted)
23. Tanaka M, Kita T, Yamasaki Y, Kawahara T, Ueno Y, Yamada M, Mukai Y, Sato S, Kurasaki M, Saito T: Maternal resveratrol intake during lactation attenuates hepatic triglyceride and fatty acid synthesis in adult male rat offspring. *Biochemistry and Biophysics Reports* 9:173-179, 2017.
24. Rahman MM, Uson-Lopez RA, Sikder MT, Tan G, Hosokawa T, Saito T, Kurasaki M: Ameliorative effects of selenium on arsenic-induced cytotoxicity in PC12 cells via modulating autophagy/apoptosis. *Chemosphere* 196: 453-466, 2017.
25. Rahman MM, Ukiana J, Uson-Lopez RA, Sikder MT, Saito T, Kurasaki M: Cytotoxic effects of cadmium and zinc co-exposure in PC12 cells and the underlying mechanism. *Chemico-Biological Interactions* 269: 41-49, 2017.
26. Tan G, Uson-Lopez RA, Rahman MM, Hosokawa T, Saito T, Kurasaki M: Myricetin enhances on apoptosis induced by serum deprivation in PC12 cells mediated by mitochondrial signaling pathway. *Environmental Toxicology and Pharmacology* 57: 175-180, 2018.

V. 研究活動

27. Akter M, Sikder MT, Rahman MM, Ullah AKMA, Hossain KFB, Banik S, Hosokawa T, Saito T, Kurasaki M: A systematic review on silver nanoparticles-induced cytotoxicity: Physicochemical properties and perspectives. *Journal of Advanced Research* 9: 1-16, 2018.
28. Rahman MM, Ukiana J, Sikder MT, Hosokawa T, Saito T, Kurasaki M: Inhibitory effects of selenium on cadmium-induced cytotoxicity in PC12 cells via regulating oxidative stress and apoptosis. *Food and Chemical Toxicology* 114:180-189, 2018.
29. 佐々木健太, 石川智基, 藤原健祐, 谷 祐児, 小笠原克彦: 制限領域法による自治体病院の経営効率性評価. *医療情報学* 37: 81-86, 2017.
30. 藤原健祐, 谷川原綾子, 井上 剛, 北川 剛, 小笠原克彦: コンジョイント分析法を用いた診療放射線技師の就労環境の選好に関わる要因分析. *日本放射線技術学会雑誌* 73: 626-635, 2017.
31. 小川美弥子, 山部秀子, 岡部哲子, 白幡亜希, 工藤啓子, 長谷部理子, 谷祐児, 小笠原克彦: 管理栄養士養成課程における給食経営管理論実習における問題要素の構造化— Interpretive Structural Modeling (ISM) を用いた問題構造モデル—. *日本給食経営管理学会誌* 11. 掲載決定: 2017.
32. 山内太郎: 子どもの身体に異変が起きている—世界の子どもの体格・体力の現状と時代変化—. *日本健康学会誌*, 83: 174-183, 2017.
33. 森井康博, 石川智基, 辻 真太郎, 鈴木哲平, 小笠原克彦: 北海道における医療従事者の地域偏在度の職種間比較. *医療情報学*, 37: 285-289, 2018.
34. 辻 真太郎, 谷川原綾子, 福田晋久, 谷川琢海, 西本尚樹, 島井健一郎, 星野修平, 小笠原克彦: テキストマイニングを用いた教科書からの専門用語の抽出 —放射線技術学領域における用語集の更新に向けて—. *日本放射線技術学雑誌*. 採択.

B. 著書

C. 総説, 解説, 論評

1. 木村勁介, 千年涼太, 横澤宏一: 記録中の α 波帯域脳律動振幅は記憶成績の指標となる. *北海道医学雑誌* 92: 36-36, 2017.
2. Nyambe S, Hayashi K, Zulu J, Yamauchi T: A Glimpse into Peri-Urban Lusaka: Findings of a 2016 preliminary assessment on the sanitation of peri-urban Lusaka, Zambia. *Forum Proceedings. Zambia Water Forum and Exhibition*, 2017.
3. Yamauchi T, Funamizu N: The Sanitation Value Chain: Designing sanitation systems as eco-community-value systems. *Forum Proceedings. Zambia Water Forum and Exhibition*, 2017.
4. 山内太郎: ヒトの成長: ライフヒストリーの進化と成長パターンの変化. *日本人類学会進化人類学分科会ニューズレター*, 2017.
5. Yamauchi T: Trends in childhood obesity and decreased physical fitness among Japanese children: intergenerational changes and mitigative-preventive measures. *Conference Proceedings. The 14th International Congress of Auxology*, 2017.
6. Yamauchi T: Indigenous health focusing on northern populations and the Sami. *Sminar Proceedings. Hokkaido-Umeå Seminar* 2018.

V. 研究活動

D. 報告書

1. Hui, Tan, Toshiyuki Wakimoto. Development of marine natural products for drug seeds, 東京生化学研究会助成研究報告集

E. その他

[受賞]

1. 川原 妙, 上野祐可子, 富原朋美, 山崎尚二郎, 木村 豪, 中西美貴, Sikder Md. Tajuddin, 齋藤 健 : 第32回老化促進モデルマウス学会学術大会 大会長賞 老化促進モデルマウス SAMP10 の肝臓における加齢に伴う抗酸化酵素の変動ならびにミトコンドリア呼吸鎖複合体バランスの異常

[学会研究会の主催]

1. 小笠原克彦 : 第73回日本放射線技術学会北海道支部学術大会春季大会 (北海道大学クラーク会館講堂, 札幌市), 2017.4.22-23.
2. 小笠原克彦 : 第73回日本放射線技術学会北海道支部学術大会秋季大会 (札幌医科大学臨床教育研究棟, 札幌市), 2017.11.18-19.
3. 山内太郎 : The 3rd Faculty of Health Sciences International Symposium, 札幌, 2017.7.7.
4. 山内太郎 : 第1回日本アフリカ学会北海道支部研究会, 札幌, 2017.12.6.
5. 山内太郎 : 第2回日本アフリカ学会北海道支部研究会, 札幌, 2018.2.14.

[特許]

[報道]

F. 学会発表

A) 招待講演

[国際学会]

1. Yokosawa K: Spontaneous Brain Rhythms relating to age-based memory decline and possible MCI. Biomagnetic Sendai 2017, Sendai, 2017.5.
2. Yamauchi T: Children living in the era of obesity and low physical fitness: intergenerational changes in Japanese children. Special Lecture at School of Public Health, China Medical University, Shenyang, 2017.9.
3. Yamauchi T: Indigenous health focusing on northern populations and the Sami. Hokkaido-Umeå Seminar, Umeå University, Umeå, Sweden. 2018.2.
4. Tan H: Investigation of a chain shortening mechanism in calyculin A biosynthesis. "2nd US-Japan Seminar on the Biosynthesis of Natural Products for Young Researchers", Tokyo, 2017.3.

V. 研究活動

[国内学会]

1. 横澤宏一, 福岡 豊, 木村裕一:「論文を投稿しよう ―執筆のポイントと投稿のルール・倫理指針改正の要点―」. 第56回日本生体医工学会大会, 仙台, 2017.5.
2. 山内太郎:ヒトの成長:ライフヒストリーの進化と成長パターンの変化. 日本人類学会進化人類学分会第39回シンポジウム「ヒトにとってオトナになるとはどういうことか?」キャンパスプラザ京都, 京都, 2017.6.
3. 山内太郎:「子どもの身体に異変が起きている ―世界の子どもの体格・体力の現状と時代変化―」. 日本人類学会講演会, 札幌医科大学, 2017.10.
4. 山内太郎:「日常をハカル:時空間利用と身体活動への展望」. 主題講演Ⅱ. 日本食生活学会第55回大会, 天使大学, 札幌, 2017.10.
5. 武田晴治, アグスバギョ, 布田博敏, 惠淑萍, 末岡和久, 千葉仁志(シンポジウム):「酸化還元電位および硬さ分布からLDLの酸化状態を評価」. 第57回日本臨床化学学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
6. 趙 瑤瑤:「Coupling paper electrophoresis devices with ambient mass spectrometer for rapid analysis of biomolecules」. 第57回日本臨床化学学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
7. 辻真太郎:「米国における放射線治療の安全管理, 品質管理について」. 日本放射線治療専門放射線技師認定機構, H29年度認定機構講習会(基礎コース), 札幌, 2018.3.

[地方会]

1. 横澤宏一:生体医工学から臨床工学技士と工学技士を目指す人達へ. 第52回生体医工学研究会パネルディスカッション「臨床工学と生体医工学 - 臨床工学が生体医工学に期待すること -」, 第28回北海道臨床工学会, 札幌, 2017.9.

B) 一般演題

[国際学会]

1. Ogasawara K, Kaga S, Suzuki T, Tani Y, Higashikawa F, Enomoto H, Moriyama H, Kise N: Willingness to Pay for Elderly Tele-Care System Using Digital Terrestrial Broadcasting. The 16th World Congress on Medical and Health Informatics (Medinfo 2017). Hangzhou, China, 2017.8.
2. Yagahara A, Tanikawa T, Ogasawara K, Yokoi H: Integration of Japanese Medical Device Adverse Event Terminologies. The 16th World Congress on Medical and Health Informatics (Medinfo 2017). Hangzhou, China, 2017.8.
3. Tanikawa T, Ohba H, Yagahara A, Ogasawara K: Patient Accessibility to Hospitals in Winter Road Conditions. GIS-Based Analysis Using Car Navigation Probe Data. The 16th World Congress on Medical and Health Informatics (Medinfo 2017). Hangzhou, China, 2017.8.
4. Boasen J, Takeshita Y, Kuriki S, Yokosawa K: Spectro-spatial differences due to improvisational cognition during music performance and planning in improvisationally experienced musicians. Biomagnetic Sendai 2017, Sendai, 2017.5.
5. Boasen J, Takeshita Y, Jousmäki V, Yokosawa K: Exploring the neurological underpinnings of improvisational performance in correlation with creativity performance. The 15th World Congress of Music Therapy, 2017.7.

V . 研究活動

6. Takeshita Y, Boasen J, Yokosawa K: The importance of rhythm changes in music therapy. The 15th World Congress of Music Therapy, 2017.7.
7. Yokosawa K, Chitose R, Kimura K: Ostensible Alpha-band correlation with memory performance shown during memory encoding: An MEG study. 39th Annual International Conference of IEEE, 2017.7.
8. Matsunaga R, Yasuda T, Johnson-Motoyama M, Hartono O, Yokosawa K, Abe J: Cultural differences in tonality perception: Multiple comparisons of Japanese, Chinese, Vietnamese, Indonesian, and American Listeners. 6th Conference of the Asia-Pacific Society for the Cognitive Sciences of Music, 2017.8.
9. Bonin T, Matsunaga R, Yokosawa K, Abe J, McAdams S: Time, timbre, tonality in the cross-cultural perception of Japanese and Western music. 6th Conference of the Asia-Pacific Society for the Cognitive Sciences of Music, 2017.8.
10. Nyambe S, Hayashi K, Zulu J, Yamauchi T: A Glimpse into Peri-Urban Lusaka: Findings of a 2016 preliminary assessment on the sanitation of peri-urban Lusaka, Zambia. Zambia Water Forum and Exhibition, Mulungushi International Conference Centre, Lusaka, Zambia, 2017.6.
11. Yamauchi T, Funamizu N: The Sanitation Value Chain: Designing sanitation systems as eco-community-value systems. Zambia Water Forum and Exhibition, Mulungushi International Conference Centre, Lusaka, Zambia, 2017.6.
12. Hasegawa J, Ito MY, Yamauchi T: Development of a screening to predict malnutrition among children under two years old in Zambia, The third FHS International Conference, Sapporo, 2017.7.
13. Otsuka Y, Ushijima K, Ikemi M, Neni S, Yamauchi T: Mapping of water, sanitation, hygiene, and child health in urban slums of Indonesia, The third FHS International Conference, Sapporo, 2017.7.
14. Hao M, Han W, Yamauchi T: Effect of short and long-term nutrition education and exercise intervention among overweight primary school children in Northeast China. The third FHS International Conference, Sapporo, 2017.7.
15. Wang P, Hao M, Han W, Yamauchi T: Physical growth and development and affecting factors of children in suburban area of Northeastern China. The third FHS International Conference, Sapporo, 2017.7.
16. Miki T, Yamauchi T: Using questionnaire to evaluate biopsychological factors of low back pain in Physical Therapy. The third FHS International Conference, Sapporo, 2017.7.
17. Nyambe S, Hayashi K, Zulu J, Yamauchi T: Preliminary findings of a basic sanitation and health assessment in peri-urban Lusaka, Zambia. The third FHS International Conference, Sapporo, 2017.7.
18. Yabugishi S, Hao M, Wang P, Otsuka Y, Yamauchi T: Factors contributing to anxiety status in female nursing students. The third FHS International Conference, Sapporo, 2017.7.
19. Agestika L, Yamauchi T: Challenge in Implementing nutrition education and sanitation programs in elementary school. The third FHS International Conference, Sapporo, 2017.7.
20. Yamauchi T, Nyambe S, Agestika L, Otsuka Y: Sanitation innovation created and promoted by children and local communities. Indonesia & Philippine & Japan Joint International Seminar on Water and Sanitation, Kyoto, 2017.9.

V. 研究活動

21. Hao M, Han W, Yamauchi T: Short- and long-term beneficial effects of exercise intervention and nutrition education among overweight school children in Northeast China. 2017 Symposium of the Society for the Study of Human Biology & International Association of Physiological Anthropology, Loughborough, UK, 2017. 9.
22. Otsuka Y, Agestika L, Harada H, Widayarani, Sintawardani N, Yamauchi T: Assessing child health, nutritional status and hand hygiene in an urban slum of West Java, Indonesia. International Symposium on Green Technology for Value Chains 2017, Balai Kartini, Jakarta, 2017.10.
23. Hayashi K, Nakao S, Yamauchi T: Sanitation activities among the Baka hunter-gatherers in Cameroon: from individual observations at the forest camp and the settlement. International Symposium on Green Technology for Value Chains 2017, Balai Kartini, Jakarta, 2017.10.
24. Ikemi M, Ushijima K, Otsuka Y, Yamauchi T, Nilawati D, Wulan DR, Sintawardani N: Economic situation of value chain actors in urban slums of Bandung: a case study of Kiaracandong. International Symposium on Green Technology for Value Chains 2017, Balai Kartini, Jakarta, 2017.10.
25. Yamauchi T: Trends in childhood obesity and decreased physical fitness among Japanese children: intergenerational changes and mitigative-preventive measures. The 14th International Congress of Auxology, Centro de Docencia y Capacitacion, Buenos Aires, Argentina, 2017.11.
26. Yamauchi T: Research methods and case studies on Human Ecological fieldwork. Special Lecture in Archeology and Anthropology, Oxford University, Oxford, UK. 2018.3.
27. Zhao Yaoyao : Rapid analysis of biomolecules by using ambient mass spectrometer. 2017 ZhengZhou University International Forum for young Scholars, ZhengZhou, China, 2017.12.
28. Fukuda A, Tsuji S, Suzuki T, Yagahara A, Uesugi M, Ogasawara K: Evaluation of the Middle Layer in the Morphological Recognition of Mammographic Accreditation Phantom Applying Convolutional Neural Network. The 3rd International Conference on Radiological Science and Technology (ICRST). Hiroshima. 2017.10.

[国内学会]

1. Sikder Md. Tajuddin, Rahman Md. Mostafizur, 藏崎正明, 斎藤 健: Attenuation of cadmium in water using b-cyclodextrin polymer impregnated functionalized chitosan. 第28回日本微量元素学会, 宮城県仙台市, 2017.7.
2. Hossain Kaniz Fatima Binte, Rahman Md. Mostafizur, Sikder Md. Tajuddin, 斎藤 健, 藏崎正明: Protective effects of selenium on cadmium induced cytotoxicity in PC12 cells. 第28回日本微量元素学会, 宮城県仙台市, 2017.7.
3. 斎藤 健, 西村 亮, 山崎尚二郎, 上野祐可子, Sikder Md. Tajuddin, 北 朋美, 木村 豪, 藏崎正明: クルクミンと金属の相互作用による PC12 細胞へのアポトーシス誘導. 第28回日本微量元素学会, 宮城県仙台市, 2017.7.
4. 山崎尚二郎, 上野祐可子, 木村 豪, 富原朋美, Rahel Ketema, Sikder Md. Tajuddin, 佐藤 伸, 藏崎正明, 細川敏幸, 斎藤 健: 授乳期のレスベラトロール投与による仔ラットの肝臓におけるコレステロール代謝変動. 第88回日本衛生学会, 東京, 2018.3.

V. 研究活動

5. Sikder Md. Tajuddin, Rahman Md. Mostafizur, 山崎尚二郎, 木村 豪, 富原朋美, Rahel Ketema, 上野祐可子, 藏崎正明, 斎藤 健: 高グルコース条件下でのアルファリポ酸の PC12 細胞および Caco-2 細胞への影響. 第 88 回日本衛生学会, 東京, 2018.3.
6. Akter Mahmuda, Sikder Md. Tajuddin, Rahman Md. Mostafizur, Ullah A.K.M. Atique, 細川敏幸, 斎藤 健, 藏崎正明: ミズナ抽出物による細胞毒性が低い銀ナノ粒子の合成と抗菌活性. 第 88 回日本衛生学会, 東京, 2018.3.
7. Hossain Kaniz Fatima Binte, Rahman Md. Mostafizur, Sikder Md. Tajuddin, 細川敏幸, 斎藤 健, 藏崎正明: PC12 細胞におけるセレンの細胞毒性. 第 88 回日本衛生学会, 東京, 2018.3.
8. 川原妙, 上野祐可子, 富原 朋美, 山崎尚二郎, 木村 豪, 中西美貴, Sikder Md. Tajuddin, 斎藤 健: 老化促進モデルマウス SAMP10 の肝臓における加齢に伴う抗酸化酵素の変動ならびにミトコンドリア呼吸鎖複合体バランスの異常. 第 32 回老化促進モデルマウス学会学術大会, 岐阜県岐阜市, 2017.7.
9. 鈴木哲平, 豆野雄樹, 本間弘子, 森山広行, 榎本尚司, 永井亘, 黄瀬信之, 後藤輝明, 小笠原克彦: 産学官連携による未病対策・行動変容を目指す地域健康情報システムの構築. 第 24 回日本未病システム学会学術総会, 横浜, 2017.11.
10. 寒川美奈, 鈴木哲平, 下田智子, 堤香織, 高橋紀子, 高島理沙, 辻真太郎, 村田和香, 良村貞子, 小笠原克彦: 高齢女性における尿失禁と立ち上がり機能の関係性について. 第 24 回日本未病システム学会学術総会, 横浜, 2017.11.
11. 小林永一, 藤原健祐, 石川智基, 小笠原克彦: 北海道における救急車の現場到達時間から見た到達圏人口の推計. 第 37 回医療情報学連合大会, 大阪, 2017.11.
12. 谷川琢海, 大場久照, 西本尚樹, 小笠原克彦: 北海道の将来における患者受療行動予測分析 - 未来に向けた医療資源の適正配置に向けて -. 第 37 回医療情報学連合大会, 大阪, 2017.11.
13. 田村菜穂美, 鈴木哲平, 石川智基, 辻真太郎, 榎本尚司, 永井亘, 小笠原克彦: レセプト情報を活用した糖尿病患者の生活因子に影響する要因の可視化 - ベイジアンネットワークモデルによる分析 -. 第 37 回医療情報学連合大会, 大阪, 2017.11.
14. 谷祐児, 藤原健祐, 鈴木哲平, 小笠原克彦, 廣川博之: 病院情報システムの中小規模民間病院経営に対する寄与への考察. 第 37 回医療情報学連合大会, 大阪, 2017.11.
15. 石川智基, 藤原健祐, 鈴木哲平, 辻真太郎, 小笠原克彦: 人口構造の変化を考慮した Demand-based approach による医療需給の将来予測 - 北海道の救急医療を対象として -. 第 37 回医療情報学連合大会, 大阪, 2017.11.
16. 山田晋太郎, 辻真太郎, 樋口謙介, 阿部司, 佐藤友昭, 小笠原克彦: Contrast Limited Adaptive Histogram Equalization(CLAHE) を用いた肺結節画像の畳み込みニューラルネットワーク (CNN) による識別. 第 37 回医療情報学連合大会, 大阪, 2017.11.
17. 張洪健, 小笠原克彦: 仮想微生物を想定した生物行動アプリケーションの開発. 第 37 回医療情報学連合大会, 大阪, 2017.11.
18. 辻真太郎, 小笠原克彦, 山田晋太郎, 張洪健, 遠藤晃, 樋口謙介, 阿部司, 佐藤友昭: X線画像を用いた Neural Network の学習手法に関する基礎的研究. 第 37 回医療情報学連合大会, 大阪, 2017.11.
19. 辻真太郎, 鈴木哲平, 石川智基, 森井康博, 谷川琢海, 小笠原克彦: 2 型糖尿病患者に対する CGM (Continuous glucose monitoring) システムを用いた血糖値モニタリングアプリケーションの経済評価 - マルコフモデルを用いた医療費の推定 -. 第 37 回医療情報学連合大会, 大阪, 2017.11.

V. 研究活動

20. 藤原健祐, 長内俊也, 小林永一, 谷川琢海, 小笠原克彦: 北海道の急性期脳梗塞診療に対する地理的アクセシビリティ分析. 第37回医療情報学連合大会, 大阪, 2017.11.
21. 石川智基, 藤原健祐, 森井康博, 鈴木哲平, 辻真太郎, 小笠原克彦: System Dynamics による医師数充足と地域偏在の将来予測—北海道の周産期医療を対象として—. 第37回医療情報学連合大会, 大阪, 2017.11.
22. 森井康博, 藤原健祐, 石川智基, 鈴木哲平, 辻真太郎, 小笠原克彦: 地域偏在度と集中度の分析を併せた北海道における医療従事者の配置検討. 第37回医療情報学連合大会, 大阪, 2017.11.
23. 鈴木哲平, 榎本尚司, 永井亘, 森山広行, 後藤輝明, 黄瀬信之, 下田智子, 寒川美奈, 小笠原克彦: ベイジアンネットワークを用いた豪雪地域住民の下肢筋力と生活習慣に関する因果関係の可視化. 第37回医療情報学連合大会, 大阪, 2017.11.
24. 谷川原綾子, 西本尚樹, 福田晋久, 辻真太郎, 谷川琢海, 小笠原克彦, 横井英人: 医療機器不具合用語集における定義文記載法の標準化に向けた表記パターン分析—. 第37回医療情報学連合大会, 大阪, 2017.11.
25. 松永理恵, Pitoyo Hartono, 横澤宏一, 阿部純一: 西洋音楽—日本伝統音楽”のバイミュージカルな聞き手が示す調性的感覚の発達過程: 横断的検討. 日本音楽知覚認知学会平成29年度春季研究会, 東京, 2017.6.
26. 松永理恵, Pitoyo Hartono, 横澤宏一, 阿部純一: バイミュージカルな調性スキーマの獲得過程. 日本認知科学会第34回大会, 金沢, 2017.9.
27. 高瀬峻研, 竹下悠哉, Jared F. Boasen, 栗城眞也, 横澤宏一: 記銘前の α 波帯域脳律動振幅と記憶成績の関連. 生体医工学シンポジウム2017, 上田, 2017.9.
28. Nyambe S, Zulu J, Hayashi K, Yamauchi T: Gauging the sanitation and health challenge for children and youth in the urban slums of Lusaka, Zambia. 54th Annual Conference for Japan Association of African Studies, Shinshu University, Nagano, 2017.5.20-21.
29. 大塚裕美子, Lina Agestika, 原田英典, Widayarani, SINTAWARDANI Neni, 山内太郎: インドネシア都市スラムにおける子どもの健康・栄養状態と衛生意識・行動の評価. 第82回日本健康学会総会, 沖縄科学技術大学院大学, 沖縄, 2017.11.
30. 王佩佩, 郝明, 韓威, 山内太郎: 中国東北部都市郊外に居住する幼児の栄養状態・粗大運動発達状況とその影響要因. 第82回日本健康学会総会, 沖縄科学技術大学院大学, 沖縄, 2017.11.
31. 郝明, 韓威, 山内太郎: 中国東北部農村に暮らす肥満小学生の肥満改善: 縄とびと食育による2か月間の介入と1年後のフォローアップ. 第82回日本健康学会総会, 沖縄科学技術大学院大学, 沖縄, 2017.11.
32. 長谷川純子, 鈴木英樹, 山内太郎: 地域在住高齢者の身体活動量と体組成および身体機能の関係. 日本生理人類学会第76回大会, 京都大学, 京都, 2017.11.
33. Nyambe S, Yamauchi T: What are the sanitation challenges in my home and community? Findings of a photovoice exercise in peri-urban Lusaka, Zambia. 第23回生態人類学会, ユインチホテル南城, 沖縄, 2018.3.

V. 研究活動

34. Agestika L, Otsuka Y, Sintawardani N, Widyarani, Yamauchi T: Association of elementary school student handwashing practices with child nutritional status, morbidity and school performance in the urban slum of Bandung, Indonesia. Japan Association of International Health Conference (JAIH). University of Tokyo, Japan, 2017.11.
35. Nyambe S, Hayashi K, Zulu J, Yamauchi T: The child and youth perspective on sanitation, health and community participation in urban slums: Baseline findings in Lusaka, Zambia. Japan Association of International Health (JAIH) Conference. University of Tokyo, Japan, 2017.11.
36. Takeda S, Subagyo A, Hui SP, Fuda H, Shrestha R, Sueoka K, Chiba H: Effect of enzymes treatment on physical properties of low-density lipoprotein. 第54回日本生物物理学会年会, 熊本, 2017.9.
37. Takeda S, Subagyo A, Hui SP, Fuda H, Sueoka K, Chiba H: LDLの酸化および酵素処理が硬さに与える影響について. 第57回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
38. 山本祐輔, 古川貴之, 武田晴治, 千葉仁志, 惠淑萍: フッ素置換構造を鍵としたリゾリン脂質異性体の合成と物性に関する研究. 第57回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
39. 古川貴之, 比能洋, 武田晴治, 千葉仁志, 西村紳一郎, 惠淑萍: グライコブロッティング法によるリポタンパク質中の脂質アルデヒド分析. 第57回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
40. 布田博敏, 上甲紗愛, 渡邊貢, 武田晴治, 古川貴之, 惠淑萍, Rojeet Shrestha, 千葉仁志: マガキ由来抗酸化物質の Keap1-Nrf2 経路活性化と抗酸化能. 第57回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
41. Chen Z, Wu Y, Ma Y, Kobayashi Y, Zhao Y, Miura Y, Hui S-P, Chiba H: Detection and Identification of Cardiolipin Hydroperoxide Molecular Species by Liquid Chromatography/Tandem Mass Spectrometry. The 25th Annual Meeting of Japan Society for Lipid Hydroperoxide Biology and Medicine, Sendai, 2017.8.
42. 三浦佑介, 櫻井俊宏, 津久井隆行, 陳震, 布田博敏, 千葉仁志, 惠淑萍: LC-MS/MSによる近位尿細管上皮細胞の脂質分析. 第42回日本医用マススペクトル学会年会, 東京, 2017.9.
43. 陳震, 呉玥, 馬逸興, 小林悠, 趙瑤瑤, 三浦佑介, 惠淑萍, 千葉仁志: LC/MSを用いた過酸化カルジオリピン分子種の一斉分析. 第42回日本医用マススペクトル学会年会, 東京, 2017.9.
44. Chen Z, Wu Y, Ma Y, Kobayashi Y, Zhao Y, Miura Y, Hui S-P, Chiba H: Profiling of Cardiolipins and Their Hydroperoxides in HepG2 Cells by LC/MS. 第57回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
45. Wu Y, Chen Z, Zang L, Zhao Y, Nishimura N, Chiba H, Hui S-P: Simultaneous profiling of phospholipids and their hydroperoxides in hyperglycemia zebrafish by LC/HR-MS/MS. 第57回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
46. 加藤颯太, 三浦佑介, 櫻井俊宏, Rojeet Shrestha, 陳震, 玉腰暁子, 千葉仁志, 惠淑萍: 質量分析による血清コレステロールエステルの分析. 第57回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
47. 三浦佑介, 櫻井俊宏, 津久井隆行, 陳震, 布田博敏, 千葉仁志, 惠淑萍: ヒト近位尿細管上皮細胞における脂肪蓄積の分析. 第57回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
48. 惠淑萍, Rojeet Shrestha, 三浦佑介, 陳震, 玉腰暁子, 千葉仁志: Serum total and non-esterified fatty acid profiling in healthy Japanese individuals. 第57回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
49. 惠淑萍, 三浦佑介, 寺田航, 櫻井俊宏, 陳震, 古川貴之, 小林美穂, 清水力, 千葉仁志: LC/MSによる腎疾患患者の血清・尿中の脂質分析. 第30回腎と脂質研究会, 大阪, 2018.3.

V. 研究活動

50. 千葉仁志, 郭先蒼, 津久井隆行, 馬逸興, 陳震, 布田博敏, 惠淑萍: 脂肪蓄積と酸化ストレス曝露による肝細胞の代謝変化と過酸化脂質放出. 第 57 回日本臨床化学会年次学術集会, 札幌, 2017.10.
51. 趙瑤瑤, 千葉仁志, 惠淑萍: エポキシ化反応及び MS による不飽和脂肪酸の二重結合に関する分析と定量. 第 42 回日本医用マスペクトル学会年会, 東京, 2017.9.
52. 辻真太郎: 2 型糖尿病患者に対する CGM (Continuous glucose monitoring) システムを用いた血糖値モニタリングアプリケーションの経済評価ー マルコフモデルを用いた医療費の推定 ー. 日本医療情報学会連合大会, 大阪, 2017.11.
53. Tan H: Development of marine natural products for drug seeds. 第 22 回東京生化学研究会助成研究成果報告会, Tokyo, 2018.3.

[地方会]

1. 森井康博, 藤原健祐, 石川智基, 鈴木哲平, 辻真太郎, 小笠原克彦: 北海道における地域偏在度と集中度を併せた医療従事者の配置評価. 第 15 回日本医療情報学会北海道支部春季学術大会, 江別, 2017.7.
2. 石川智基, 藤原健祐, 森井康博, 鈴木哲平, 辻真太郎, 小笠原克彦: 北海道における産婦人科・小児科医師数の需給予測評価の試み. 第 15 回日本医療情報学会北海道支部春季学術大会, 江別, 2017.7.
3. 水口比呂, 小林永一, 藤原健祐, 石川智基, 小笠原克彦: 脳神経外科領域の医療資源に対する患者アクセス. 第 73 回日本放射線技術学会北海道支部秋季学術大会, 札幌, 2017. 11.
4. 越後雷蔵, 山田晋太郎, 福田晋久, 辻真太郎, 小笠原克彦: 畳み込みニューラルネットワークを用いた X 線画像の識別における撮影部位の違いによる識別率の検討. 第 73 回日本放射線技術学会北海道支部秋季学術大会, 札幌, 2017.11.
5. 清水大暉, 谷川琢海, 谷祐児, 辻真太郎, 小笠原克彦: ISM (Interpretive Structural Modeling) 法による遠隔医療の普及を阻害する要因の構造化. 第 73 回日本放射線技術学会北海道支部秋季学術大会, 札幌, 2017.11.
6. 小賀坂有紗, 土田汐里, 堀田浩, 山品博子, 辻真太郎, 小笠原克彦: 乳房画像診断における医師と診療放射線技師のカテゴリ分類の一致度. 第 73 回日本放射線技術学会北海道支部秋季学術大会, 札幌, 2017.11.

V. 研究活動

ii 外部資金等の獲得及び受入状況(平成29年度～平成31年度)

外部資金等の獲得状況

科学研究費補助金交付一覧

(単位：千円)

研究種目	新規 継続	研究代表者	研究課題名	平成29年度		平成30年度		平成31年度	
				直接経費	間接経費	直接経費	間接経費	直接経費	間接経費
基盤研究(B)	新規	コリー紀代	即時判断力と巧緻性を向上する3D映像投影シミュレーターの開発	8,400	2,520	3,400	1,020	1,700	510
基盤研究(C)	新規	安積 陽子	出産後1年間の睡眠覚醒リズムと夫婦のメンタルヘルスに関する縦断研究	1,500	450	500	150	500	150
基盤研究(C)	継続	伊達 広行	細胞周期を考慮した放射線被ばく影響の動態モデル解析	1,000	300	1,100	330		
若手研究(B)	継続	伊藤 文人	他者の顔に対する選好の継時的変化に関わる神経機構の解明	900	270				
挑戦的研究(萌芽)	新規	井上 馨	Vav 遺伝子欠損マウスを用いた抗酸化機能食品の緑内障予防効果の検討	3,000	900	1,500	450	500	150
若手研究(B)	新規	井上 貴雄	統合失調症に対する認知リハビリテーションが脳の神経活動に与える効果の解明	1,400	420	700	210	700	210
基盤研究(C)	継続	横澤 宏一	加齢および軽度認知症に伴う記憶成績低下メカニズムの脳磁場計測による探究	1,500	450	1,300	390	800	240
若手研究(B)	継続	下田 智子	食道癌患者の周術期から外来看護への継続した栄養評価の検証	800	240	800	240		
基盤研究(C)	継続	加藤千恵次	ダイナミックCTによる虚血性心疾患の定量評価と被ばく量軽減の試み	1,100	330				
基盤研究(C)	継続	寒川 美奈	寒冷環境における至適ストレッチングプログラムの確立	400	120	500	150		
若手研究(B)	継続	吉田 一生	瞑想が外傷性脳損傷患者の脳活動、認知機能に与える影響	900	270	700	210		
基盤研究(B)	継続	結城美智子	福島原子力災害による長期避難者への健康支援と評価:アクションリサーチ	3,000	900	3,300	990	2,800	840
若手研究(B)	新規	古川 貴之	慢性腎疾患バイオマーカーとしてのカルジオリピンの有効性の検証	900	270				
基盤研究(C)	新規	溝部 佳代	意識下手術における聴覚刺激に伴う精神活動の可視化とストレスマネジメント方略	800	240	1,400	420	1,300	390
基盤研究(C)	新規	佐藤 三穂	高齢糖尿病患者における急性合併症予防のためのセルフケアとその関連要因に関する研究	500	150	600	180	600	180
挑戦的萌芽研究	継続	佐伯 和子	エビデンスに基づいた家庭訪問実践力の発達曲線と発達の類型化ー新人保健師を対象にー	1,300	390				
基盤研究(B)	継続	山口 博之	腔菌叢とメタボローム:クラミジア卵管線維化機構とPID診断バイオマーカーの探索	4,200	1,170	4,600	1,380		
挑戦的萌芽研究	継続	山口 博之	アメーバ共生細菌原始クラミジアのレジオネラ撃退に関わる分子マシナリーの探索	900	270	900	270		
挑戦的萌芽研究	継続	山内 太郎	子どもの力で学校・地域のサニテーションを変える:アフリカ都市スラムの挑戦	900	270	1,000	300		

V. 研究活動

研究種目	新規 継続	研究代表者	題目	平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度	
				直接経費	間接経費	直接経費	間接経費	直接経費	間接経費
特別研究員 奨励費	継続	松谷 悠佑	低線量率被ばく時における放射線 感受性のモデル解析	600					
基盤研究 (C)	継続	松尾 淳司	クラミジア感染によって誘導さ れる炎症応答の制御システムの 探索	1,200	360				
基盤研究 (C)	継続	進藤ゆかり	長期にオピオイド鎮痛薬治療を 受けている難治性非がん性慢性 疼痛患者の生活体験の軌跡	700	210				
基盤研究 (C)	継続	青柳 道子	終末期がん患者の家族間コミュ ニケーションを促進する看護師 教育プログラムの構築	500	150	600	180		
基盤研究 (B)	継続	石川 正純	線量勾配を考慮した新しい線量分 布解析法の確立	2,400	720				
挑戦的研究 (萌芽)	新規	浅野 真未	炎症誘導性の細胞死に着目した, 慢性炎症性疾患の病態の解明と 治療法の開発	1,300	390	1,700	510	1,700	510
基盤研究 (B)	継続	前島 洋	脳卒中リハビリテーションにお ける薬理的シナプス伝達制御を 伴う新たな運動療法の開発	5,000	1,500	3,600	1,080	2,500	750
挑戦的萌芽研究	継続	前島 洋	運動療法による中枢神経系退行 抑制におけるエビジュネティッ ク制御の解明	1,000	300				
若手研究 (B)	継続	大久保寅彦	細菌由来シグナル分子 AI-2 が原 生生物の代謝及び病原性に与え る影響の解明	600	180				
基盤研究 (C)	継続	大槻 美佳	言語理解の脳内機構	500	150	600	180	600	180
若手研究 (B)	新規	辻 真太郎	機械学習を用いた放射線治療の 安全に関するオントロジーの構 築	900	270	500	150	500	150
基盤研究 (C)	継続	堤 香織	ポリリン酸によって骨芽細胞の 石灰化が促進する情報伝達分子 メカニズムの解明	1,300	390				
基盤研究 (C)	新規	渡辺 玲奈	看看連携を効率的効果的に実現 する外来部門の提供システムと 建築計画指針の開発	1,700	510	900	270	900	270
基盤研究 (C)	継続	布田 博敏	非アルコール性脂肪肝炎モデル マウスの疾病予防効果を有す る抗酸化物質の探索	1,200	360	1,100	330		
基盤研究 (C)	継続	武田 晴治	酸化による LDL 粒子の硬さの分 布の変化と加齢の関係	1,000	300				
研究活動 スタート支援	継続	平山 憲吾	分子標的治療を受ける非小細胞 肺癌患者の皮膚障害と生活行 動困難及び QOL との関連	1,200	360				
基盤研究 (C)	継続	平野美千代	転換期にある要支援高齢者の介 護予防ケアに効果的な社会活動 尺度の開発と有用性の検証	800	240				
若手研究 (A)	継続	芳賀 早苗	分子標的治療薬の非侵襲的・時 空間的モニタリングに向けた革 新的イメージング技術開発	3,800	1,140	3,900	1,170		
基盤研究 (C)	新規	野口真貴子	幼児と母親の食習慣に関する研 究	1,200	360	1,100	330	1,200	360
基盤研究 (B)	継続	矢野 理香	脳卒中手浴ケアプログラムのラン ダム化試験による長期的効果 の実証とガイドライン作成	1,300	390				
基盤研究 (C)	継続	傳田 健三	児童・青年期うつ病・双極性障 害の発達精神病理学的診断法と 包括的治療法の確立	900	270				

V. 研究活動

研究種目	新規 継続	研究代表者	題目	平成 29 年度		平成 30 年度		平成 31 年度	
				直接経費	間接経費	直接経費	間接経費	直接経費	間接経費
特別研究員 奨励費	継続	齋藤 健	妊娠期低栄養による母体への健康影響の細菌代謝物による改善	1,100		500			
挑戦的萌芽研究	継続	齋藤 健	必須微量元素, ポリフェノール併用による老化に伴う脳機能低下の制御法・予防法の開発	1,100	330	900	270		
若手研究 (B)	継続	萬井 太規	体重心視覚フィードバックバランス練習の姿勢制御メカニズムへの効果の解明	700	210	600	180		
基盤研究 (C)	継続	齋藤 展士	運動学習に寄与する姿勢制御の学習メカニズムと加齢の影響の解明	600	180				
挑戦的萌芽研究	継続	塚本 美奈	リアルタイム感情分析による認知症高齢者のための快刺激コミュニケーション技術の開発	500	150				
基盤研究 (B)	継続	良村 貞子	病院と連携する在宅遠隔相談看護師のアセスメント能力向上プログラムの開発と検証	4,000	1,200				

V. 研究活動

寄付金受入状況一覧

(単位：千円)

受入教員	受入金額	寄付者の名称
政氏 伸夫	5,000	政氏 伸夫
佐川 正	889	公益財団法人 北海道対がん協会
藤川 恵子	500	藤川 恵子
保健科学研究所共通	1,000	井上 馨
小笠原克彦	800	日本メドトロニック株式会社
唐 明輝	200	公益財団法人 伊藤医薬学術交流財団
吉田 祐子	500	一般社団法人 日本看護研究学会
尾崎 倫孝	300	有限会社エクスプローラー
神 繁樹	500	株式会社コーケン
境 信哉	250	境 信哉
笠原 敏史	150	笠原 敏史
佐藤 洋子	100	佐藤 洋子
石津 明洋	150	医療法人 王子総合病院
岡田 一範	500	一般社団法人 日本超音波検査学会

V. 研究活動

受託研究受入状況一覧

(単位：千円)

研究題目	相手先	代表者	金額
COI プログラム COI 拠点「食と健康の達人」拠点	国立研究開発法人 科学技術振興機構	小笠原 克彦	17,250
29 保受2 地域医療の質向上と看護職の健康管理のための ICT 技術の開発とクラウドサービス活用の実証研究	北海道総合通信局	矢野 理香	8,200
29 保受3/ 地域自律型の次世代型・水インフラマネジメントシステムへの転換（地域自律型水管理システム構築に向けた分析と技術パッケージの開発）	国立研究開発法人 科学技術振興機構	山内 太郎	5,290
29 保受4 経済成長下のアフリカにおける食品企業の子どもの対象とした栄養改善事業：CSV の観点からのインパクト評価	国立大学法人東京大学	山内 太郎	574
29 保受5：リアルタイム発光測定による細胞内シグナル伝達動的变化の定量化及び毒性発現メカニズムの解析～細胞試験系の高度化～	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	尾崎 倫孝	2,000

V. 研究活動

共同研究受入状況一覧

(単位：千円)

研究題目	相手先	代表者	金額
29 保共 1/ 眼疾患・肝疾患におけるビルベリーエキス の効果とその機構の解明	株式会社わかさ生活	尾崎 倫孝	2,000
29 保共 2/ 歩行能力診断装置の開発	ニプロ株式会社	遠山 晴一	8,939
29 保共 3/ 医療用放射線検出器の開発	株式会社トクヤマ	石川 正純	1,100
29 保共 4/ 脳内超微小組織の活動計測および脳内ネッ トワーク解析を可能とするシステムの開発	太宝電子株式会社	石川 正純	981

V. 研究活動

その他外部資金等受入状況一覧

(単位：千円)

研究題目	相手先	代表者	金額
ひらめき☆ときめきサイエンス「ようこそ不思議な細菌の世界へ2017」	独立行政法人日本学術振興会	山口 博之	208
29 保補1：多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン「人と医紡ぐ北海道がん医療人養成プラン」	文部科学省	鷺見 尚己	300
29 保補2：課題解決型高度医療人材養成プログラム / 病院経営アドミニストレータ育成拠点	文部科学省	小笠原 克彦	10,654

VI. 教育活動

i 大学院担当教員一覧

■大学院担当教員教員一覧（修士課程）

保健科学コース・生体量子科学

教授 山本 徹	1) 水分子ダイナミクス解析による生理機能の画像 2) MR アーチファクトフリーのインプラントの開発 3) MRI 検査安全性に関する研究
教授 伊達 広行	1) 生体組織における放射線エネルギー付与過程シミュレーション 2) 生体の放射線被曝効果に関する統計的解析と損傷動態の解明 3) 放射線治療における最適分割照射の検討
教授 神島 保	1) 超音波や MR 画像による炎症性関節疾患の活動性定量評価に関する研究 2) 超音波装置の機器間キャリブレーションに関する研究 3) 単純写真による病変抽出に関する研究 4) 仮想的臓器体積測定

保健科学コース・生態情報科学

教授 山口 博之	1) ヒト病原細菌の細胞内持続感染機構とその分子基盤 2) 自然環境におけるヒト病原細菌の適応戦略とその分子機構 3) 環境微生物共生系モデルの構築とモニタリングシステムの開発
教授 石津 明洋	1) 血管炎の病理と病態 2) 生体防御システムとその破綻に関する研究 3) 免疫細胞の機能解析
教授 恵 淑萍	1) リポ蛋白, 過酸化脂質, 脂肪酸, 生理活性脂質 (プラズマローゲン・リゾリン脂質・カルジオリピン) の研究 2) バイオマーカー・検査試薬の開発 3) 非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) と脂肪滴および機能性食品の研究
教授 尾崎 倫孝	1) ストレスに対する生体応答と適応におけるメカニズムの解析 2) 肝臓を中心とした様々な病態の分子生物学的解析 3) 「光」を利用した非侵襲的生体イメージングによる生体機能・生体環境の時空間的評価法の開発と医療への応用 4) 糖尿病性網膜症の発症予防に関する研究
准教授 政氏 伸夫	1) 血液細胞を対象としたデジタル形態学に関する研究 2) デジタル形態学の各種血液疾患の病態解析への応用 3) 血液検体の保管期間延長法に関する研究 4) 好中球細胞質内顆粒の定量的解析 5) 検査血液学教育のための実習用サンプルや画像教材に関する研究
准教授 加賀 早苗	1) 心血管疾患の超音波による病態評価 2) 心臓形態・機能の加齢変化の心エコーによる評価 3) 超音波検査の標準化と精度管理の方法論の検討

VI. 教育活動

保健科学コース・リハビリテーション科学

教授 浅賀 忠義	1) 姿勢制御のメカニズムに関する研究 2) 運動学習と定量的評価に関する研究 3) 加齢および神経疾患のバランス障害に関する研究
教授 遠山 晴一	1) 運動器リハビリテーションに関する研究 2) アスレチックリハビリテーションに関する研究 3) 腱・靭帯組織の生物学および生体力学
教授 前島 洋	1) 運動・学習にともなうシナプス機能修飾に関する研究 2) 高齢者のヘルスプロモーションと退行変性予防に関する研究 3) 中枢神経系疾患の運動療法に対するニューロモジュレーション
特任教授 井上 馨	1) 生理的多型性を用いた高齢者の身体活動の研究 2) 日常生活における運動器の機能解剖学的研究 3) 高眼圧モデルマウスを用いた緑内障の研究
教授 村田 和香	1) 作業療法の理論と実践に関する研究 2) 老年期作業療法の効果に関する研究 3) 健康およびウェル・ビーイングへの作業の寄与に関する研究
教授 境 信哉	1) 大脳における視覚のメカニズムに関する研究 2) 高次脳機能障害患者を対象としたリハビリテーション効果研究とドライビング評価研究 3) 大脳性視覚障害児の視覚評価とリハビリテーション
准教授 寒川 美奈	1) スポーツ傷害の発生メカニズムと予防に関する研究 2) 運動療法の効果に関する研究 3) ウィメンズヘルスに関する研究(骨盤底筋トレーニング有効性の検証)

保健科学コース・健康科学

教授 齋藤 健	1) 環境要因による継世代影響の解明 2) 微量元素やサプリメント摂取によるエピジェネティックな影響の解明 3) 老化制御に係わる環境因子の同定と老化制御機構の解明
教授 横澤 宏一	1) 記憶や認知機能(音楽認知, 時間感覚など)の無侵襲計測とイメージング 2) 電気生理学的手法による内因性脳活動(感情や衝動, ストレスなど)の定量計測に関する研究 3) 高次脳機能情報の工学的応用に関する研究
教授 小笠原 克彦	1) 医療プロセスおよび医療連携フローに関する研究 2) 遠隔保健システムの開発及び評価に関する研究 3) 医療資源・医療技術の社会経済評価に関する研究
教授 山内 太郎	○フィールド調査によって人々の健康増進・幸福に資する 1) 子どもと地域住民の参加型アクションリサーチ 2) 安全な飲料水, サニテーション, 衛生(WASH) 3) ライフスタイル(食と栄養, 運動), 健康, QOL, Wellbeing
教授 恵 淑萍	1) リポ蛋白, 過酸化脂質, 脂肪酸, 生理活性脂質(プラズマローゲン・リゾリン脂質・カルジオリピン)の研究 2) バイオマーカー・検査試薬の開発 3) 非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)と脂肪滴および機能性食品の研究
准教授 大槻 美佳	1) 高次脳機能障害(失語, 失行, 失認, 記憶障害等)の臨床研究 2) 機能画像, 眼球運動解析装置等を用いた高次脳機能のメカニズム解明 3) 言語の脳内メカニズムに関する研究
准教授 荒木 敦子	1) 環境化学物質曝露による健康影響に関する疫学研究 2) 環境と子どもの健康に関する出生コホート研究 3) 室内空気質と居住者の健康に関する疫学研究

VI. 教育活動

看護学コース・看護学 公衆衛生看護学 助産学 高度実践看護学

教授 佐川 正	1) 札幌市の産婦人科救急における助産師による電話相談事業の現状と課題 2) 北海道における助産師外来の実態調査 3) フリースタイル分娩が産科的諸因子に与える影響に関する研究
教授 佐藤 洋子	1) 小児の自律性を支援する看護スキルの開発 2) 小児に対する情報提供と看護スキルに関する研究 3) 健康問題を有する小児と家族の支援に関する研究
教授 尾崎 倫孝	1) ストレスに対する生体応答と適応におけるメカニズムの解析 2) 肝臓を中心とした様々な病態の分子生物学的解析 3) 「光」を利用した非侵襲的・経時的生体イメージングによる生体機能・生体環境評価と創薬・医療への応用 4) 糖尿病性網膜症の発症予防に関する研究
教授 結城 美智子	1) 在宅療養者と家族介護者への支援に関する研究 2) がん患者の化学療法に伴う家族への抗がん剤曝露予防 3) 地域高齢者の介護予防に関する研究 4) 災害後の高齢者の生活と健康に関する研究
教授 齋藤 健	1) 環境要因による継世代影響の予防 2) 微量元素やサプリメント摂取によるエピジェネティックな影響の解明 3) 老化を制御に係わる環境因子の同定と老化制御機構の解明
教授 小笠原 克彦	1) 看護学領域の言語処理・知識処理に関する研究 2) 遠隔保健システムの開発及び評価に関する研究 3) 看護資源・看護技術の社会経済評価に関する研究
教授 山内 太郎	○フィールド調査によって人々の健康増進・幸福に資する 1) 子どもと地域住民の参加型アクションリサーチ 2) 安全な飲料水, サニテーション, 衛生 (WASH) 3) ライフスタイル (食と栄養, 運動), 健康, QOL, Wellbeing
教授 矢野 理香	1) 看護技術の成果モデル開発と効果に関する研究 2) 熟練看護師の技の可視化に関する研究 3) 看護技術教育の方法論と効果に関する研究
准教授 宮島 直子	1) 精神看護技術の開発と効果に関する研究 2) 看護職者のメンタルヘルスに関する研究 3) 看護場面におけるコミュニケーション・チャンネルの研究
准教授 野口 眞貴子	1) 出産とその後の母子の健康に関するバースコホート研究 2) 途上国の母子保健に関する国際保健学研究 3) 出産体験に関する質的, 量的研究
准教授 大槻 美佳	1) 認知機能 (高次脳機能) に関する研究 2) 各種神経疾患の認知機能 (高次脳機能) に関する研究
准教授 安積 陽子	1) 乳幼児の睡眠覚醒リズムの発達に関する研究 2) 極低出生体重児とその母親への支援に関する研究 3) 助産師教育に関する研究
准教授 岩本 幹子	1) 修士課程における学際的倫理教育プログラムの開発 2) 看護におけるリーダーシップと看護管理の機能に関する研究
准教授 鷲見 尚己	1) 在宅療養支援, 移行ケア, 継続看護におけるプログラム開発と標準化に関する研究 2) がん患者とその家族への療養生活支援, 看護実践に関する研究 3) がん専門看護師の実践と教育に関する研究
准教授 平野 美千代	1) 要支援高齢者の社会活動に関する支援プログラムの開発 2) 在宅高齢者への効果的な介護予防ケアに関する研究 3) 行政機関に勤める保健師の実践および能力に関する研究 4) 修士課程における公衆衛生看護学の基礎教育に関する研究

VI. 教育活動

■大学院担当教員教員一覧（博士後期課程）

保健科学コース・先進医療科学領域

教授 山本 徹	1) 水分子ダイナミクス解析による生理機能の画像 2) MR アーチファクトフリーのインプラント材の開発 3) MRI 検査安全性に関する研究
教授 伊達 広行	1) 生体組織中の放射線エネルギー付与過程シミュレーション 2) 生体細胞の放射線被曝効果に関する統計的解析と損傷動態の解明 3) 放射線治療における効果的照射法の検討
教授 神島 保	1) 超音波やMR画像による炎症性関節疾患の活動性定量評価に関する研究 2) 超音波装置の機器間キャリブレーションに関する研究 3) 単純写真による病変抽出に関する研究 4) 仮想的臓器体積測定
特任教授 山口 博之	1) ヒト病原細菌の細胞内持続感染機構とその分子基盤 2) 自然環境におけるヒト病原細菌の適応戦略とその分子機構 3) 環境微生物共生系モデルの構築とモニタリングシステムの開発
教授 石津 明洋	1) 血管炎の病理と病態 2) 生体防御システムとその破綻に関する研究 3) 免疫細胞の機能解析
教授 惠 淑萍	1) リポ蛋白、過酸化脂質、脂肪酸、生理活性脂質（プラズマローゲン・リゾリン脂質・カルジオリピン）の研究 2) バイオマーカー・検査試薬の開発 3) 非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) と脂肪滴および機能性食品の研究
教授 尾崎 倫孝	1) ストレスに対する生体応答と適応におけるメカニズムの解析 2) 肝臓を中心とした様々な病態の分子生物学的解析 3) 「光」を利用した非侵襲的生体イメージングによる生体機能・生体環境の時空間的評価法の開発と医療への応用 4) 糖尿病性網膜症の発症予防に関する研究
准教授 政 氏 伸 夫	1) 血液細胞を対象としたデジタル形態学に関する研究 2) デジタル形態学の各種血液疾患の病態解析への応用 3) 血液検体の保管期間延長法に関する研究 4) 好中球細胞質内顆粒の定量的解析 5) 検査血液学教育のための実習用サンプルや画像教材に関する研究
准教授 加賀 早苗	1) 心血管疾患の超音波による病態評価 2) 心臓形態・機能の加齢変化の心エコーによる評価 3) 超音波検査の標準化と精度管理の方法論の検討
客員教授 (放射線医学総合研究所) 辻 比呂志	1) 粒子線治療の臨床効果に関する研究 2) 放射線治療における先進技術に関する研究
客員教授 (放射線医学総合研究所) 山本 直敬	1) 肺がんの重粒子線治療の臨床効果に関する研究 2) 間質性肺炎や慢性閉塞性肺疾患を合併した肺がんの治療に関する研究

VI. 教育活動

保健科学コース・総合健康科学領域

教授 浅賀 忠義	1) 姿勢制御と運動学習に関する研究 2) 筋シナジーとシナジー間の協調性に関する研究 3) バランス障害に対するリハビリテーション
教授 遠山 晴一	1) 前十字靭帯損傷に対するリハビリテーション 2) スポーツ傷害に関するバイオメカニクス 3) 腱・靭帯組織の生物学および生体力学
教授 前島 洋	1) 運動・学習にともなうシナプス機能修飾に関する研究 2) 中枢神経系疾患の運動療法に対するニューロモジュレーション 3) 高齢者のヘルスプロモーションと退行変性予防に関する研究
特任教授 井上 馨	1) 生理的多型性を用いた高齢者の身体活動の研究 2) 日常生活における運動器の機能解剖学的研究 3) 高眼圧モデルマウスを用いた緑内障の研究
教授 村田 和香	1) 作業療法の理論と実践に関する研究 2) 老年期作業療法の効果に関する研究 3) 健康およびウェル・ビーイングへの作業の寄与に関する研究
教授 境 信哉	1) 大脳における視覚のメカニズムに関する研究 2) 高次脳機能障害患者を対象としたリハビリテーション効果研究とドライビング評価研究 3) 大脳性視覚障害児の視覚評価とリハビリテーション
准教授 寒川 美奈	1) スポーツ傷害の発生メカニズムと予防に関する研究 2) ストレッチングの有効性に関する研究 3) ウィメンズヘルスに関する研究(骨盤底筋トレーニング有効性の検証)
教授 齋藤 健	1) 環境要因による継世代影響の解明 2) 微量元素やサプリメント摂取によるエピジェネティックな影響の解明 3) 老化制御に係わる環境因子の同定と老化制御機構の解明
教授 横澤 宏一	1) ヒトの認知機能の無侵襲計測とイメージング 2) 高次脳機能の読み出しと工学的応用 3) 脳機能情報の時空間解析による精神状態評価の基礎的研究
教授 小笠原 克彦	1) 医療プロセスおよび医療連携フローに関する研究 2) 遠隔保健システムの開発及び評価に関する研究 3) 医療資源・医療技術の社会経済評価に関する研究
教授 山内 太郎	○フィールド調査によって人々の健康増進・幸福に資する 1) 子どもと地域住民の参加型アクションリサーチ 2) 安全な飲料水, サニテーション, 衛生 (WASH) 3) ライフスタイル (食と栄養, 運動), 健康, QOL, Wellbeing
教授 恵 淑萍	1) リポ蛋白, 過酸化脂質, 脂肪酸, 生理活性脂質 (プラズマローゲン・リゾリン脂質・カルジオリピン) の研究 2) バイオマーカー・検査試薬の開発 3) 非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) と脂肪滴および機能性食品の研究
教授 大槻 美佳	1) 高次脳機能障害 (失語, 失行, 失認, 記憶障害等) のメカニズム解明 2) 言語の脳内メカニズムの学際的研究 3) 神経心理学的方法と機能画像・電気生理学的な方法等の統合による高次脳機能解明
准教授 荒木 敦子	1) 環境化学物質曝露による健康影響に関する疫学研究 2) 環境と子どもの健康に関する出生コホート研究 3) 室内空気質と居住者の健康に関する疫学研究

VI. 教育活動

看護学コース・看護科学領域

教授 佐川 正	1) フリースタイル分娩が産科的諸因子に与える影響 2) 過期妊娠・予定日超過妊娠とその対策 3) 北海道の産科施設集約による助産師業務についての研究
教授 佐藤 洋子	1) 小児医療における子どもの自律性に関する研究 2) 小児に対する情報提供と看護スキルの開発 3) 健康問題を有する小児と家族の支援に関する研究
教授 尾崎 倫孝	1) ストレスに対する生体応答と適応におけるメカニズムの解析 2) 肝臓を中心とした様々な病態の分子生物学的解析 3) 「光」を利用した非侵襲的生体イメージングによる生体機能・生体環境の時空間的評価法の開発と医療への応用 4) 糖尿病性網膜症の発症予防に関する研究
教授 結城 美智子	1) 在宅療養者と家族介護者への支援に関する研究 2) がん患者の化学療法に伴う家族への抗がん剤曝露予防 3) 地域高齢者の介護予防に関する研究 4) 災害後の高齢者の生活と健康に関する研究
教授 齋藤 健	1) 環境要因による継世代影響の予防 2) 微量元素やサプリメント摂取によるエピジェネティックな影響の解明 3) 老化制御に係わる環境因子の同定と老化制御機構の解明
教授 小笠原 克彦	1) 看護学領域の言語処理・知識処理に関する研究 2) 遠隔保健システムの開発及び評価に関する研究 3) 看護資源・看護技術の社会経済評価に関する研究
教授 山内 太郎	○フィールド調査によって人々の健康増進・幸福に資する 1) 子どもと地域住民の参加型アクションリサーチ 2) 安全な飲料水, サニテーション, 衛生 (WASH) 3) ライフスタイル (食と栄養, 運動), 健康, QOL, Wellbeing
教授 矢野 理香	1) 看護ケアの成果モデル開発と効果に関する研究 2) 熟練看護師の技の可視化に関する研究 3) 看護技術教育の方法論と効果に関する研究
教授 宮島 直子	1) 精神に障害がある人の発症前生活エピソードに関する質的研究 2) 高齢者の精神機能を高める看護コミュニケーション・スキルの開発
准教授 野口 眞貴子	1) 出産とその後の母子の健康に関するパースコホート研究 2) 途上国の母子保健に関する国際保健学研究 3) 出産体験に関する質的, 量的研究
准教授 大槻 美佳	1) 高次脳機能障害 (失語, 失行, 失認, 記憶障害等) のメカニズム解明 2) 言語の脳内メカニズムの学際的研究 3) 神経心理学的方法と機能画像・電気生理学的な方法等の統合による高次脳機能解明
准教授 安積 陽子	1) 極低出生体重児とその母親への支援に関する研究 2) 乳幼児の睡眠覚醒リズムと育児ストレスに関する研究
准教授 岩本 幹子	1) 修士課程における学際的倫理教育プログラムの開発 2) 看護におけるリーダーシップと看護管理の機能に関する研究
准教授 鷺見 尚己	1) 在宅療養支援, 移行ケア, 継続看護におけるプログラム開発と標準化に関する研究 2) がん患者とその家族への療養生活支援, 看護実践に関する研究 3) がん専門看護師の実践と教育に関する研究
准教授 平野 美千代	1) 要支援高齢者の社会活動に関する支援プログラムの開発 2) 在宅高齢者への効果的な介護予防ケアに関する研究 3) 行政機関に勤める保健師の実践および能力に関する研究 4) 修士課程における公衆衛生看護学の基礎教育に関する研究

VI. 教育活動

ii 保健科学院卒業研究課題一覧

大学院修士課程論文・研究課題一覧

【保健科学コース】

科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
健康科学	大塚 裕美子	(インドネシアの都市スラムに暮らす子どもの健康への水と衛生の影響)	山内 太郎 教授	野口眞貴子 准教授
生体量子科学	川平 慎悟	金属インプラントのMRIにおける磁化作用	山本 徹 教授	横澤 宏一 教授 高木 聡志 助教
リハビリテーション科学	木村 恵	早産低出生体重児における視覚的特徴	境 信哉 教授	佐藤 洋子 教授 井上 馨 特任教授
リハビリテーション科学	金 雪梅	(高齢者における姿勢安定性の学習効果に関して)	浅賀 忠義 教授	萬井 太規 助教
生体情報科学	黒壁 大貴	肺動脈弁逆流速度計測に基づく肺血管抵抗の非侵襲的推定: 肺高血圧症の多様な病態に対応しうる方法論の検討	政氏 伸夫 准教授	岡田 一範 助教 加賀 早苗 准教授
生体情報科学	河野 圭伍	テクスチャ解析を用いた骨髄有核細胞形態特徴の定量的定義とディープラーニングを用いた自動判別の検討	政氏 伸夫 准教授	石津 明洋 教授
生体量子科学	小林 勇渡	(関節リウマチ患者への造影ダイナミックMRIにおける滑膜炎の定量化—相互情報量を活用した動脈サブトラクション法による時間信号強度曲線解析の改善—)	神島 保 教授	山本 徹 教授
生体情報科学	酒井 昂平	低酸素環境におけるChlamydia trachomatisの感染細胞内での増殖様式と宿主細胞応答	山口 博之 教授	松尾 淳司 講師 大久保寅彦 助教
リハビリテーション科学	佐々木 駿	外側ウェッジインソールが膝内反モーメントに与える効果の検討 ～足部アライメントに着目して～	山中 正紀 教授	遠山 晴一 教授
リハビリテーション科学	佐藤 冴香	ウエッジが走行時の後足部運動と膝・股関節運動に及ぼす影響	山中 正紀 教授	寒川 美奈 准教授
生体情報科学	白澤 憲典	冷保存肝の脂質代謝の解明	恵 淑萍 教授	千葉仁志 特任教授 櫻井 俊宏 講師
生体量子科学	田口 眞行	常磁性体効果の粘度依存性 —生体内の酸素分子がMR信号に与える影響—	山本 徹 教授	神島 保 教授 杉森 博行 講師
リハビリテーション科学	千田 周也	足関節背屈可動域が片脚スクワット動作時の下肢kinematicsに与える影響	山中 正紀 教授	寒川 美奈 准教授
リハビリテーション科学	千々松雅人	膝前十字靭帯損傷予防を目的とした片脚着地動作時の膝関節外反モーメントを減じる方法の検討	山中 正紀 教授	遠山 晴一 教授
生体情報科学	寺田 航	プラズマローゲンの化学合成及び分析とその応用	恵 淑萍 教授	千葉仁志 特任教授 古川 貴之 助教
リハビリテーション科学	中村賢太郎	足関節底屈筋へのストレッチングが最大随意収縮トルク産生に与える影響	寒川 美奈 准教授	山中 正紀 教授 遠山 晴一 教授
生体量子科学	奈良 一志	フィルム線量分布解析商用ソフトウェア間の解析差を低減する画像フィルタの検討	伊達 広行 教授	辻 真太郎 助教

VI. 教育活動

科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
生体量子科学	波多野克哉	関節リウマチ患者における単純 X 線写真を用いた関節裂隙狭小化評価ソフトウェアの改良	神島 保 教授	高木 聡志 助教
リハビリテーション科学	松崎 由莉	小・中・高校生における抑うつ症状、躁症状および自閉傾向 - 2011 年と 2016 年の比較 -	傳田 健三 教授	村田 和香 教授
生体情報科学	松下 瑞江	ヒト病原性細菌と環境由来原生生物との相互作用に関する研究	山口 博之 教授	松尾 淳司 講師 大久保寅彦 助教
健康科学	眞野 晃次	(繰返し因子分析法の開発: デジタルファントム実験による有用性の検証)	横澤 宏一 教授	山本 徹 教授
リハビリテーション科学	丸谷 孝史	視覚フィードバック練習が立位の重心動揺のカオス性に及ぼす影響について	浅賀 忠義 教授	萬井 太規 助教
リハビリテーション科学	水野 歩	異なる降段動作が両側膝関節内側負荷に与える影響	山中 正紀 教授	遠山 晴一 教授
生体量子科学	宮田 賢人	FPGA を用いた高速同時計数回路の実装と Depth of Interaction 検出器の開発	伊達 広行 教授	横澤 宏一 教授
生体量子科学	村山 祐輝	光ファイバ内光子輸送計算に基づくシングルプローブ SOF 検出器の基礎検討	伊達 広行 教授	堤 香織 助教
生体量子科学	森 諒輔	(放射線照射下における DNA 損傷誘発に関する研究)	伊達 広行 教授	堤 香織 助教
健康科学	山崎尚二郎	(授乳期の母ラットのレスベラトロール摂取が成熟期の仔ラットの肝臓におけるコレステロール代謝に及ぼす影響)	齋藤 健 教授	石津 明洋 教授
生体量子科学	山田 亮太	放射線照射下の腫瘍細胞における酸素増感効果のモデル解析	伊達 広行 教授	堤 香織 助教
生体情報科学	山本 麻衣	テクスチャ解析を用いた末梢血白血球形態と細胞内顆粒の定量的計測と判別	政氏 伸夫 准教授	石津 明洋 教授
生体情報科学	山本 祐輔	リゾフォスファチジルエタノールアミン類縁体合成とその物性研究	恵 淑萍 教授	千葉仁志 特任教授 古川 貴之 助教
健康科学	王 佩佩	(中国東北部の都市郊外に暮らす幼児の栄養状態・運動発達とその影響要因)	山内 太郎 教授	安積 陽子 准教授

VI. 教育活動

【看護学コース】

科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
看護学	青木 楓	大学生の自殺念慮と気分・気質および死生観との関連	傳田 健三 教授	宮島 直子 准教授
助産学	中村 真弥	授乳に伴う乳頭組織の変化の検証 —画像分析に基づく『乳頭損傷の所見の種類と特徴』の作成と変化過程の検証—	安積 陽子 准教授	矢野 理香 教授
公衆衛生看護学	齊藤 葉月	北海道上川地域に居住する前期高齢者の他者とのつきあいと孤独感との関連	平野美千代 准教授	佐伯 和子 教授
公衆衛生看護学	竹田 汐里	地域サロン参加者における組織コミットメントとその関連要因	佐伯 和子 教授	平野美千代 准教授
公衆衛生看護学	中島 彩華	都市部の民生委員による地域子育て支援行動の実態とその関連要因	平野美千代 准教授	青柳 道子 講師
助産学	仲谷 紗稀	助産師が行う超音波検査に対する妊婦のニーズ— 医師が行う超音波検査と比較して	佐川 正 教授	佐藤 洋子 教授 野口真貴子 准教授
助産学	松井 春菜	生後3～4か月児をもつ父親の抑うつ傾向と父親になる意識・ソーシャルサポートの関連	安積 陽子 准教授	宮島 直子 准教授
公衆衛生看護学	山本恵梨子	症状が進行する中で在宅パーキンソン病療養者がとらえる生活の中の主体性 —生活に制限がみえ始めた時期に焦点をあてて—	平野美千代 准教授	村田 和香 教授
看護学	小島 有沙	慢性疾患を有する入院患者のスキンテア発生に関連する皮膚状態の特徴とリスク因子	矢野 理香 教授	結城美智子 教授
看護学	平館ありさ	交代制勤務を行う看護職の生活リズムへの折り合いがストレスに与える影響	矢野 理香 教授	鷲見 尚己 准教授

VI. 教育活動

大学院博士後期課程論文・研究課題一覧

【保健科学コース】

科目群(領域)	氏名	論文・研究課題	主任指導教員	副指導教員
総合健康科学	上野 亮	着地動作における膝関節バイオメカニクスに対する下肢筋張力の影響	山中 正紀 教授	遠山 晴一 教授
総合健康科学	武田 賢太	足圧中心と体重心の同時フィードバックが静的姿勢制御に与える適応効果	浅賀 忠義 教授	萬井 太規 助教
総合健康科学	藤原 健祐	北海道における放射線診療と急性期脳梗塞診療の地理的アクセシビリティ	小笠原克彦 教授	齋藤 健 教授
先進医療科学	松谷 悠佑	Investigation of Cell Responses under Protracted Exposure to Ionizing Radiation	伊達 広行 教授	堤 香織 助教
総合健康科学	村上 優衣	自閉症傾向が顔の選好判断および脳活動に与える影響：機能的磁気共鳴画像法(fMRI)を用いた検討	境 信哉 教授	山本 徹 教授
総合健康科学	金 京室	短波長光への暴露が Motion sickness の感受性に及ぼす影響	境 信哉 教授	大槻 美佳 准教授
総合健康科学	長谷川直哉	視覚および聴覚のフィードバック練習による動的バランスの学習効果に関する研究	浅賀 忠義 教授	前島 洋 教授

論文提出による学位申請 論文・研究課題一覧

年度	授与学位	氏名	論文・研究課題	申請教員
平成 29 年度	博士(保健科学)	Jeffrey WANG	Imaging biomarkers of breast cancer derived from breast parenchyma (乳腺から派生した乳がんのイメージバイオマーカー)	伊達 広行 教授

VI. 教育活動

iii 保健科学院・医学部保健学科 FD 研修開催状況

保健科学院・医学部保健学科 FD 研修

日 時	平成 29 年 9 月 6 日 (水) 18 : 00 ~ 20 : 00
場 所	北海道大学大学院保健科学研究院多目的室 I
受 講 者	74 名
講 演 内 容	<p>テーマ：保健科学教育からイノベーションへのアプローチ 演題名：イノベーションはなぜ途絶えたかー科学立国日本の危機 講 師：京都大学大学院総合生存学館（思修館） 教授 山口 栄一 氏</p> <p>テーマ：一億総活躍社会の実現に向けて 演題名：多様な人材が存分に能力を発揮できる研究環境とは？ ～女性研究者支援の取組から～ 講 師：北海道大学人材育成本部女性者支援室 特任准教授 長堀 紀子 氏</p>

VI. 教育活動

iv 保健科学セミナー開催状況

保健科学セミナー開催状況

月 日		時 間	所 属	講 演 者	演 題
平成 29 年 6 月 1 日	(木)	16:30 ~ 18:00	福岡大学スポーツ科学部 福岡大学病院予防・抗加齢・再生医療センター	上原 吉就	HDL を標的にした心血管病治療： 人工 HDL の可能性
平成 29 年 7 月 6 日	(木)	10:30 ~ 12:00	電力中央研究所放射線安全研究センター	浜田 信行	「The 2011 ICRP statement on tissue reactions, and then」 (組織反応に関する ICRP の 2011 年声明とその後)
平成 29 年 7 月 10 日	(月)	16:30 ~ 18:00	① Department of Nutrition, University of California, Davis ② Department of Nutrition, University of California, Davis	① Robert Hackman ② Carl L. Keen	① Flavanols and Vascular Function ② Nutrition and Vascular Health: Beyond Flavan-3-ols
平成 29 年 9 月 6 日	(水)	18:00 ~ 20:00	①京都大学大学院総合生科学館(思修館) ②北海道大学人材育成本部女性者支援室	①山口 栄一 ②長堀 紀子	①イノベーションはなぜ途絶えたかー科学立国日本の危機 ②多様な人材が存分に能力を発揮できる研究環境とは？ ～女性研究者支援の取組～
平成 29 年 10 月 5 日	(木)	16:30 ~ 17:45	日本原子力発電株式会社	岸本 直衛	福島第一原子力発電所事故以降の規制基準について
平成 29 年 10 月 18 日	(水)	16:30 ~ 17:45	東北大学東北メディカル・メガバンク機構 東北大学大学院医学系研究科/AMED-LEAP	三枝 大輔	生体内メタボローム解析による疾患(がん)マーカー探索
平成 29 年 12 月 8 日	(金)	18:30 ~ 20:00	大阪大学大学院連合小児発達学研究科	森 悦朗	認知症医学総論
平成 30 年 2 月 9 日	(金)	10:00 ~ 14:30	広島国際大学保健医療学部	二宮 伸治	工学と看護のコラボレーションと将来展望

VI. 教育活動

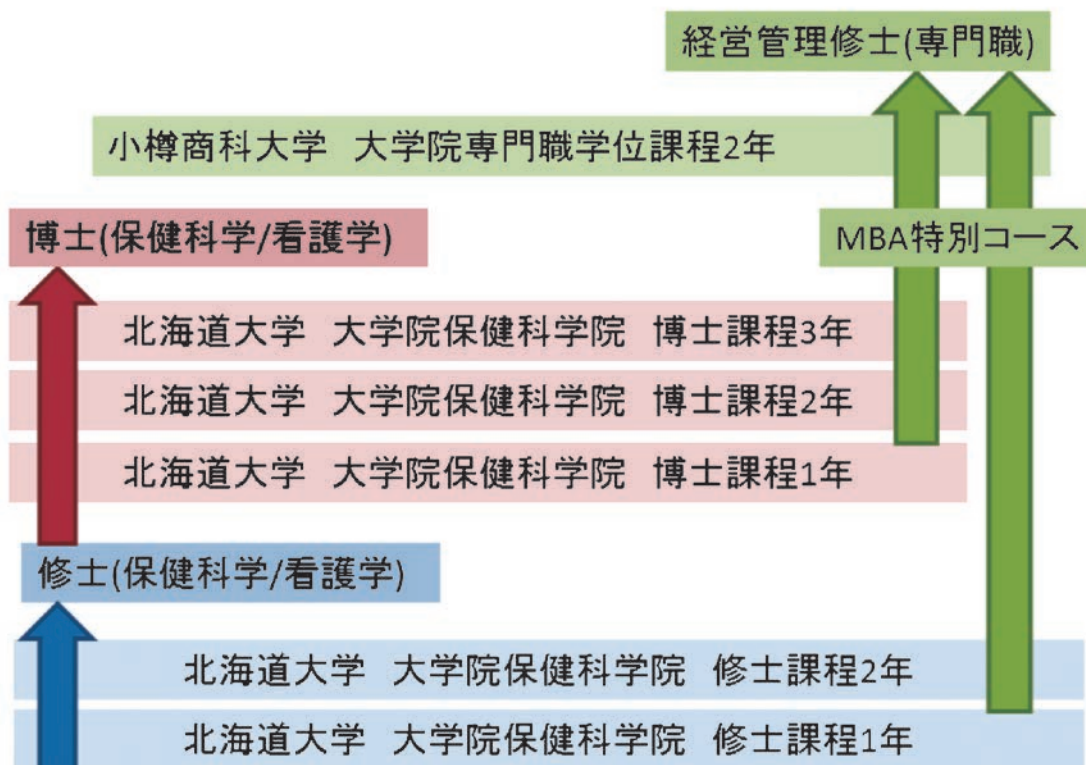
v 保健科学院－ M.B.A Double Degree

M.B.A. 特別コース

1. 概要

M.B.A. 特別コースは、保健科学院修士課程および博士課程に在籍している大学院生が、小樽商科大学商学研究科専門職課程アントレプレナー専攻(以下、小樽商大ビジネススクール)の一部科目を選択科目(単位互換)として6科目12単位を受講するものである。M.B.A. 特別コースを修了した学生は、保健科学院にて修士(保健科学/看護学)または博士(保健科学/看護学)取得した後、小樽商大ビジネススクールに入学し、保健科学院在籍中に小樽商大ビジネススクールで取得した単位と保健科学院で取得した一部の単位を単位数に加えることで、通常2年かかるM.B.A. 取得が在籍期間1年間で取得可能となる。修士課程の場合、3年で修士(保健科学/看護学)とMBAの2つの学位(ダブル・ディグリー)を、博士課程の場合、4年で博士(保健科学/看護学)とMBAの2つの学位(ダブル・ディグリー)を、取得できるメリットを有する。

小樽商大ビジネススクールは、平日、札幌駅西口の札幌サテライトで開講しており、保健科学院との移動は概ね10分程度と移動の負担も少ない。



2. 連携のメリット

近年、医療経営のニーズが高まっており、大学院保健科学院の修了者の多くが高度専門職となる中で、医療専門職としてのマネジメント能力が求められている。北海道大学大学院保健科学院と小樽商科大学大学院商学研究科が連携することにより、保健科学教育・看護学教育において経営管理教育が可能となる。それに伴い、北大と小樽商大の強みを生かした人材育成が可能となり時代の要請に対応した高度専門職教育の充実が可能となる。

VI. 教育活動

3. MBA 特別プログラム修了後の進路

これまでに10名以上が修了している。主な進路は、助産師や診療放射線技師などの医療専門職の他、医療経営コンサルタント、大学教員（医療情報系、保健系）、経営管理職（医療機関）、医療情報職、研究支援職、情報関連企業、等である。今後、医療行政職の他、検査技術・情報技術・リハビリテーション技術など保健科学をベースとした健康産業での起業家（アントレプレナー）に期待したい。

VI. 教育活動

vi 保健科学院合同シンポジウム開催状況

日 時	平成 29 年 5 月 30 日 (火)
場 所	北海道大学大学院保健科学研究院大会議室
内 容	「保健科学の”力”これからの『保健科学』を推進するために必要な能力は何か？」をテーマに、学生が7グループに分かれ、グループ毎に保健科学をキーワードとした実行可能なプランを提案・発表した。
参加者	47名

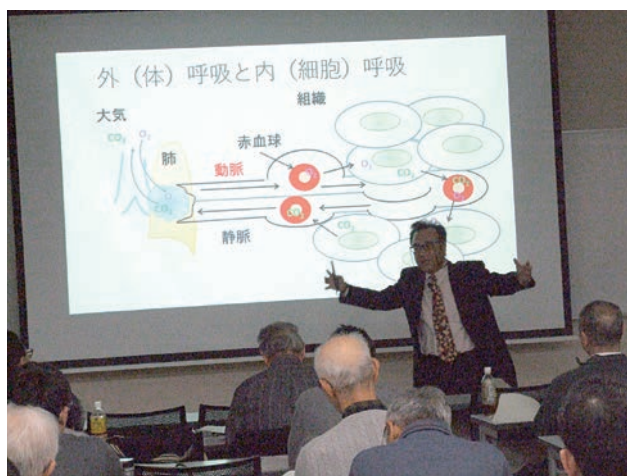


Ⅶ. 社会貢献

i 保健科学研究院公開講座開催状況

公開講座

日 時	平成 29 年 11 月 3 日 (金・文化の日) 13:00～16:00
場 所	北海道大学大学院保健科学研究院 E 棟 1 階多目的室
受 講 者	88 名
テーマ	ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ ※国立大学フェスタ 2017
講座内容	「痛みは病気のサイン！ー帯状疱疹後神経痛にならないためにー」 講師：北海道大学大学院保健科学研究院助教・進 藤 ゆかり 「生命をささえる血液のはなし」 講師：北海道大学大学院保健科学研究院准教授・政 氏 伸 夫 「脳のふしぎー脳機能の最新の知見からさまざまな症状への対応までー」 講師：北海道大学大学院保健科学研究院准教授・大 槻 美 佳



*講演風景



*参加者による質疑応答風景

Ⅳ. 顕彰及び研究助成制度

i 顕彰制度

保健科学研究院顕彰制度

顕彰制度の名称	所属分野・職名	受賞者名
保健科学研究院長賞	病態解析学分野・教授	惠 淑 萍
保健科学研究院優秀論文賞	病態解析学分野・講師	櫻 井 俊 宏

保健科学院顕彰制度

顕彰制度の名称	所属課程(所属コース)	受賞者名
保健科学院長賞	修士課程(保健科学コース) 博士後期課程(保健科学コース)	森 諒 輔 松 谷 悠 佑
保健科学院研究奨励賞	(受賞対象者なし)	
保健科学院修士課程研究発表賞	修士課程(保健科学コース) 修士課程(保健科学コース) 修士課程(保健科学コース)	眞 野 晃 次 松 下 瑞 江 中 村 賢太郎

医学部保健学科顕彰制度

顕彰制度の名称	所属専攻	受賞者名
保健学科長賞	看護学専攻 放射線技術科学専攻 検査技術科学専攻 理学療法学専攻 作業療法学専攻	吉 田 拓 磨 越 後 雷 蔵 野々川 茉 佑 北 原 美 佳 青 木 朱 里
保健学科卒業研究優秀賞	看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 看護学専攻 放射線技術科学専攻 放射線技術科学専攻 検査技術科学専攻 検査技術科学専攻 理学療法学専攻 作業療法学専攻	倉 侑 菜 黒 澤 和 也 小 川 結 衣 長 井 菜 摘 竹 内 啓 太 寺 邑 啓 太 仲 門 菜 月 富 田 優 理 戎 駿 介 江 口 みのり

VIII. 顕彰及び研究助成制度

ii 研究助成制度

研究助成制度

所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考	教授会附議日(参考)
医用生体理工学 分野・教授	神島 保	Computer-Based Radiographic Quantification of Joint Space Narrowing Progression Using Sequential Hand Radiographs: Validation Study in Rheumatoid Arthritis Patients from Multiple Institutions	Journal of Digital Imaging	corresponding author	H29.4.20
基盤看護学分野・ 准教授	矢野 理香	Diversity changes of microbial communities into hospital surface environments	Journal of Infection and Chemotherapy	first author	H29.4.20
基盤看護学分野・ 准教授	矢野 理香	Pilot study on benefits of applying a hot towel for 10 s to the skin of elderly nursing home residents during bed baths: Towards safe and comfortable bed baths	Geriatric Nursing	corresponding author	H29.4.20
医用生体理工学 分野・助教	堤 香織	Inorganic polyphosphate enhances radio-sensitivity in a human non-small cell lung cancer cell line, H1299	Tumor Biology	first author	H29.4.20
生活機能学分野・ 教授	境 信哉	Effect of exposure to short-wavelength light on susceptibility to motion sickness	NeuroReport	corresponding author	H29.4.20
基盤看護学分野・ 准教授	鷲見 尚己	Health Behavior Regarding Cardiovascular Diseases Among Nepali Adults	Journal of Community Health	corresponding author	H29.5.18
病態解析学分野・ 教授	石津 明洋	Prediction of response to remission induction therapy by gene expression profiling of peripheral blood in Japanese patients with microscopic polyangiitis	Arthritis research & therapy	first author	H29.5.18
病態解析学分野・ 教授	惠 淑萍	Absolute quantification of cholesteryl esters using liquid chromatography-tandem mass spectrometry uncovers novel diagnostic potential of urinary sediment	Steroids	corresponding author	H29.5.18
病態解析学分野・ 講師	櫻井 俊宏	Dietary α -cyclodextrin reduces atherosclerosis and modifies gut flora in apolipoprotein E-deficient mice	Molecular nutrition & food research	first author	H29.5.18
健康科学分野・ 教授	山内 太郎	Development of a screening tool to predict malnutrition among children under two years old in Zambia	Global Health Action	corresponding author	H29.6.15

VIII. 顕彰及び研究助成制度

所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考	教授会附議日(参考)
医用生体理工学 分野・教授	神島 保	Radiographic temporal subtraction analysis can detect finger joint space narrowing progression in rheumatoid arthritis with clinical low disease activity	Acta Radiologica	corresponding author	H29.7.20
医用生体理工学 分野・教授	神島 保	Visceral adipose tissue area measurement at a single level: can it represent visceral adipose tissue volume?	British Institute of Radiology	corresponding author	H29.7.20
病態解析学分野・ 助教	益田紗季子	Measurement of NET formation in vitro and in vivo by flow cytometry	Cytometry Part A	first author	H29.7.20
機能回復学分野・ 教授	浅賀 忠義	Adaptation effects in static postural control by providing simultaneous visual feedback of center of pressure and center of gravity	Journal of PHYSIOLOGICAL ANTHROPOLOGY	corresponding author	H29.7.20
健康科学分野・ 助教	陳 震	Profiling of cardiolipins and their hydroperoxides in HepG2 cells by LC/MS	ANALYTICAL AND BIOANALYTICAL CHEMISTRY	first author	H29.7.20
病態解析学分野・ 准教授	政氏 伸夫	Quantitative Distinction of Morphological Characteristics of White Blood Cells in Peripheral Blood Through Texture Analysis Using Gray Level Co-Occurrence Matrix	Clinical laboratory	corresponding author	H29.7.20
医用生体理工学 分野・教授	神島 保	Cartilage quantification using contrast-enhanced MRI in the wrist of rheumatoid arthritis: cartilage loss is associated with bone marrow edema	British Institute of Radiology	corresponding author	H29.7.20
基盤看護学分野・ 教授	尾崎 倫孝	Detection of Necroptosis in Ligand-Mediated and Hypoxia-Induced Injury of Hepatocytes Using a Novel Optic Probe Detecting Receptor-Interacting Protein (RIP)1/RIP3 Binding	Oncology Research	corresponding author	H29.8.17
医用生体理工学 分野・講師	杉森 博行	Fast acceleration of ASL-based time-resolved magnetic resonance angiography by acquisition of control and labeled images in the same shot (fast ACTRESS): An optimization study Magnetic Resonance Imaging	Magnetic Resonance Imaging	first author	H29.8.17
機能回復学分野・ 教授	浅賀 忠義	Learning effects of dynamic postural control by auditory biofeedback versus visual biofeedback training	Gait & Posture	corresponding author	H29.8.17
病態解析学分野・ 助教	古川 貴之	An efficient glycoblotting-based analysis of oxidized lipids in liposomes and a lipoprotein	Chembiochem	first author	H29.8.17
病態解析学分野・ 教授	惠 淑洋	Change in Plasma Total, Esterified and Non-esterified Capric Acid Concentrations during a Short-term Oral Administration of Synthetic Tricaprin in Dogs	Analytical Sciences	corresponding author	H29.8.17

VIII. 顕彰及び研究助成制度

所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考	教授会附議日(参考)
健康科学分野・教授	小笠原克彦	Accessibility to Tertiary Stroke Centers in Hokkaido, Japan: Use of Novel Metrics to Assess Acute Stroke Care Quality	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases	corresponding author	H29.9.21
健康科学分野・助教	趙 瑤瑤	Identification and Quantitation of C-C Location Isomers of Unsaturated Fatty Acids by Epoxidation Reaction and Tandem Mass Spectrometry	Analytical Chemistry	first author	H29.9.21
医用生理工学分野・教授	伊達 広行	Markov chain Monte Carlo analysis for the selection of a cell - killing model under high - dose - rate irradiation	Medical Physics	corresponding author	H29.9.21
病態解析学分野・講師	櫻井 俊宏	Development of a novel fluorescent activity assay for lecithin:cholesterol acyltransferase	Annals of clinical biochemistry	first author	H29.9.21
研究院長付・助教	石川 智基	Forecasting the regional distribution and sufficiency of physicians in Japan with a coupled system dynamics - geographic information system model	Human Resources for Health	first author	H29.9.21
基盤看護学分野・教授	尾崎 倫孝	A photo-activatable Akt probe - A new tool to study Akt-dependent physio-pathology of cancer cells	Oncology Research	corresponding author	H29.9.21
病態解析学分野・助教	大久保寅彦	Walker occupancy has an impact on changing airborne bacterial communities in an underground pedestrian space, as small-dust particles increased with raising both temperature and humidity	PloS one	first author	H29.9.21
機能回復学分野・教授	山中 正紀	Coupling motion between rearfoot and hip and knee joints during walking and single-leg landing	Journal of Electromyography and Kinesiology	corresponding author	H29.10.19
基盤看護学分野・教授	鷺見 尚己	Validity and reliability of the Japanese version of the Care Transitions Measure	The International Journal of Health Planning and Management	corresponding author	H29.10.19
病態解析学分野・教授	山口 博之	Impact of capsaicin, an active component of chili pepper, on pathogenic chlamydial growth (Chlamydia trachomatis and Chlamydia pneumoniae) in immortal human epithelial HeLa cells	Journal of Infection and Chemotherapy	corresponding author	H29.10.19
機能回復学分野・教授	前島 洋	Effects of long-term exercise and low-level inhibition of GABAergic synapses on motor control and the expression of BDNF in the motor related cortex	Neurological Research	corresponding author	H29.11.16

VIII. 顕彰及び研究助成制度

所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考	教授会附議日(参考)
機能回復学分野・教授	前島 洋	Exercise enhances cognitive function and neurotrophin expression in the hippocampus accompanied by changes in epigenetic programming in senescence-accelerated mice	Neuroscience Letters	first author	H29.11.16
病態解析学分野・教授	石津 明洋	Vanishing Immunoglobulins: The Formation of Pauci-Immune Lesions in Myeloperoxidase-Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-Associated Vasculitis	Nephron	corresponding author	H29.12.21
機能回復学分野・教授	山中 正紀	Quadriceps force and anterior tibial force occur obviously later than vertical ground reaction force: a simulation study	BMC Musculoskeletal Disorders	corresponding author	H29.12.21
病態解析学分野・助教	岡田 一範	Novel echocardiographic method to assess left ventricular chamber stiffness and elevated end-diastolic pressure based on time-velocity integral measurements of pulmonary venous and transmitral flows	Eur Hear J Cardiovasc Imaging	first author	H29.12.21
医用生体理工学分野・教授	伊達 広行	Estimation of the radiation-induced DNA double-strand breaks number by considering cell cycle and absorbed dose per cell nucleus	Journal of Radiation Research	corresponding author	H29.12.21
病態解析学分野・教授	山口 博之	Amoebal endosymbiont Neochlamydia protects host amoebae against Legionella pneumophila infection by preventing Legionella entry	Microbes and Infection	corresponding author	H30.1.11
機能回復学分野・助教	吉田 一生	Flow experience enhances the effectiveness of attentional training: A pilot randomized controlled trial of patients with attention deficits after traumatic brain injury	Neuro Rehabilitation	first author	H30.1.11
病態解析学分野・講師	松尾 淳司	Long-term survival of Naegleria polaris from Antarctica after 10 years of storage at 4 °C	Parasitology Research	first author	H30.2.15
医用生体理工学分野・教授	神島 保	Quantification of hand synovitis in rheumatoid arthritis: Arterial mask subtraction reinforced with mutual information can improve accuracy of pixel-by-pixel time-intensity curve shape analysis in dynamic MRI	journal of magnetic resonance imaging	corresponding author	H30.3.15
病態解析学分野・教授	石津 明洋	Brain-derived neurotrophic factor induces angiogenin secretion and nuclear translocation in human umbilical vein endothelial cells	Pathology - Research and Practice	corresponding author	H30.3.15

VIII. 顕彰及び研究助成制度

所属・職名	氏名	原著論文名	掲載雑誌	備考	教授会附議日(参考)
健康科学分野・ 教授	齋藤 健	Elucidation of the mechanism of changes in the antioxidant function with the aging in the liver of the senescence-accelerated mouse P10 (SAMP10)	Experimental Gerontology	corresponding author	H30.3.15
医用生理工学 分野・教授	伊達 広行	Integrated Modelling of Cell Responses after Irradiation for DNA-Targeted Effects and Non-Targeted Effects	Scientific Reports	corresponding author	H30.3.15

IX. 中央研究室活動報告

i 中央研究室活動報告書

平成 29 年度中央研究室活動報告書

中央研究室長 尾崎 倫孝

1. 中央研究室の管理

- ・遺伝子組換・培養実験室に供給している特殊ガス（炭酸ガスおよび窒素ガス）のガス圧や残量のチェック、発注等を行った。
- ・液体窒素保存容器を新規設置したボンベ室の酸素濃度計の管理を行った。
- ・コア・リサーチ・ラボ内に設置のドラフトチャンバーの点検を行った。
- ・中央研究室のホームページを正式に設置し管理・運営を行った。
- ・全学停電に対応するため、CO₂ インキュベーターの電源確保を行った。

2. 研究機器の管理

- ・共用研究機器類のウェブ予約システムの管理・運営を行った。
- ・共用研究機器類の保守（消耗部品類の交換や可能な限りの修理・修復等）や超純水製造装置のメーカーによる定期的なメンテナンスの手配を行った。
 - 1) CO₂ インキュベーターの UV ランプ交換
 - 2) 超純水製造装置の水漏れを修復
 - 3) オートクレーブによる電源容量オーバー解消のための電源工事手配
- ・フローサイトメーターの試薬管理（在庫の確認、発注）。
- ・液体窒素の残量管理（発注・納入業務）と供給を行った。

3. 研究機器類の新規導入

- ・液体窒素保存容器（30L）と液体窒素汲み出し器具を導入した。

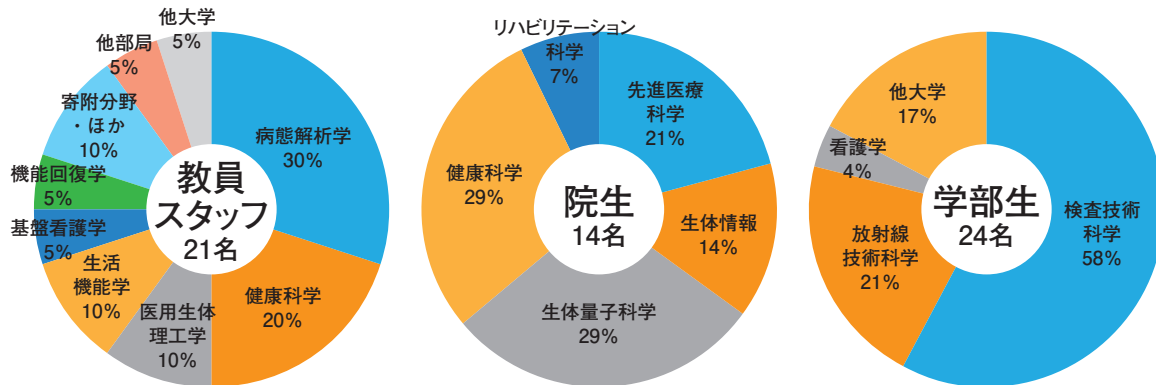
IX. 中央研究室の活動報告

4. 利用登録者

・本年度の中央研究室利用登録者数（申請書ベース）は以下である。

コア・リサーチ・ラボの利用登録者数 : 58名
 遺伝子組替・細胞培養実験室の利用登録者数 : 30名

上記の内訳は以下のグラフで示す（重複登録を除いた数値）。



5. 主な研究機器の稼働実績（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

1) フローサイトメーター（コア・リサーチ・ラボ設置）

使用者数（延べ数） : 42人
 総稼働時間数 : 60時間
 総測定検体数 : 552検体

2) リアルタイムPCR（コア・リサーチ・ラボ設置）

使用者数（延べ数） : 46人
 総稼働時間数 : 167時間
 総検体数 : 4511検体

6. 液体窒素供給実績（平成29年10月10日～平成30年3月31日）

供給件数 : 21件
 総供給量 : 380L

X. 第三期中期目標・中期計画

保健科学研究所・保健科学院 第三期(平成28年度～平成33年度)中期目標・中期計画

中期目標	中期計画
1. 研究に関する目標を達成するための措置	
(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置	<ul style="list-style-type: none"> ①世界の健康問題解決のための保健科学・健康科学の研究拠点を目指した、分野横断的研究をさらに推進する。 ②保健科学研究の自然科学から社会科学に及ぶ分野横断的融合研究を促進する。「こころと脳」に関する統合的研究拠点の形成、高齢者保健医療の横断的研究基盤の形成、性感染症予防に関する研究プロジェクトの立ち上げ) ③アジアの研究拠点を目指し、国際的かつ先端的・独創的な保健科学・健康科学研究を推進する。 ④海外協定校を増やし、トップレベルの研究者との共同研究を進める。 ⑤国内外の社会的課題を解決するためのイノベーション研究を創出する。 ⑥北海道の特色をいかした産学官の連携研究を推進し、大型外部資金の獲得を目指す。 ⑦博士研究員のポストを確保し、優秀な若手の海外研究者を積極的に招聘する。 ⑧博士課程修了者を大学教員及び研究施設への就職を推進する。
(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置	<ul style="list-style-type: none"> ①保健科学研究所所属の国際・広報コーディネーターとURAステーションとの連携強化。 ②オープンファシリティの登録を推進する。
2. 社会との連携や社会貢献及び地域を指向した教育・研究に関する目標を達成するための措置	
	<ul style="list-style-type: none"> ①北海道に根ざした保健科学の教育研究拠点として、「知」を地域に還元する。 ②総合博物館において医学部保健学科・保健科学研究所の展示・公開、情報発信を行う。 ③市民公開講座・公開セミナー・公開講演会を積極的に行っていく。 ④地方自治体との連携を強化し、共同研究を行い、結果を提言していく。 ⑤広報誌及びホームページを充実させ、地域社会への広報活動を積極的に行う。 ⑥各種職能団体との連携を強化し、継続教育プログラムを構築する。 ⑦北海道型の社会的課題を解決するための地域に根差したイノベーションを創出する。 ⑧地域社会との共同研究を積極的に推進し、その研究成果の地域還元を図る。

X. 第三期中期目標・中期計画

中期目標	中期計画
3. その他の目標を達成するための措置	
(1) グローバル化に関する目標を達成するための措置	<ul style="list-style-type: none"> ① アジアの研究拠点を目指し、国際的かつ先端的・独創的な保健科学研究を推進する。 ② 海外協定校を増やし、トップレベルの研究者との共同研究を進める。 ③ 複数の国にわたる海外大学との学生交流を推進する。 ④ 保健学科及び保健科学院の英文ホームページを充実させるとともに、連携大学を中心に留学希望者を募集する。 ⑤ 保健科学に関するサマー・インスティテュート及びラーニング・サテライトを実施し、海外大学との学生交流を行う。 ⑥ 最先端の医療技術に関する講義・実習を中心としたサマー・インスティテュートを開講する。
4. 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置	
	① 外国人教員の採用を促進する。
5. 外部資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置	
	① 産学官連携による健康イノベーションに係る研究・社会実装を推進する。
6. 教育に関する目標を達成するための措置	
(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	<ul style="list-style-type: none"> ① 異文化理解を深め、国内外への発信力を高めるために新渡戸カレッジ・新渡戸スクールを推進する。 ② 保健科学の国際的指導者の育成を目的として、現在開講している国際保健学を、WHO 等との連携を拡充させるとともに、英語で開講する。 ③ 国際的な実践能力を身に付けるために、協定大学での実践的な研修や開発途上国でのフィールド調査の機会を増やすとともに、これらを学士課程で「国際保健学演習」としてプログラム化する。大学院課程では、研究成果の発表を促進するために、「プレゼンテーション演習」「英文論文演習」「実践医療統計学演習」を設置する。 ④ 臨床を想定した問題解決型保健科学教育を推進する。 ⑤ アクティブ・ラーニングを推進するため、講義室、ミーティングルームや ICT 環境の整備を進める。 ⑥ 学士課程で専攻の壁を超えた複眼的な視野を持つ研究推進科目「保健科学研究入門」を設置する。 ⑦ 保健学科で開講されている学科共通科目（社会保障・福祉論、保健解剖学、健康食品学など）の他学部学生への開放を進める。 ⑧ 学士課程で医療倫理・医療安全に関わる科目の設置を進める。 ⑨ クォーター制を導入する。 ⑩ アセスメント・ポリシーを策定する。 ⑪ アセスメント・ポリシーの下、授業アンケート及び卒業生・修了生アンケートを継続的に実施し、PDCA を回しながら、継続的な改善を進める。 ⑫ 専攻ごとにカリキュラムマップを作成し、学生への普及をはかる。 ⑬ コチュテル等の共同教育プログラムの導入を推進する。
(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置	
	① 英語授業に対応するための FD を実施する。

大学院保健科学研究院・大学院保健科学院(医学部保健学科)
年報(平成29年4月～平成30年3月)

発行日：平成30年9月28日

発行責任者：大学院保健科学研究院長 齋藤 健

編集：点検・評価室 年報編集専門部会

齋藤 健(部会長)

井上 馨, 神島 保, 鷺見尚己

青柳道子, 小畑 慶子, 寒川美奈, 趙 瑤瑤

松嶋敏幸(事務課長), 古坐 要(庶務担当係長)

連絡先：医学系事務部保健科学研究院事務課庶務担当

電話 011-706-3315

E-mail shomu@hs.hokudai.ac.jp

印刷会社名：柏楊印刷株式会社